

加 古 川 市
子どもの読書活動推進計画
(第4次)

加 古 川 市

目 次

第1章 はじめに

国・県等の動向と第4次計画策定の趣旨	1
--------------------	---

第2章 基本的な考え方

1 基本理念	2
2 基本方針	2
3 計画の対象	2
4 計画の期間	2

第3章 加古川市子どもの読書活動推進の取組状況

取組状況総括	3
主な活動内容とその成果・課題	3

第4章 子どもの読書活動推進のための取組

1 子どもが本と出会い、親しむ機会の提供と、読書の楽しさを実感できる環境づくり	
(1) 家庭における読書環境の整備の促進	11
(2) 地域等における読書環境の整備	11
(3) 公共図書館における読書環境の整備	12
2 学校園等における読書習慣の形成と学習支援機能の充実	
(1) 認定こども園・幼稚園・保育所における読書環境の整備	15
(2) 小学校・中学校・義務教育学校における読書環境の整備	15
(3) 保育士、保育教諭、教職員の知識・技能の向上	16
3 地域社会の支えとボランティア育成の拡大	
(1) 校種間の連携、交流による支援	17
(2) 市民ボランティアの育成強化	17
4 子どもの読書活動に関する啓発と理解の促進	
(1) 保護者を含めた市民への啓発	18
(2) 広報の推進	18

第5章 子どもの読書活動推進計画の取組目標設定

＊第4次計画の取組指標	19
-------------	----

第6章 計画の推進について

＊加古川市子どもの読書活動推進連絡会	20
--------------------	----

【資料編】

1 子どもの読書活動実態調査アンケート調査報告	全65P
2 子どもの読書活動の推進に関する法律	全2P
3 加古川市子どもの読書活動推進計画（第4次）策定経過	全2P
4 用語解説(五十音順)	全2P

加古川市子どもの読書活動推進計画（第4次）

第1章 はじめに

国・県等の動向と第4次計画策定の趣旨

子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものであり、社会全体で積極的にそのための環境整備を推進していくことは極めて重要なことです。

国は、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的として、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定しました。この法律に基づき、平成14年8月に、全ての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、環境整備を積極的に推進することを基本理念とする「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定しました。

その後、社会情勢や子どもの読書活動を取り巻く状況の変化等を踏まえ、平成20年に第二次計画を、平成25年に第三次計画を、平成30年に第四次計画を、令和5年に第五次計画を策定し、家庭や地域、学校等の連携・協力を重視した施策に取り組んでいます。

兵庫県においては、平成16年3月に「ひょうご子どもの読書活動推進計画」を策定し、その後、平成21年に第2次計画を、平成27年には第3次計画を、令和2年には第4次計画を、令和6年度には第5次計画を策定し、子どもの読書活動推進の取組が進められています。

加古川市では、国や兵庫県の動向を踏まえ、平成22年に「加古川市子どもの読書活動推進計画」を、平成28年に「加古川市子どもの読書活動推進計画（第2次）」を、令和3年に「加古川市子どもの読書活動推進計画（第3次）」（以下「第3次計画」という。）を策定し、子どもの読書活動の推進に取り組んできました。

この第3次計画が、令和6年度末で計画期間を満了することから、令和5年7月に市内の小中学生、中学生、高校生、未就学児の保護者等を対象に子どもの読書活動についてのアンケート調査を実施し、読書に関する意識や読書実態の把握を行いました。第3次計画の実施により、子ども向け電子書籍*の点数を増加させるなど、一定の成果を得ることができましたが、一方でコロナ禍のため子どもの読書活動を取り巻く環境が停滞し、学校段階が進むにつれて子どもの読書離れが顕著になる傾向が改善されていません。

これらの状況を踏まえ、今後5年間を見据え、さらなる子どもの読書活動の推進に必要と考えられる施策の基本的方針と具体的な方策を明らかにするため、新たな「加古川市子どもの読書活動推進計画」（第4次計画）（以下「第4次計画」という）を策定し、行政、家庭、地域、学校及び関係団体が一層協力し、連携を深め、子どもの読書活動推進のために様々な機会提供と環境整備を進めていくものです。

第2章 基本的な考え方

国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」及び兵庫県の「ひょうご子どもの読書活動推進計画」を踏まえ、加古川市総合計画、加古川市教育振興基本計画との整合性を図りながら、第4次計画は、第3次計画の基本理念を継承しつつ、第3次計画の成果や課題、「子どもの読書活動実態調査アンケート」等の結果を踏まえ、計画を策定します。

1 基本理念

「すべての子どもが自主的な読書活動を通じて豊かなこころを育み、生きる力を身につけることができる読書環境づくり」とします。

2 基本方針

子どもの読書活動の推進にあたっては、子どもの自主性を尊重し、子どもに読書の楽しさを伝え、実感する場を提供するとともに子どもの発達段階に応じた読書環境づくりが必要です。その上で、家庭内での読書を重視しつつ、保護者を含めた市民全体での取組を進めます。

このような視点から、次のように定めます。

- (1) 子どもが本と出会い、親しむ機会の提供と、読書の楽しさを実感できる環境づくり
- (2) 学校園等における読書習慣の形成と学習支援機能の充実
- (3) 地域社会の支えとボランティア育成の拡大
- (4) 子どもの読書活動に関する啓発と理解の促進

3 計画の対象

この計画の対象は、概ね18歳以下の子どもとします。

また、上記基本方針の視点から、子どもの保護者、子どもの読書推進活動に関わる市民ボランティア、保育士、保育教諭、教職員、行政関係者等も対象とします。

4 計画の期間

この計画の期間は、令和7年度から令和11年度までの5年間とし、必要に応じて計画を見直します。

第3章 加古川市子どもの読書活動推進の取組状況

取組状況総括

加古川市では、第3次計画の4つの基本方針に沿って、子どもの読書活動の推進に取り組んできました。特に小学校、中学校の学校図書館においては、図書資料の充実に努め、教科学習における図書館の利用が増加しました。その結果、学校図書館は「学習センター」や「情報センター」としての役割を担い、児童生徒の学習活動の支援が進みつつあります。

しかしながら、この4年間はコロナ禍の影響により、学校園の休校、公共図書館*の休館をはじめ様々な施設において利用制限が設けられました。中でも行事・催し物の中止や参加人数の制限のため、子どもたちが本と出会い、親しむ機会が大幅に失われました。また、市民ボランティアによる学校図書館や公共図書館でのおはなし会*や読み聞かせ*、ブックトーク*などの読書活動や学校図書館での環境整備も長期にわたり制約されました。

そのような状況下でも、子ども向け電子書籍の点数を増やし、小学生、中学生を対象に、GIGAスクール*用端末にも対応した電子書籍を公開するなど、子どもの読書環境の整備に取り組んできました。また、児童クラブに広く周知し、おはなし会や読み聞かせを実施することで、子どもたちへ読書の楽しさを伝える機会を増やしました。

さらに「家読*（うちどく）」を推進するために、啓発ちらしの配付や公共図書館でのスタンプラリーの実施により、子どもが保護者とともに読書することの意義を広めました。

しかし、子どもの読書活動実態調査アンケートでは子どもや保護者の公共図書館離れの傾向が見られ、引き続き読書環境の整備や、読書意欲の向上につながる取組を推進していくことが重要となっています。

主な活動内容とその成果・課題

1 子どもが本と出会い、親しむ機会の提供と、読書の楽しさを実感できる環境づくり

活動内容及び成果・課題

・4年前と比較すると、認定こども園*・幼稚園・保育所等の施設数合計は、66園から73園に増加しました。特に法人の認定こども園が大幅に増加しているなかで、各園における児童図書の蔵書整備が追いつかない状況にあります。

〔各園・施設あたりの平均蔵書冊数〕

	令和元年度	令和5年度	増 減
認定こども園	1, 6 4 2冊	1, 1 8 4冊	▲4 5 8冊
幼 稚 園	8 0 2冊	8 6 1冊	5 9冊
保 育 所	9 4 0冊	9 9 0冊	5 0冊
子育てプラザ*	1, 0 0 0冊	7 9 4冊	▲2 0 6冊

- ・認定こども園・保育所のうち、絵本・児童書の貸出の実施しているのは、約半数の園にとどまります。

〔絵本・児童書の貸出の実施〕

	令和元年度	令和５年度	増 減
認定こども園	４６％	５６％	１０pt.
幼稚園	６８％	８８％	２０pt.
保育所	５０％	４２％	▲８pt.

- ・認定こども園・幼稚園・保育所では、継続的に絵本の読み聞かせを行い、またその回数は減少しましたが、１回あたりの時間は若干増加しています。

〔１週間の読み聞かせ回数及び１回あたりの時間〕

	令和元年度		令和５年度		増 減	
	１０回以上	１０分以上	１０回以上	１０分以上	１０回以上	１０分以上
認定こども園	５４％	７９％	５６％	１００％	２pt.	２１pt.
幼稚園	１１％	７９％	６％	８９％	▲５pt.	１０pt.
保育所	７９％	７２％	７５％	８３％	▲４pt.	１１pt.
子育てプラザ	５０％	１００％	０％	５０％	▲５０pt.	▲５０pt.

〔年間読み聞かせ（おはなし会等）回数及び延べ参加人数〕

	令和元年度		令和５年度		増 減	
	回数	延べ人数	回数	延べ人数	回数	延べ人数
公共図書館	３２３回	６，０４４人	４３１回	８，２６５人	１０８回	２，２２１人

- ・認定こども園・幼稚園・保育所ともに、公共図書館との連携では、実施していないという回答が依然として多いですが、４年前と同様に読み聞かせを中心としたニーズがあります。
- ・認定こども園・幼稚園・保育所に行った調査では、読書環境の問題点や課題として、「保護者の認識の格差」が、従来から高い数値を占めています。
- ・家庭の読書環境としては、全ての学年で家にある自分の本が１０冊未満の生徒が３分の１以上います。しかし、小学生では前回調査時から減少しています。

〔家に 10 冊以上自分の本がある子ども〕

	令和元年度	令和5年度	増 減
小学校中学年	9 4 %	7 5 %	▲ 1 9 pt.
小学校高学年	7 6 %	7 2 %	▲ 4 pt.
中学生	6 3 %	6 6 %	3 pt.
高校生	—	6 6 %	—

- ・「学校以外の図書館の利用状況」については、「よく利用する」または「時々利用する」の割合は学年が上がるにつれて減少し、全ての学年において前回調査時から減少しています。

〔学校以外の図書館をよくまたは時々利用する子ども〕

	令和元年度	令和5年度	増 減
小学校低学年	6 9 %	6 4 %	▲ 5 pt.
小学校中学年	5 6 %	5 1 %	▲ 5 pt.
小学校高学年	4 6 %	4 4 %	▲ 2 pt.
中学生	2 8 %	2 6 %	▲ 2 pt.
高校生	—	2 5 %	—

- ・全ての学年において、「もっといろいろな本をそろえる」ことを公共図書館に求めており、特に中学生は、3分の1近くが「もっといろいろな本をそろえる」ことを求めています。
- ・全ての児童が電子書籍を利用できるよう、令和5年度より「読み放題（児童書）」を1パック 50 点導入しました。また、令和6年度には4パック 172 点導入し、環境を整備しています。

〔「読み放題（児童書）」ログイン回数（令和5年度7月～3月の9か月間実績）〕

学校利用者	延べ利用回数
市内小学校1年生～6年生	1 3, 5 0 1 回

2 学校における読書環境の整備

活動内容及び成果・課題

- ・小・中学校において、図書資料の充実に努めた結果、蔵書冊数が増え、学校図書館図書標準*冊数の充足率が向上しました。
- ・小・中学校ともに、今後公共図書館との連携強化として、選書支援等の業務相談やボランティアの育成・派遣が求められています。
- ・小学校の貸出冊数の推移については、4年前よりは増加しています。中学校においても、

貸出冊数は増加していますが、特定の学校が増加しているのみで、全体としては減少傾向です。

- ・小学校においてコロナ禍のためか、ボランティアが活動できなかった学校が倍近くになりました。
- ・小・中学校ともに、今後公共図書館との連携強化として、おはなし会が求められています。
- ・小・中学校ともに、「図書室担当職員確保（学校司書*の配置）」の要望が最も高く、次いで「蔵書の充実や図書購入予算確保」が必要と考えられています。
- ・小学校の「図書」の時間については、学年が上がるにつれて、調べ学習*や「国語」の授業を行うようになっていきます。
- ・各校の平均蔵書冊数は、小学校 8,832 冊、中学校 11,508 冊、特別支援学校 4,418 冊、高等学校 30,607冊でした。全国平均（2023 年度「学校図書館調査」）の蔵書冊数である小学校 9,965 冊、中学校 12,244 冊、高等学校 26,534 冊と比較すると、小・中学校では依然として全国平均を下回っています。

〔蔵書冊数〕

	令和元年度	令和5年度	増 減
小学校 28校	243,180冊	247,307冊	4,127冊
中学校 12校	122,367冊	138,097冊	15,730冊
特別支援学校 1校	4,586冊	4,418冊	▲168冊
高等学校	—	183,642冊	—
公民館図書室 (児童書・絵本)	4,412冊	7,140冊	2,728冊

〔学校図書館図書標準冊数の充足率〕

	令和元年度	令和5年度	増 減
小学校 28校	90%	97%	7pt.
中学校 12校	78%	85%	7pt.
特別支援学校 1校	55%	52%	▲3pt.

〔司書教諭*及び学校司書の配置状況（令和5年度）〕

	司書教諭	学校司書
小学校 28校	28校	0校
中学校 12校	12校	0校

- ・ 1 か月に 1 冊も本を読まない子どもの割合（不読率）は、小学校高学年は全国平均（小学校高学年 7.0%）より低いが、中学生、高校生は全国平均（中学生 13.1%、高校生 43.5%）より高くなっている。

〔1 か月に 1 冊も本を読まない子ども〕

	令和元年度	令和 5 年度	増 減
小学校中学年	2 %	4 %	2 pt.
小学校高学年	6 %	5 %	▲ 1 pt.
中学生	9 %	1 5 %	6 pt.
高校生	—	5 0 %	—

- ・ 読書が好きな児童生徒の割合は、全学年で 7 割以上となっており、小学校中学年では 1 か月の読書冊数は減少傾向にあります。

〔1 か月に 5 冊以上本を読む子ども〕

	令和元年度	令和 5 年度	増 減
小学校中学年	6 4 %	5 9 %	▲ 5 pt.
小学校高学年	4 5 %	4 7 %	2 pt.
中学生	1 8 %	2 1 %	3 pt.
高校生	—	6 %	—

- ・ 令和 5 年度の「全国学力・学習状況調査」結果では、「読書は好き」と答えた児童の方が、正答率が高い傾向がみられました。小学校国語において「書くこと」で全国平均回答率を下回っています。（「書くこと」の全国平均回答率 26.7%、加古川市平均回答率 25.0%。）
- ・ 小・中学校での学校図書館の利用については、利用回数が 0 回の児童の割合が若干減少していますが、中学生では 8 割、高校生では 9 割の生徒が 1 週間に 1 回も学校図書館を利用していないという課題があります。

〔1 週間に学校図書館を 1 回も利用しない子ども〕

	令和元年度	令和 5 年度	増 減
小学校中学年	7 %	7 %	0 pt.
小学校高学年	3 0 %	2 4 %	▲ 6 pt.
中学生	8 3 %	7 9 %	▲ 4 pt.
高校生	—	9 1 %	—

3 関係機関の連携・協力による地域社会全体での取組の推進

活動内容及び成果・課題

- ・学校園連携ユニット*では、多くの学校において（読み聞かせや図書寄贈の呼びかけ等）の取組が実施できていません。

〔学校園連携ユニットの取組〕

	令和元年度	令和5年度	増 減
小学校 28校	1校	2校	1校
中学校 12校	3校	1校	▲2校

- ・公共図書館の除籍本、市民から寄せられた寄贈本等の児童書を各機関に配付する「児童書配付事業」を実施しました。幼稚園以外では減少しました。

〔「児童書配付事業」の配付数（実績）〕

	平成30年度	令和4年度	増 減
幼稚園	104冊	272冊	168冊
保育所・ 認定こども園	343冊	301冊	▲42冊
小学校	1,083冊	726冊	▲357冊
その他(公民館・ 児童クラブ等)	3,296冊	1,932冊	▲1,364冊
合計	4,826冊	3,231冊	▲1,595冊

※隔年実施のため、令和元年、令和5年は実施なし

4 子どもの読書活動の推進に関わる人材の育成

活動内容及び成果・課題

- ・公共図書館等で、読み聞かせやストーリーテリング*のボランティア養成講座及びスキルアップ講座等を実施し、読書活動促進の担い手となる多くのボランティアを育成しました。公民館では、開催回数や参加人数が大幅に減少しています。

〔読み聞かせ等ボランティア養成講座（実績）〕

	令和元年度		令和5年度	
	回数	参加人数（延べ）	回数	参加人数（延べ）
公 民 館	14回	188人	1回	8人
中央図書館	17回	246人	30回	434人
合計	31回	434人	31回	442人

※公民館は平成30年度の数値

- ・読み聞かせボランティアが認定こども園・幼稚園・保育所、児童クラブ、公共図書館等のおはなし会で活動し、子どもへの読み聞かせの機会を充実することができました。

5 子どもの読書活動に関する啓発と理解の促進

活動内容及び成果・課題

- ・はじめまして絵本事業では、4か月児健診時に、乳幼児向けのおすすめ絵本リスト「はじめまして絵本」を公共図書館から配付しました。また、その内容も紹介する絵本を増やすなどして充実しています。しかし、コロナ禍で集団健診がなくなり、出生数が大幅に減少したため配付人数も減少しました。

〔絵本リスト「はじめまして絵本」の配付数（実績）〕

	令和元年度		令和5年度	
	回数	配付人数	回数	配付人数
4か月児健診	32回	1,716人	30回	1,544人

- ・「家読（うちどく）」を推進するために、啓発ちらしの配付や公共図書館においてスタンプラリーを実施しました。

〔「家読（うちどく）」啓発ちらしの配付数（令和5年度実績）〕

配付先	配付枚数
認定こども園・幼稚園・保育所・ 小学校・中学校・特別支援学校等	33,000枚

- ・読書の重要性は認識しているが、読み聞かせをあまりしていない保護者が多く、啓発が十分ではないと考えられます。
- ・未就学児では、子どもによく読み聞かせをする保護者の割合は 80%となっていますが、小学校に入ると保護者に本をよく読んでもらう児童の割合は、3分の1程度に減少しています。

〔家の人に、よく本を読んでもらう子どもの割合〕

	令和元年度	令和5年度	増 減
未就学児	84%	80%	▲4pt.
小学校低学年	33%	37%	4pt.

- ・読み聞かせを「よくする」と答えた保護者ほど、読書は「とても重要」と答えた割合が高い傾向にあります。

〔「読み聞かせの頻度」と「読書はとても重要だと考える保護者の割合」の相関〕

	令和元年度	令和5年度	増 減
よくする	88%	92%	4pt.
時々する	73%	72%	▲1pt.
あまりしない	53%	61%	8pt.
ほとんど、または全くしない	57%	44%	▲13pt.

- ・家の人から本をよく読むように言われる小中学生が3割以上となっており、子どもに対して読書を薦める保護者の割合が増えています。

〔家の人に、本をよく読むように言われる子ども〕

	令和元年度	令和5年度	増 減
小学校中学年	30%	34%	4pt.
小学校高学年	33%	38%	5pt.
中学生	27%	31%	4pt.
高校生	—	24%	—

第4章 子どもの読書活動推進のための取組

1 子どもが本と出会い、親しむ機会の提供と、読書の楽しさを実感できる環境づくり

子どもが自ら読書活動を行うためには、その子どもにとって読書が「楽しい」ものであることが重要です。そして、読書を「楽しい」と感じるためには、より多くの本と出会う機会が大切です。そこで、家庭や地域、公共図書館等において、本との出会いの場や本に親しむ機会をより多く提供するとともに、読書の楽しさを伝える取組を進めます。また、電子図書館*の活用や電子書籍の充実等、デジタル化社会に対応した読書環境の整備に努めます。

(1) 家庭における読書環境の整備の促進

家庭は人々が日常生活を営む基盤であり、家庭における読書環境は子どもの読書習慣の形成に大きな影響を与えます。

子どもが本と出会い、親しみ、読書習慣を身につけていくためには、まず身近に絵本を含めた図書があることが必要です。そのうえで、親や家族が子どもの読書活動の意義を理解し、読み聞かせをし、子どもと一緒に本を読むなど、ふれあいの中で本と出会うきっかけを与え、読書に対する興味や関心を引き出すように働きかけることが重要です。

そこで、家庭での読書環境が整備されるよう各家庭に対して啓発を行うことに加え、子どもの読書に関する相談窓口を設置し、保護者や子どもに対する講座やイベントを実施するなど家庭での取組を支援します。

① はじめまして絵本事業の充実

子どもの読書活動の基礎を築き、乳幼児期からの読み聞かせを支援するため、公共図書館においてブックリスト「はじめまして絵本」や図書館カード登録案内を作成し、4か月児健診時に保護者に配付します。またその際に、保護者からの相談に応じるとともに、乳児への読み聞かせ等を行います。

② 子どもの読書に関する講座等の実施

子どもの絵本に対する興味を引き出し、読書習慣の素地をつくるうえで有効な「読み聞かせ」が各家庭において広く実践されるよう、子どもの年齢に応じてきめ細かな内容にするなど、保護者や子どもを対象に公共図書館で開催する講座やイベント等の充実を図ります。

(2) 地域等における読書環境の整備

子どもの読書活動を推進するためには、子どもが日常生活の中で、いつでもどこでも本とふれあうことができるよう、読書環境の整備が求められます。

そこで、子育てプラザや公民館、児童クラブ、両荘みらい学園学校図書館等の身近な施設における図書コーナーの活用や、読み聞かせ等の事業の充実を図るなど、地域における読書環境の整備に努めます。

① 子育てプラザ等における読書環境の整備

子育てを支援する拠点施設としての「加古川駅南子育てプラザ」、「東加古川子育てプラザ」

及び「志方児童館」の絵本コーナーの周知や活用を図るとともに、子どもの年齢に応じた読み聞かせやおはなし会等を充実させます。

② 公民館における読書環境の整備

公民館の図書コーナーの周知や活用を図り、身近なところでいつでも本とふれあうことができる環境づくりを進めます。

また、読み聞かせやおはなし会等を実施するとともに、子どもの読書活動に関する情報発信を行います。

③ 児童クラブにおける読書環境の整備

寄贈図書や公共図書館からのリサイクル図書を受け入れ、児童クラブの図書の充実を図るとともに、読み聞かせやおはなし会等を実施します。

④ 両荘みらい学園学校図書館の地域開放サービスによる読書環境の整備

地域の生涯学習の拠点として、より積極的な読書の機会を提供するため、学校教育活動に支障のない範囲で両荘みらい学園学校図書館を地域に開放しています。

また、学校、公民館、児童クラブ等を有する複合施設内にあるメリットを活かし、様々な連携事業等を積極的に実施します。

さらに、公共図書館とも連携しながら、学校図書館ならではの様々な事業を展開していきます。

(3) 公共図書館における読書環境の整備

公共図書館は、幅広い分野にわたって豊富な資料を所蔵しており、子どもたちはその中から自分が読みたい本を自由に読むことができる場であることに加えて、司書*等の公共図書館職員が、読書や調べものの相談に応じています。また、読み聞かせやストーリーテリング等の様々な事業の実施を通じて、子どもに読書の楽しさを伝え、子どもと本をつなぐ、読書活動の拠点となる施設です。

公共図書館が子どもの読書を推進するために果たす役割は非常に大きく、図書資料の整備をはじめ、相談支援体制の充実、事業の展開、情報発信等の取組を進めるとともに、両荘みらい学園学校図書館等、館外サービスポイントとのさらなる連携に努めます。

① 図書資料の整備

ア 図書資料の充実

公共図書館が子どもにとって楽しく魅力あふれる施設となるよう、子どもの読書傾向を把握し、幅広く質の高い図書資料の収集に努めるとともに、貸出希望の多い図書については複本*を備えるなど、分野・質・冊数の各面での図書資料のさらなる充実を図ります。

また、1人1台端末を活用し、小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校の児童・生徒を対象とした電子書籍の充実に努めます。

イ 魅力ある児童図書コーナーの整備

子どもが公共図書館に行くことが楽しみとなるよう、図書の配置、読書スペース、案内表示や飾りつけ等を工夫し、児童図書コーナーを魅力的で親しみやすい空間として整

備します。

また、児童と成人の間に位置する中学生、高校生の年齢層が興味をもてる分野の図書を配置した専用コーナーを一層充実させます。

② 相談支援体制の充実

子どもが気軽に相談できるような雰囲気づくりを行うとともに、多岐にわたる相談への適切な対応、レファレンス*、調べ学習に対する支援ができる体制づくりに努めます。

また、小学生向けの各種調べ方ガイドを作成・配布するとともに、ホームページに掲載するなど、調べる力の育成を図ります。

③ 読書活動関連事業の実施

子どもが絵本や児童図書に興味や関心をもつよう、おはなし会等の事業を積極的に実施します。

ア 読み聞かせ、おはなし会等の実施

読み聞かせ、おはなし会、人形劇等の様々な読書活動関連事業を充実させます。

イ 1日図書館員*等の実施

小学生、中学生を対象にした「1日図書館員」や小学生とその保護者を対象にした「図書館見学ツアー」等を実施し、読書への関心をもつよう努めます。

ウ 読書手帳*の活用

読書手帳の周知を広く行い、活用することで子どもの読書への関心や、公共図書館の利用促進につなげます。

④ 子どもの読書推進に係る情報発信

年齢に応じた推薦図書リストを発行するなど、子どもや保護者が本を選ぶ際の助けとなるような情報や、家庭に向けて子どもの読書活動に関連する情報の積極的な発信に努めます。

ア 「こどもしんぶん」の発行

「こどもしんぶん」を毎月発行し、学校園等へ配付するとともにホームページへ掲載します。

イ 小学生への児童書リストの配付

夏休み前に、市内全小学生へ学年に応じたおすすめの図書を紹介したリストである「としょかんの本だな」を配付し、ホームページに掲載します。また、紹介した本の特集コーナーを公共図書館に設置します。

ウ 年齢に応じたおすすめ図書リストの配布

3歳から5歳向け及び小学生向けの、読み聞かせに適した絵本リストを配布します。また、中学生向け及び高校生向けのおすすめ図書の紹介リストを配布します。

エ 情報の発信

SNSやホームページ、1人1台端末等の活用により、読書活動関連事業等の積極的な情報発信に努めます。

⑤ 公共図書館と学校園、児童クラブ、わかば教室*等の連携

子どもの読書活動を一層推進していくため、公共図書館と学校園、児童クラブ、わかば

教室等との連携を強化し、相互の協力体制のもと取り組みます。

ア 情報の相互提供

公共図書館から学校園等に事業予定等の情報提供を行うとともに、図書館教育担当者等で情報の共有を図り、一体的に子どもの読書活動に対する支援を行います。

イ 連携事業の実施

(a) おはなし会等の実施

公共図書館の司書やボランティア等が学校園等へ出張し、おはなし会や読み聞かせ、ブックトークを実施します。

また、公共図書館において、学校園等から児童や生徒、園児を受け入れ、図書館見学ツアーやおはなし会を実施します。

(b) 団体貸出の実施

学校園等に対し団体貸出の案内を送付し、利用周知に努め、児童や生徒、園児が多くの本とふれあうことができる機会を提供します。

(c) 小学校1年生・6年生への図書館カードの交付

市内の小学校1年生・6年生を対象に、図書館で本に親しみを持てる機会を提供するため、図書館カードを交付する「図書館カード交付事業」を実施します。

(d) 児童書の配付

公共図書館より、除籍本、寄贈本等の児童書を学校園等に配付します。

(e) 社会体験活動の実施

公共図書館から小学校へ出張講演や、公共図書館に中学生や高校生を受入れる「トライやる・ウィーク*」やインターンシップ等、社会体験活動の場を提供します。

⑥ 多様なニーズをもつ子どもの読書活動の推進

様々な子どもが図書館を利用しやすくするよう、館内表示をわかりやすくし、職員に研修を行うなど受入体制を整えます。

また、多様なニーズをもつ子どもが、図書館を安心して利用できるような環境づくりに努め、誰でも来館できる身近な場所として、図書館を安心して利用できるよう取組を進め、周知を図ります。

外国語を母語とする子どもがより多くの本と出会えるよう、外国語資料の提供に努めます。

また、視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法*）を踏まえ、さわる絵本や点字絵本、大活字本等のユニバーサルな資料や電子書籍において音声読み上げが可能な資料（アクセシブルな電子書籍）を充実させるとともに、合理的配慮の提供と必要な環境づくりに努めます。

⑦ 公共図書館司書・職員の知識・技能の向上

公共図書館は読書活動の拠点であり、幅広い年代の子どもとその保護者が利用するため、司書をはじめとする公共図書館職員には、子どもと本を結ぶ専門職としての子どもの興味や特性、児童書に関する知識とともに、子どもとのコミュニケーション能力等が求められることから、各種の研修を通じて児童サービスについての職員の知識・技能の向上に努めます。

2 学校園等における読書習慣の形成と学習支援機能の充実

認定こども園・幼稚園・保育所では、同年代の子どもとの集団生活の中で様々なことを学び、豊かな情操を育んでいきます。子どもが知的にも情緒的にも大きく成長するこの時期に、豊かな心を育む本と出会うことは、生涯において読書を楽しむうえで非常に重要な役割を果たします。

また、子どもの自主的な読書意欲が育まれ、読書習慣が身についていく学齢期において、学校における読書活動の推進は大変重要です。その中であって、学校図書館は、児童・生徒が学習に関するいろいろな調べものをしたり、自らの読書活動を楽しんだりするための最も身近な図書館であり、読書活動や学校教育活動の支援において中心的な役割を果たします。

(1) 認定こども園・幼稚園・保育所における読書環境の整備

認定こども園・幼稚園・保育所においては、読み聞かせ等を通じて本に対する興味や関心がもてるように積極的に働きかけるとともに、絵本コーナーの充実等、子どもが本とふれあう環境を整備し、本に親しむきっかけづくりを行います。

① 読み聞かせ機会の充実

子どもが本の楽しさを実感し、読書意欲を高め、読書習慣を身につけられるよう日常の保育や教育活動の中に、読み聞かせ等を通して、絵本とふれあう機会を積極的に設けます。

② 絵本コーナーの充実

子どもがいつでも本とふれあうことができる絵本コーナーを設置し、年齢や発達段階にあわせ、子どもの興味に応じた図書資料の充実に努めます。

③ 絵本の交換や貸出等による支援

認定こども園・幼稚園・保育所で園児が多くの本と出会うことができるよう、交換絵本の充実に努めます。

また、家庭でもさらに本を楽しむことができるよう、貸出絵本の実施や公共図書館の利用の周知を行います。

(2) 小学校・中学校・義務教育学校における読書環境の整備

学校図書館は、「読書センター」及び「学習・情報センター」としての役割を持っています。その機能を十分に発揮できるよう図書資料や図書館環境の整備を進めるとともに、学校図書館の運営や図書館教育*の充実を図るなど、読書推進に取り組む必要があります。各小学校・中学校・義務教育学校においては、資料の充実やデータベースの活用を図るとともに、図書委員会活動を活用した児童・生徒の自主的な活動を支援するなど、児童・生徒にとって魅力ある読書環境の整備に努めます。

① 学校図書館の環境整備

学校生活を通じて自主的な読書活動をさらに広げていけるよう、児童・生徒が興味や関心をもてるような図書や、学習内容に関連した図書を計画的に配備しつつ、学校図書館図書標準に基づく蔵書冊数の達成に努めます。

そのうえで、児童・生徒が利用しやすく、学校図書館へ行くのが楽しみに感じられるよ

うな案内表示や室内の飾りつけ、図書資料の配架等に創意工夫をすることにより、快適な読書スペースを構築するよう取り組みます。

また、学校現場におけるＩＣＴ環境整備の進展に伴い、インターネットを活用した調べ学習の実践や、公共図書館との連携による情報収集の利便性向上など、学校図書館のメディアセンター化についての研究を進めます。

② 図書館教育の推進

児童・生徒の自発的、自主的な読書活動を推進していくためには、読書活動の意義について教職員が共通理解を持ち、子どもの発達段階に応じた適切かつ継続的な指導を行うことが重要です。そこで、図書館教育部会等と連携して、職員研修の更なる充実を目指します。

各学校において、計画的な読書指導の実施や教職員の指導力向上に向けた読書指導推進体制の充実に努めます。

児童・生徒の一人一人が本とふれあう機会である「朝の読書*」を継続し、読書習慣の定着を図ります。

児童・生徒自身が読書活動をさらに盛り上げることができるよう、図書委員会活動の活性化を促進・支援します。

そのほか、朗読発表会、読書感想文（画）コンクール等、児童・生徒と本をつなぐ活動を展開します。

③ 学校図書館における体制整備

学校図書館の人的体制については、これまで司書教諭が学校園支援ボランティアと協力し、学校図書館の環境整備に取り組んできました。今後も引き続き、司書教諭と学校園支援ボランティアとの連携強化に努めます。

また、両荘みらい学園学校図書館に配置された学校司書については、公立図書館と連携し、両荘みらい学園等市内の学校図書館運営に携わることで、より効果的な学校司書の配置方法等について検証し、人的体制の整備に努めます。

(3) 保育士、保育教諭、教職員の知識・技能の向上

読書指導に携わる保育士、保育教諭、教職員が知識、技能の向上に努めることは、子どもの読書活動の推進にとって欠かせないものです。

そのため、公共図書館からの情報提供の場を設けるなど、保育士、保育教諭、教職員の知識の向上に努めます。

また、保育士、保育教諭、教職員自身が、おすすめの本を保護者や子どもに伝えるなど、広く子どもの本に関する情報を得るよう努めます。

3 地域社会の支えとボランティア育成の拡大

加古川市では、中学校区を一つの単位（ユニット）として、ユニット内の学校園の相互連携のもと、子どもの連続した学びや育ちを支援する「学校園連携ユニット」の取組を進めています。これらの取組を充実させながら、さらに学校運営協議会*により、子どもたちの学びと教育環境の充実を図り、「地域総がかりの教育」を進めることとしています。

子どもの読書活動推進においても、発達段階に応じて読書への興味を広げ、思考を深めながら、自主的に読書活動を行うことができるようボランティアと連携し、学校園、家庭、地域、公共図書館が相互に協力して取り組みます。

(1) 校種間の連携、交流による支援

子どもがあらゆる機会、場所において自主的な読書活動を行うことができるよう学校園連携ユニットを活用した取組を進めます。

- ① 認定こども園・幼稚園・保育所、小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校の連携
子どもが、認定こども園・幼稚園・保育所の幼児から小学生、中学生へと成長していく中で読書活動を展開し、継続していくことができるよう相互の連携強化に努めます。
- ② 異年齢交流活動の実施

「トライやる・ウィーク」において、中学生が認定こども園・幼稚園・保育所の幼児や小学生と交流を図る中で絵本の読み聞かせを行うほか、読書活動に関する認定こども園・幼稚園・保育所、小学校・中学校・義務教育学校等の相互の交流活動を展開します。

(2) 市民ボランティアの育成強化

地域での子どもの読書活動を継続的に推進していくためには、ボランティアの存在は大変重要です。読み聞かせ等のボランティアの育成・拡大を図るとともに、公共図書館や学校、児童クラブ等活動の場の提供を行います。

① ボランティアの育成・支援

ボランティアが読み聞かせやおはなし会等で活動できる実践力を養成するため、読み聞かせやストーリーテリングに関するスキルアップ講座を公共図書館等で開催するとともに、ボランティアと公共図書館司書との合同勉強会を開催します。これにより、ボランティアの育成に努めます。

また、学校園支援ボランティアグループに対して情報提供を行うなど、ボランティア活動への支援を行います。

② 活動の場の提供

読み聞かせ等のボランティアの活用として、公共図書館で開催する事業をはじめ、認定こども園・幼稚園・保育所、児童クラブ、小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校の各施設が実施する読み聞かせやおはなし会等の様々な実践活動の場を提供します。

4 子どもの読書活動に関する啓発と理解の促進

子どもの自主的な読書活動を推進するためには、大人が読書についての理解と関心をもち、自ら読書する姿を子どもに示し、読書の楽しさを子どもに伝えていく必要があります。そのため、様々な機会を通じて子どもの読書活動の意義や重要性を広く伝え、保護者の認識を高め、家庭等で読書する時間を積極的に設けることができるよう普及・啓発に努めます。

(1) 保護者を含めた市民への啓発

子どもの読書活動の始まりであり、基本となる家庭での読書環境の整備を促すためには、まず、保護者の理解・認識を得ることが重要です。

子どもの読書活動に対する保護者の意識・関心を高めるため、乳幼児健診等の様々な機会をとらえて保護者に向けた啓発を行うとともに、認定こども園・幼稚園・保育所や小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校から保護者への資料の送付等により、子どもの読書習慣を形成するための家庭での読書環境づくりや公共図書館の利用を働きかけます。

また、子どもの読書活動をテーマにした講演会や講座等の実施を通じて、子どもの読書活動の意義を保護者に伝えます。

① 「家読（うちどく）」の推進

子どもが読書習慣を身につけるには、子どもの周りにいる大人が普段から本に親しむことが大切です。「家読（うちどく）」は「家族ふれあい読書」を意味し、家族で本を読んでコミュニケーションを図る取組です。認定こども園・幼稚園・保育所や小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校及び公共図書館等において、「家読（うちどく）」に関する啓発を行い、家庭での読書環境の向上と家族の絆づくりを進めます。

ア 「家読（うちどく）」啓発ちらしの配付

市内各認定こども園・幼稚園・保育所の保護者及び小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校の児童・生徒に「家読（うちどく）」啓発ちらしを配付します。

イ 「家読（うちどく）」スタンプラリー等の実施

家族で本を読む機会を持てるよう、夏季休業期間を中心にスタンプラリーを実施し、広く公共図書館等への来館を促し、継続的な図書館利用につなげます。

② 「こどもの読書週間*」及び「読書週間*」関連事業の実施

子どもや保護者の読書活動の意識・関心を高めるため、「こどもの読書週間」及び「読書週間」に関連した事業を実施します。

(2) 広報の推進

地域や関係団体等を含め広く市民の理解促進を図るため、広報紙や市のホームページに加えSNS等を活用した子どもの読書活動に関する情報の提供、公共施設でのちらしの設置やポスター掲示等により、積極的に啓発活動に努めます。

第5章 子どもの読書活動推進計画の取組目標設定

前計画の成果・課題を踏まえ、数値目標を設定しました。

目標値については、進捗状況に合わせて適宜見直すことがあります。

*第4次計画の取組指標

指 標		令和5年度の状況 ()内は全国平均	5年後目標値
1か月に1冊も本を読まない 子どもの割合	小学校中学年	4.0%	全国平均以下※
	小学校高学年	5.4% (7.0%)	
	中学生	15.3% (13.1%)	
	高校生	50.0% (43.5%)	
読み聞かせをしている 保護者の割合	—	80.0%	80.0%
公共図書館おはなし会等 イベント実施回数	—	431回	450回
電子書籍「読み放題（児童書）」 ログイン回数	小学生	13,501回	50,000回
	中学生	—	5,000回

※は、文部科学省による「全国学力・学習状況調査」からの全国平均

注) 全国平均値がない場合は、『令和5年度の状況』上の数値を目標値とする。

第6章 計画の推進について

この計画を効果的に推進するためには、「すべての子どもが自主的な読書活動を通じて豊かなところを育み、生きる力を身につけることができる読書環境づくり」という共通の目標に向け、関係機関との連携のもとに組織的に施策に取り組む必要があります。

そこで、計画の推進にあたり、関係機関の代表をメンバーとする「加古川市子どもの読書活動推進連絡会」を設置し、相互に連携を図りながら、一体となって施策の実施を進めます。

＊加古川市子どもの読書活動推進連絡会

(1) 組織

連絡会を構成するメンバーは、次の表のとおりとします。

こども部こども政策課長
こども部幼児保育課長
加古川市立認定こども園・保育園園長会代表者 加古川市立幼稚園園長会代表者
教育指導部社会教育課長
教育指導部中央図書館長
教育指導部学校教育課長
教育指導部教育支援課長
加古川市立中学校図書館教育担当校長
加古川市立小学校図書館教育担当校長

(2) 事務局

事務局は、中央図書館に置きます。

(3) 会議

会議は定期的に行われ、実施結果及び次年度の実施策について協議を行うほか、施策を実施するうえでの調整・協議等、必要に応じて開催するものとします。

【資料編 1】

子どもの読書活動実態調査アンケート 調査報告

令和5年度
子どもの読書活動実態調査アンケート
調 査 報 告 書

令和6年（2024年）2月

加古川市

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査概要	1
3. 回収状況	1
II 調査の結果	3
1. 子どもの読書活動の実態	3
(1)読書に対する意識	3
(2)読書量	4
(3)本を読む理由、読まない理由	5
(4)図書館の利用状況	7
(5)家庭での読書環境	12
(6)家庭での読書環境と児童・生徒の読書に対する意識の相関	19
(7)電子書籍の使用状況	27
(8)電子書籍の登場による読書活動実態の変化	28
2. 子どもの読書活動に対する保護者（就学前の子どもをもつ保護者）の意識	30
(1)子どもの読書活動の意義に対する認識	30
(2)家庭での読書環境	32
(3)保護者の子どもの読書活動に対する意識および読書状況と読み聞かせ実施状況の相関	34
(4)公共図書館に望むこと	40
(5)子どもの読書活動の推進を図るうえで最も重要なこと	41
(6)はじめまして絵本事業の認知状況	43
3. 調査結果まとめ	46
III 資料	49

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査目的

加古川市の子どもたちを取りまく読書環境を充実させていくうえで指針となる「子どもの読書活動推進計画（第4次）」の策定にあたり、加古川市の児童、生徒および保護者に対し、読書に関する意識や読書実態を把握するため、この度「子どもの読書活動実態調査」を実施した。

2. 調査概要

- ・調査対象： ＊市立小学校の児童および市立中学校の生徒
＊市内県立高等学校に通学する生徒
＊市立加古川養護学校に通学する子どもの保護者
＊市立幼稚園、市立保育園、市立認定こども園に通園する5歳児の保護者
＊市内公共施設利用者のうち未就学児の保護者
- ・調査期間：令和5年6月26日～令和5年7月31日
- ・調査方法：配布、回収またはGoogleフォームにて実施

3. 回収状況

対象		対象人数	回答数	回収率(%)
小学校（28校）	1 年 生	430	410	95.3
	2 年 生	487	422	86.7
	3 年 生	464	428	92.2
	4 年 生	480	453	94.4
	5 年 生	536	507	94.6
	6 年 生	580	530	91.4
	合 計	2,977	2,750	92.4
中学校（12校）	1 年 生	172	157	91.3
	2 年 生	155	128	82.6
	3 年 生	164	120	73.2
	合 計	491	405	82.5
高等学校（6校）	1 年 生	77	77	100.0
	2 年 生	78	78	100.0
	3 年 生	76	67	88.2
	合 計	231	222	96.1
児童・生徒合計		3,699	3,377	91.3
養 護 学 校	保 護 者	52	34	65.4
幼稚園・保育園・認定こども園	5歳児保護者	402	322	80.1
子育て施設・図書館(室)	未就学児保護者	250	249	99.6
保 護 者 合 計		704	605	85.9
総 合 計		4,403	3,982	90.4

Ⅱ 調査の結果

※調査結果の比率について

- 図および表中の比率は、小数点第2位を四捨五入して表示しています。したがって、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。
- グラフ中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

Ⅱ 調査の結果

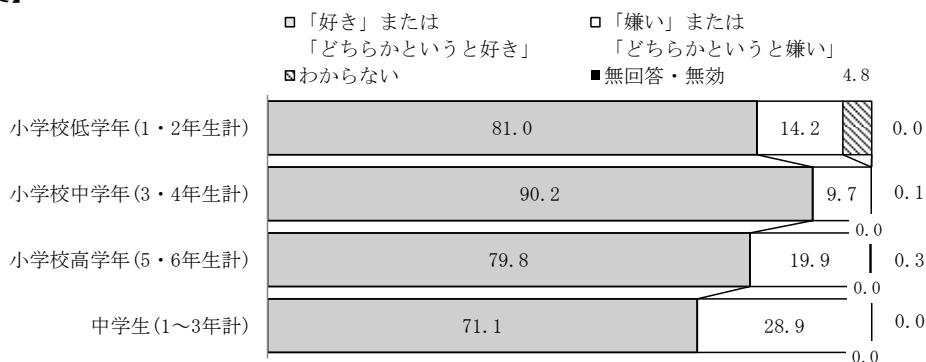
(高校生については平成 26 年度は調査なし、令和元年度は
図書館来館者のみを対象)

1. 子どもの読書活動の実態

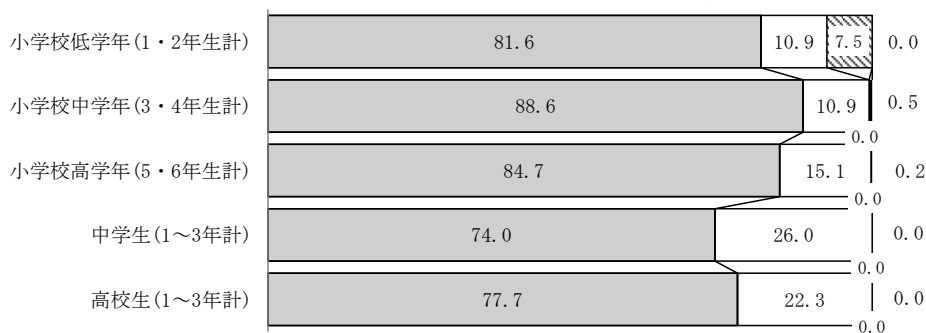
(1) 読書に対する意識

「読書が好きか」との問いに対する回答の割合の学年別比較 (%)

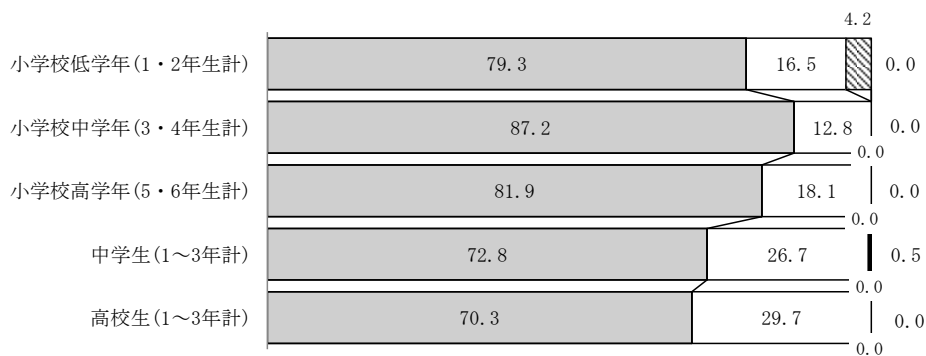
【平成 26 年度】



【令和元年度】



【令和 5 年度】



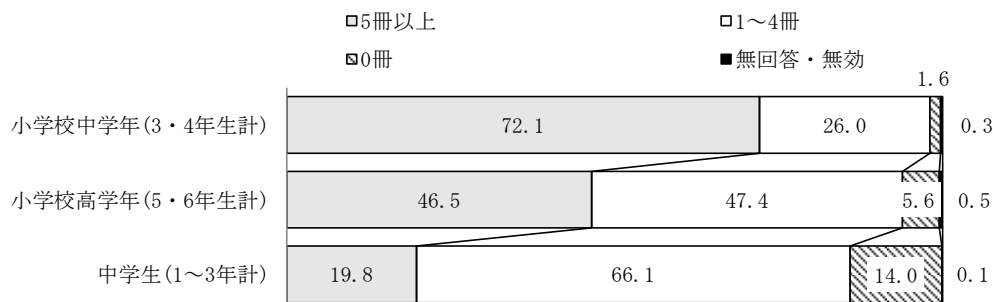
「読書が好きか」について、すべての学年において「好き」または「どちらかという好き」の割合は 70%を超えている。「好き」または「どちらかという好き」の割合は学年が上がるにつれて減少傾向にあり、小学校中学年が 87.2%であるのに対し、高校生は 70.3%となっている。

経年で見ると、すべての学年において「好き」または「どちらかという好き」の割合が令和元年度から減少し、小学校中学年は平成 26 年度から減少している。

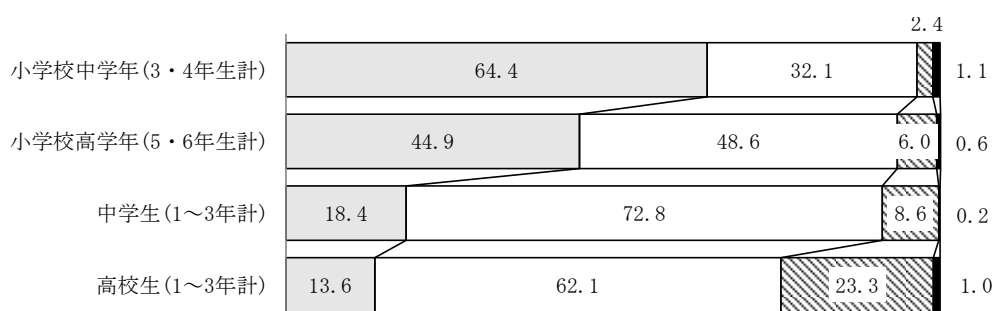
(2)読書量

1 ヶ月の読書冊数の割合の学年別比較 (%)

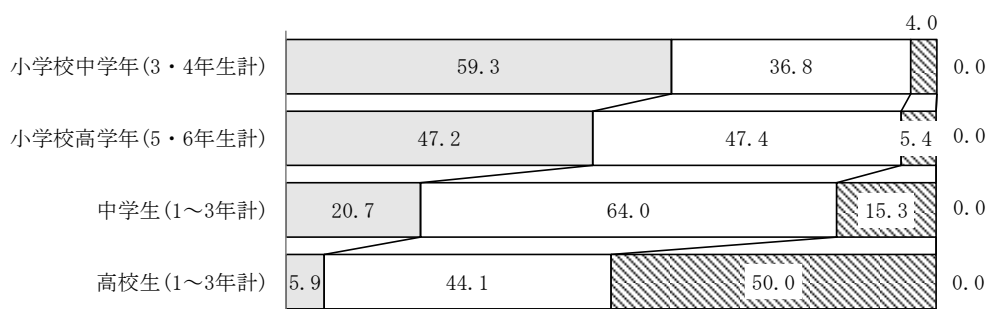
【平成 26 年度】



【令和元年度】



【令和 5 年度】



「1 ヶ月に読む本の冊数」について、「5 冊以上」の割合は学年が上がるにつれて減少し、小学校中学年が 59.3%であるのに対し、高校生は 5.9%となっている。一方、「0 冊」の割合は学年が上がるにつれて増加し、小学校中学年が 4.0%であるのに対し、高校生は 50.0%となっている。

経年で見ると、小学校中学年において「5 冊以上」の割合が平成 26 年度から減少し、令和元年度からは 5.1 ポイント減少している。また、中学生において「0 冊」の割合が令和元年度から 6.7 ポイント増加している。

(3)本を読む理由、読まない理由

本を読む理由、読まない理由の学年別比較（％）

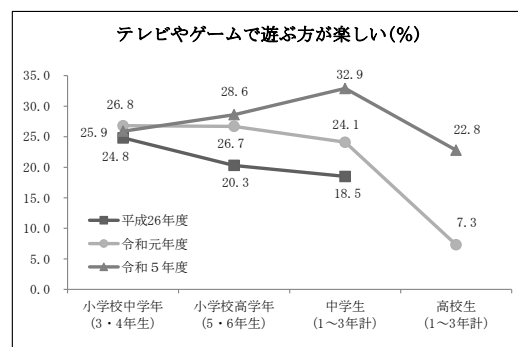
平成26年度	読む理由（上位3項目）		読まない理由（上位3項目）	
小学校中学年 (3・4年生計)	読むのが楽しい	56.1	スポーツをしたりする方が楽しい	36.1
	いろんなことがわかる	35.5	テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい	24.8
	先生や家の人に言われる	3.4	読みたいが勉強や習い事で読む時間がない	14.7
小学校高学年 (5・6年生計)	いろいろ想像するのが楽しい	51.8	スポーツをしたりする方が楽しい	38.6
	新しい知識を得ることができる	21.8	テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい	20.3
	自分の考えが広がったり深まったりする	12.7	読みたいと思う本がない	11.6
中学生 (1～3年生計)	いろいろ想像するのが楽しい	51.3	スポーツをしたりする方が楽しい	27.9
	新しい知識を得ることができる	19.8	テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい	18.5
	自分の考えが広がったり深まったりする	14.9	読みたいと思う本がない	18.1

令和元年度	読む理由（上位3項目）		読まない理由（上位3項目）	
小学校中学年 (3・4年生計)	読むのが楽しい	54.7	テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい	26.8
	いろんなことがわかる	34.2	スポーツをしたりする方が楽しい	22.8
	先生や家の人に言われる	1.8	読みたいと思う本がない	14.6
小学校高学年 (5・6年生計)	いろいろ想像するのが楽しい	48.2	テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい	26.7
	新しい知識を得ることができる	24.0	スポーツをしたりする方が楽しい	21.5
	自分の考えが広がったり深まったりする	10.3	読みたいと思う本がない	13.1
中学生 (1～3年生計)	いろいろ想像するのが楽しい	51.7	スポーツをしたりする方が楽しい	24.7
	新しい知識を得ることができる	16.9	テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい	24.1
	自分の考えが広がったり深まったりする	9.9	読みたいと思う本がない	10.2
高校生 (1～3年生計)	いろいろ想像するのが楽しい	53.2	読みたいが勉強のため読む時間がない	29.3
	自分の考えが広がったり深まったりする	19.4	スポーツをしたりする方が楽しい	24.4
	新しい知識を得ることができる	14.5	読みたいが部活動のため読む時間がない	14.6

令和5年度	読む理由（上位3項目）		読まない理由（上位3項目）	
小学校中学年 (3・4年生計)	読むのが楽しい	54.0	スポーツをしたりする方が楽しい	28.6
	いろんなことがわかる	38.8	テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい	25.9
	先生や家族に言われる	1.7	読みたいと思う本がない	14.1
小学校高学年 (5・6年生計)	いろいろ想像するのが楽しい	39.4	テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい	28.6
	新しい知識を得ることができる	33.6	スポーツをしたりする方が楽しい	25.5
	自分の考えが広がったり深まったりする	11.7	読みたいと思う本がない	18.6
中学生 (1～3年計)	いろいろ想像するのが楽しい	45.6	テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい	32.9
	新しい知識を得ることができる	21.6	スポーツをしたりする方が楽しい	21.9
	自分の考えが広がったり深まったりする	15.2	読みたいと思う本がない	18.1
高校生 (1～3年計)	いろいろ想像するのが楽しい	51.9	テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい	22.8
	自分の考えが広がったり深まったりする	22.1	読みたいが勉強のため読む時間がない	15.2
	新しい知識を得ることができる	11.7	読みたいが部活動のため読む時間がない	14.5
			読みたいと思う本がない	14.5

「本を読む理由」について、小学校中学年は「読むのが楽しい」(54.0%)、小学校高学年、中学生、高校生は「いろいろ想像するのが楽しい」(各 39.4%、45.6%、51.9%)の割合が最も多くなっている。経年で見ると、すべての学年において平成26年度、令和元年度と上位3項目の順位は変わっていない。

一方、「本を読まない理由」について、小学校中学年は「スポーツをしたりする方が楽しい」(28.6%)、小学校高学年、中学生、高校生は「テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい」(各 28.6%、32.9%、22.8%)の割合が最も多くなっている。経年で見ると、すべての学年において平成26年度、令和元年度と上位3項目の内容は変わっていない。

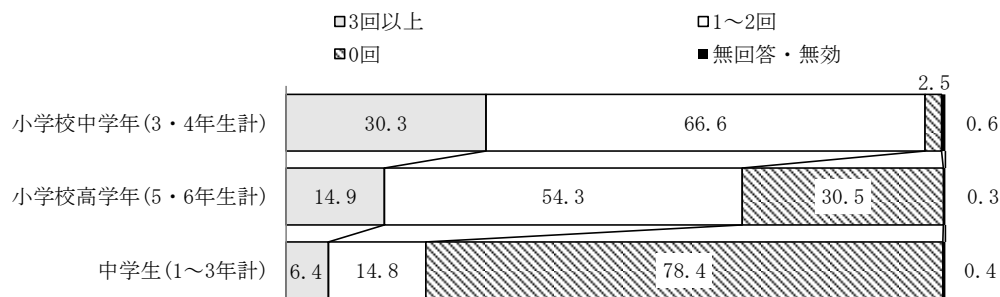


(4) 図書館の利用状況

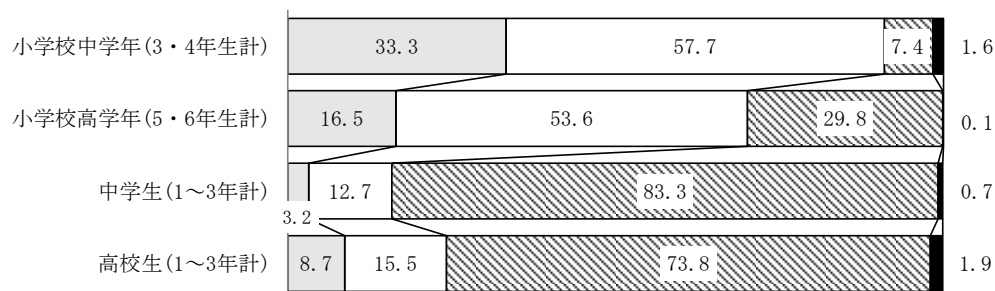
① 学校図書館

1 週間の学校図書館の利用状況 (%)

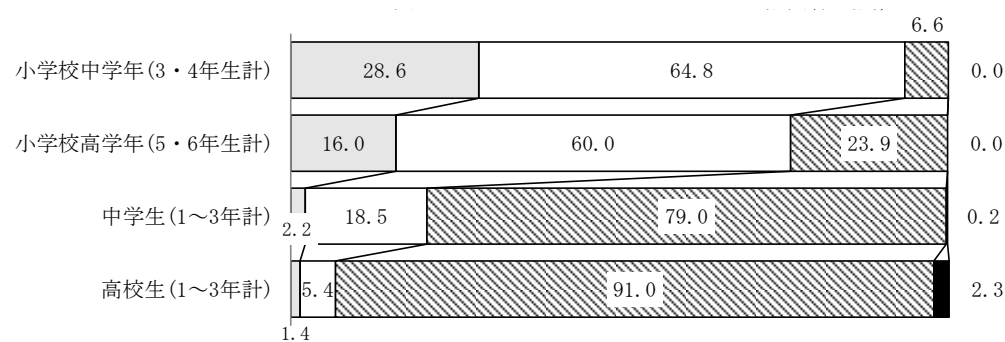
【平成 26 年度】



【令和元年度】



【令和5年度】

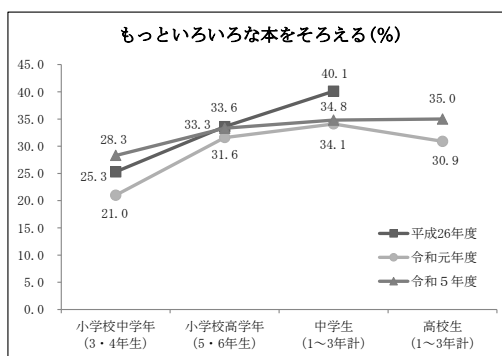


「1 週間の学校図書館の利用状況」について、「0 回」の割合は学年が上がるにつれて増加し、小学校中学年が 6.6%であるのに対し、高校生は 91.0%となっている。また、小学校中学年と小学校高学年において「1～2 回」の割合が最も多く、60%を超えている。

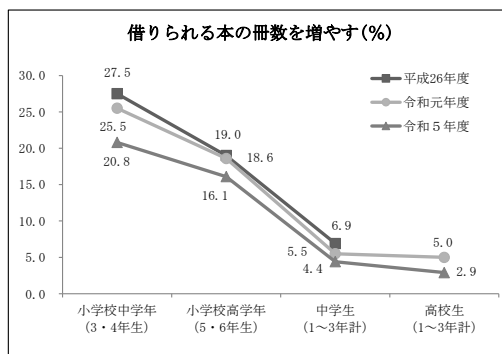
経年で見ると、高校生を除くすべての学年において「週 1～2 回」の割合が令和元年度から増加している。また、高校生を除くすべての学年において「0 回」の割合が令和元年度から減少し、小学校高学年は平成 26 年度から減少している。

学校図書館に期待することの学年別比較（％）

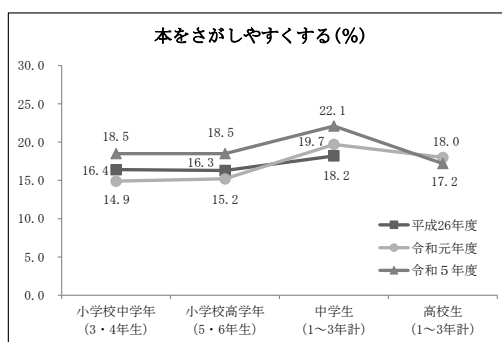
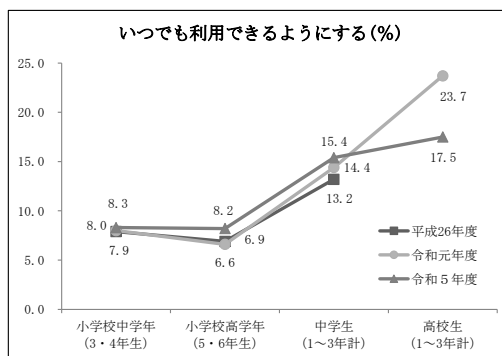
平成26年度	読む理由（上位3項目）	
小学校中学年 (3・4年生計)	借りられる本の数をふやす	27.5
	もっといろいろな本をそろえる	25.3
	本をさがしやすくする	16.4
小学校高学年 (5・6年生計)	もっといろいろな本をそろえる	33.6
	借りられる本の数をふやす	19.0
	本をさがしやすくする	16.3
中学生 (1～3年計)	もっといろいろな本をそろえる	40.1
	本をさがしやすくする	18.2
	いつでも利用できるようにする	13.2



令和元年度	読む理由（上位3項目）	
小学校中学年 (3・4年生計)	借りられる本の数をふやす	25.5
	もっといろいろな本をそろえる	21.0
	本をさがしやすくする	14.9
小学校高学年 (5・6年生計)	もっといろいろな本をそろえる	31.6
	借りられる本の数をふやす	18.6
	本をさがしやすくする	15.2
中学生 (1～3年計)	もっといろいろな本をそろえる	34.1
	本をさがしやすくする	19.7
	いつでも利用できるようにする	14.4
高校生 (1～3年計)	もっといろいろな本をそろえる	30.9
	いつでも利用できるようにする	23.7
	本をさがしやすくする	18.0



令和5年度	読む理由（上位3項目）	
小学校中学年 (3・4年生計)	もっといろいろな本をそろえる	28.3
	借りられる本の数をふやす	20.8
	本をさがしやすくする	18.5
小学校高学年 (5・6年生計)	もっといろいろな本をそろえる	33.3
	本をさがしやすくする	18.5
	借りられる本の数をふやす	16.1
中学生 (1～3年計)	もっといろいろな本をそろえる	34.8
	本をさがしやすくする	22.1
	いつでも利用できるようにする	15.4
高校生 (1～3年計)	もっといろいろな本をそろえる	35.0
	いつでも利用できるようにする	17.5
	本をさがしやすくする	17.2



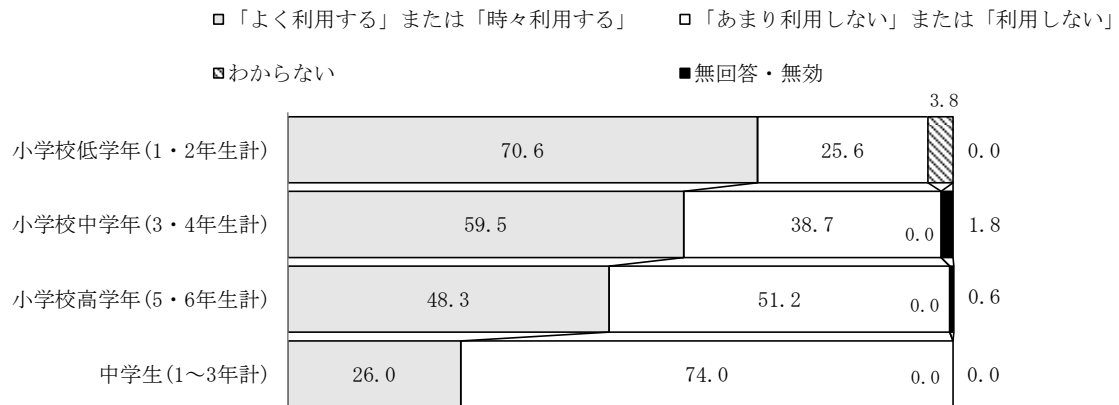
「学校図書館に期待すること」について、すべての学年において「もっといろいろな本をそろえる」（各 28.3％、33.3％、34.8％、35.0％）の割合が最も多くなっている。「もっといろいろな本をそろえる」の割合は学年が上がるにつれて増加し、本の種類の充実を求める声が多くなっている。

経年で見ると、すべての学年において平成26年度、令和元年度と上位3項目の内容は変わっていない。

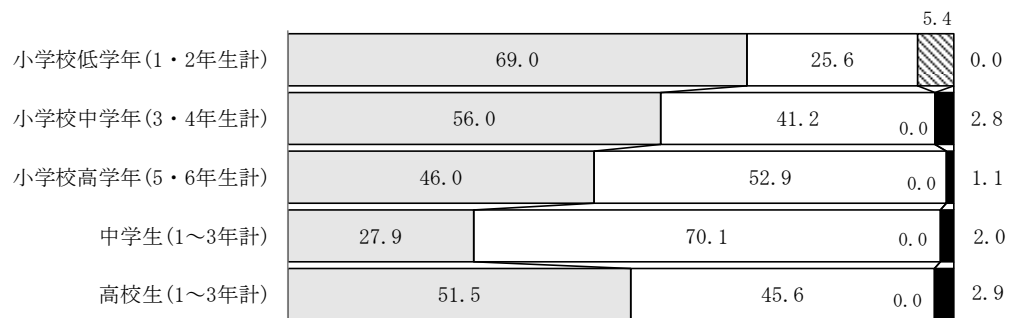
②学校以外の図書

学校以外の図書館の利用状況（％）

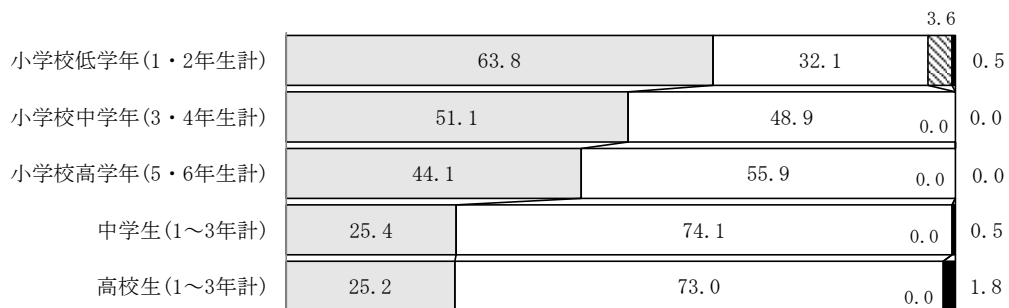
【平成 26 年度】



【令和元年度】



【令和5年度】

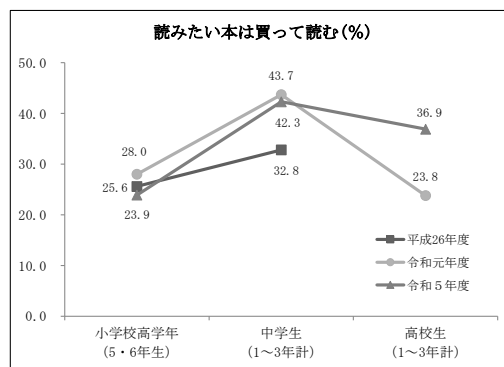


「学校以外の図書館の利用状況」について、「よく利用する」または「時々利用する」の割合は学年が上がるにつれて減少し、小学校低学年が63.8%であるのに対し、高校生は25.2%となっている。

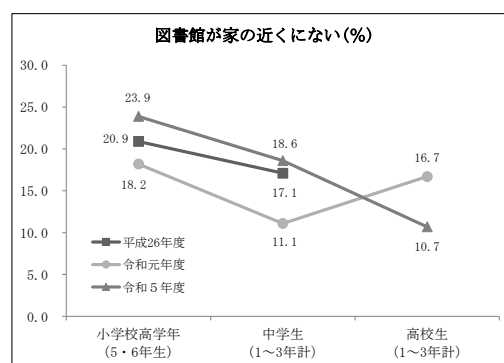
経年で見ると、すべての学年において「よく利用する」または「時々利用する」の割合が令和元年度から減少し、中学生を除くすべての学年は平成26年度から減少している。

学校以外の図書館を利用しない理由の学年別比較（％）

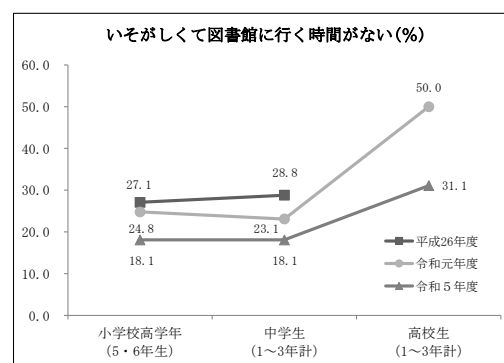
平成26年度	利用しない理由（上位3項目）	
小学校高学年 (5・6年生計)	いそがしくて図書館に行く時間がない	27.1
	読みたい本は買って読む	25.6
	図書館が家の近くにない	20.9
中学生 (1～3年計)	読みたい本は買って読む	32.8
	いそがしくて図書館に行く時間がない	28.8
	図書館が家の近くにない	17.1



令和元年度	利用しない理由（上位3項目）	
小学校高学年 (5・6年生計)	読みたい本は買って読む	28.0
	いそがしくて図書館に行く時間がない	24.8
	図書館が家の近くにない	18.2
中学生 (1～3年計)	読みたい本は買って読む	43.7
	いそがしくて図書館に行く時間がない	23.1
	図書館が家の近くにない	11.1
	図書館に読みたい本がない	11.1
高校生 (1～3年計)	いそがしくて図書館に行く時間がない	50.0
	読みたい本は買って読む	23.8
	図書館が家の近くにない	16.7



令和5年度	利用しない理由（上位3項目）	
小学校高学年 (5・6年生計)	図書館が家の近くにない	23.9
	読みたい本は買って読む	23.9
	いそがしくて図書館に行く時間がない	18.1
中学生 (1～3年計)	読みたい本は買って読む	42.3
	図書館が家の近くにない	18.6
	いそがしくて図書館に行く時間がない	18.1
高校生 (1～3年計)	読みたい本は買って読む	36.9
	いそがしくて図書館に行く時間がない	31.1
	図書館に読みたい本がない	13.9



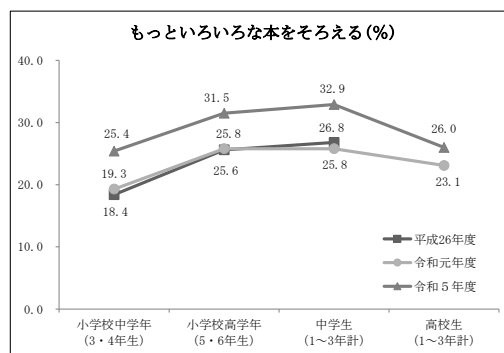
「学校以外の図書館を利用しない理由」について、小学校高学年は「図書館が家の近くにない」と「読みたい本は買って読む」（各 23.9％）、中学生と高校生は「読みたい本は買って読む」（各 42.3％、36.9％）の割合が最も多くなっている。

経年で見ると、高校生を除くすべての学年において平成 26 年度、令和元年度と上位 3 項目の内容は変わっていない。

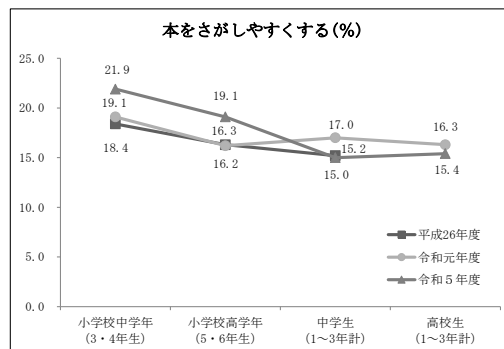
しかし、小学校高学年では、「図書館が家の近くにない」の割合が増えており、図書館利用についての理解を深めるため、保護者への啓発の必要性がうかがえる。

学校以外の図書館に期待することの学年別比較（％）

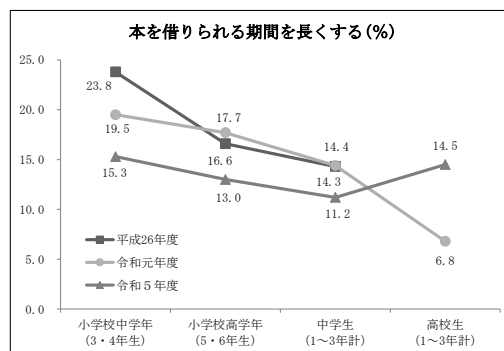
平成26年度	期待すること（上位3項目）	
小学校中学年 (3・4年生計)	本を借りられる期間を長くする	23.8
	もっといろいろな本をそろえる	18.4
	本をさがしやすくする	18.4
小学校高学年 (5・6年生計)	もっといろいろな本をそろえる	25.6
	本を借りられる期間を長くする	16.6
	本をさがしやすくする	16.3
中学生 (1～3年計)	もっといろいろな本をそろえる	26.8
	本をさがしやすくする	15.2
	本を借りられる期間を長くする	14.3



令和元年度	期待すること（上位3項目）	
小学校中学年 (3・4年生計)	本を借りられる期間を長くする	19.5
	もっといろいろな本をそろえる	19.3
	本をさがしやすくする	19.1
小学校高学年 (5・6年生計)	もっといろいろな本をそろえる	25.8
	本を借りられる期間を長くする	17.7
	本をさがしやすくする	16.2
中学生 (1～3年計)	もっといろいろな本をそろえる	25.8
	本をさがしやすくする	17.0
	本を借りられる期間を長くする	14.4
高校生 (1～3年計)	もっといろいろな本をそろえる	23.1
	調べ学習の手助けがしてもらえる	18.4
	本をさがしやすくする	16.3



令和5年度	期待すること（上位3項目）	
小学校中学年 (3・4年生計)	もっといろいろな本をそろえる	25.4
	本をさがしやすくする	21.9
	本を借りられる期間を長くする	15.3
小学校高学年 (5・6年生計)	もっといろいろな本をそろえる	31.5
	本をさがしやすくする	19.1
	本を借りられる期間を長くする	13.0
中学生 (1～3年計)	もっといろいろな本をそろえる	32.9
	本をさがしやすくする	15.0
	本を借りられる期間を長くする	11.2
高校生 (1～3年計)	もっといろいろな本をそろえる	26.0
	本をさがしやすくする	15.4
	本を借りられる期間を長くする	14.5



「学校以外の図書館に期待すること」について、すべての学年において「もっといろいろな本をそろえる」（各 25.4％、31.5％、32.9％、26.0％）の割合が最も多くなっている。

経年で見ると、高校生以外のすべての学年において平成 26 年度、令和元年度と上位 3 項目の内容は変わっていない。

(5)家庭での読書環境

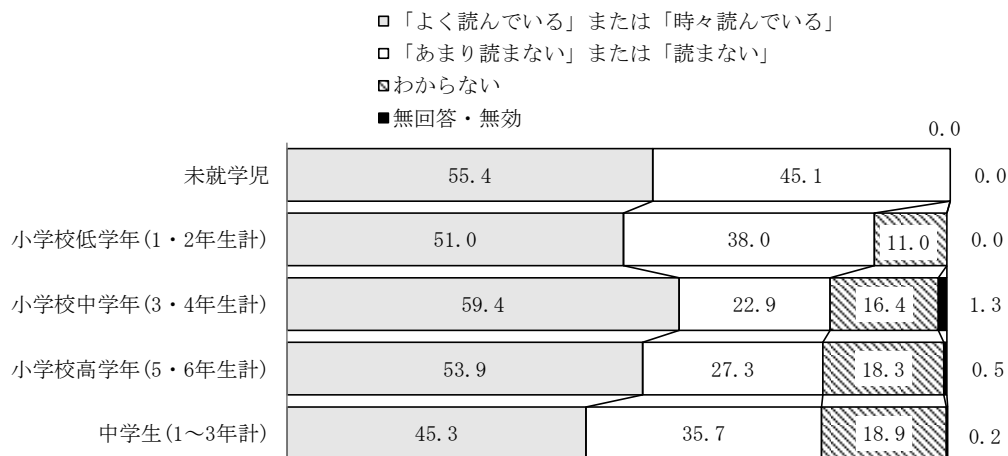
家庭での読書環境として、

- ①「家族はふだんから本を読んでいるか」(全員)
- ②「家族に本をよく読んでもらうか」(未就学児、小学校低学年)
- ③「小さいころに家族に本をよく読んでもらったか」(小学校中学年以上)
- ④「家族と本のことについて話しをすることがあるか」(小学校高学年以上)
- ⑤「家族に本をよく読むように言われることがあるか」(小学校中学年以上)
- ⑥「家に自分の本を持っているか」(小学校中学年以上)

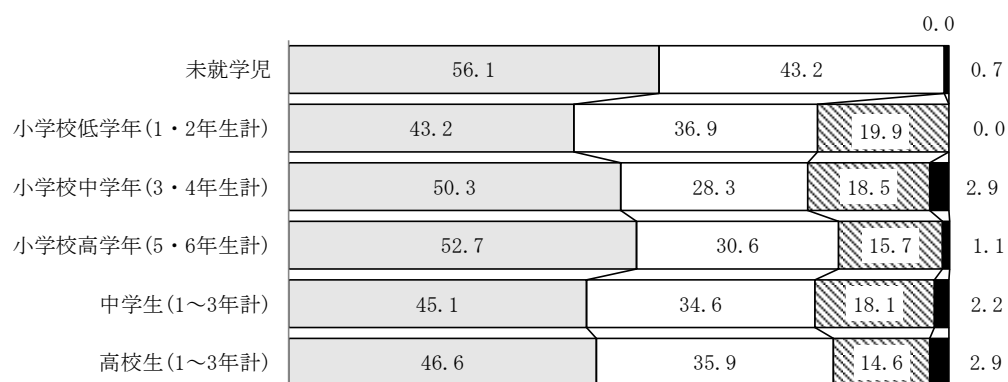
について聞いた。

①家族はふだんから本を読んでいるか(%) (全員)

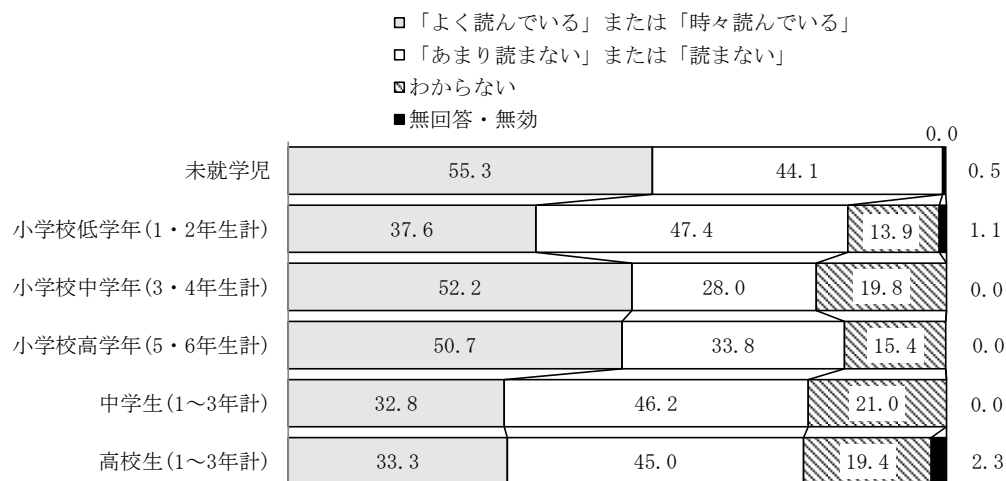
【平成 26 年度】



【令和元年度】



【令和5年度】

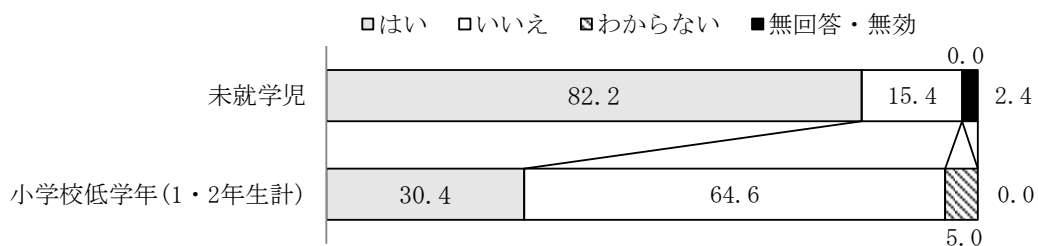


「家族はふだんから本を読んでいるか」について、未就学児、小学校中学年、小学校高学年において「よく読んでいる」または「時々読んでいる」の割合が50%を超えているのに対し、小学校低学年、中学生、高校生は30%台に留まっている。

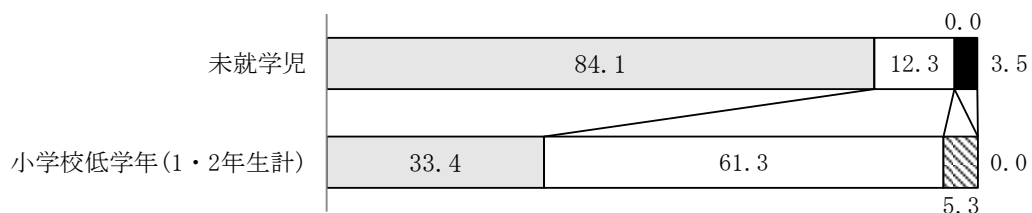
経年で見ると、小学校中学年を除くすべての学年において「よく読んでいる」または「時々読んでいる」の割合が令和元年度から減少し、小学校低学年、小学校高学年、中学生は平成26年度から減少している。

②家族によく本を読んでもらうか（％）（未就学児、小学校低学年）

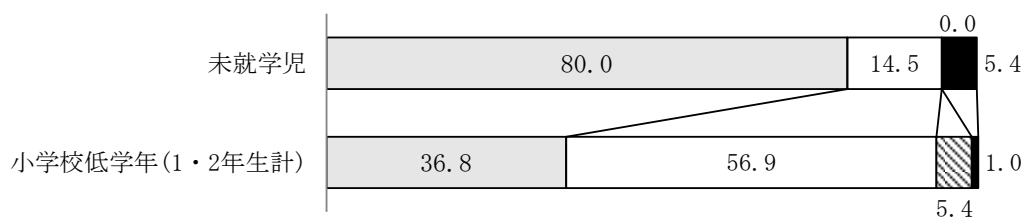
【平成 26 年度】



【令和元年度】



【令和 5 年度】

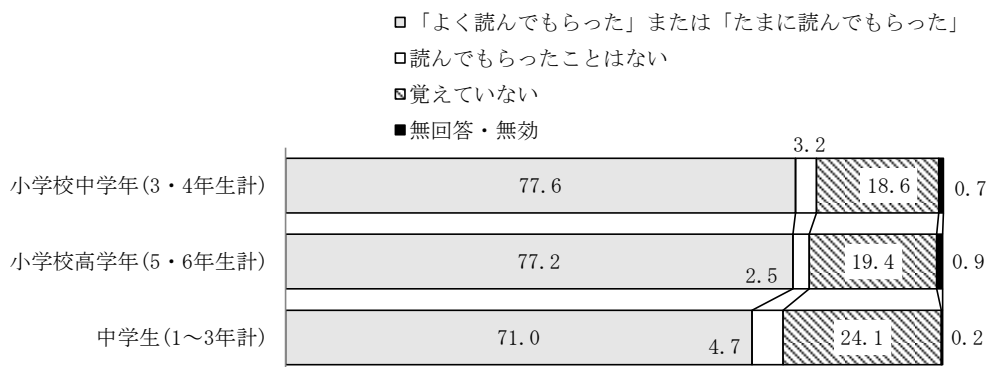


「家族によく本を読んでもらうか」について、「はい」の割合は未就学児が 80.0%であるのに対し、小学校低学年は 36.8%となっている。

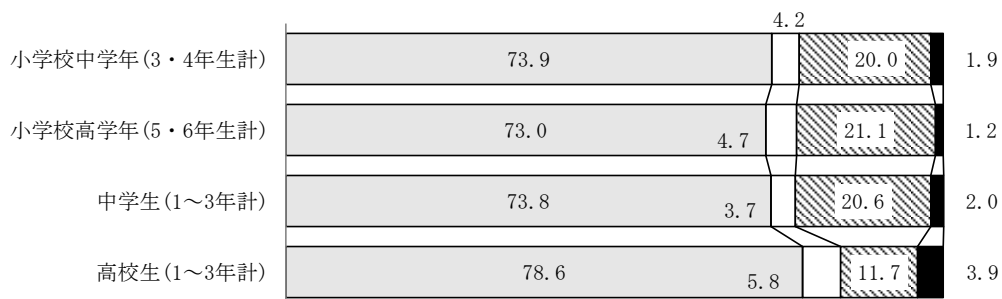
経年で見ると、未就学児において「はい」の割合が令和元年度から 4.1 ポイント減少している。一方、小学校低学年においては平成 26 年度から増加している。

③小さいころに家族に本をよく読んでもらったか（％）（小学校中学年以上）

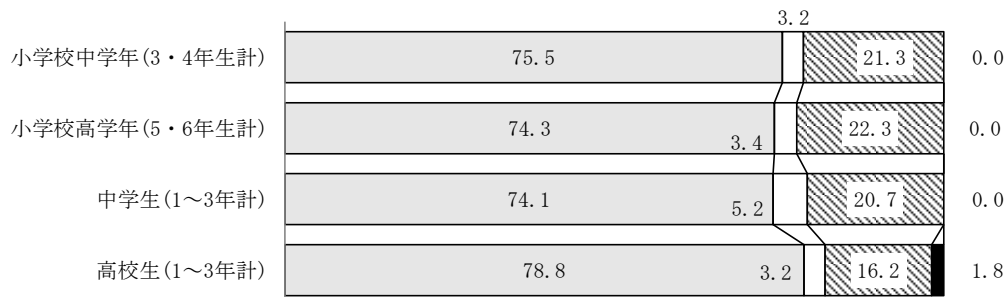
【平成 26 年度】



【令和元年度】



【令和 5 年度】

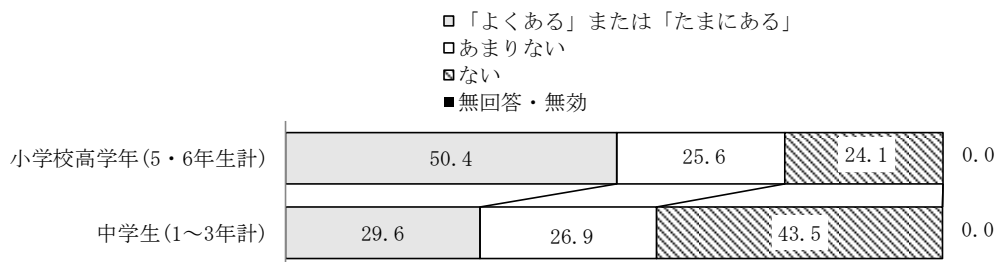


「小さいころに家族によく本を読んでもらったか」について、すべての学年において「よく読んでもらった」または「たまに読んでもらった」の割合は70%を超えている。

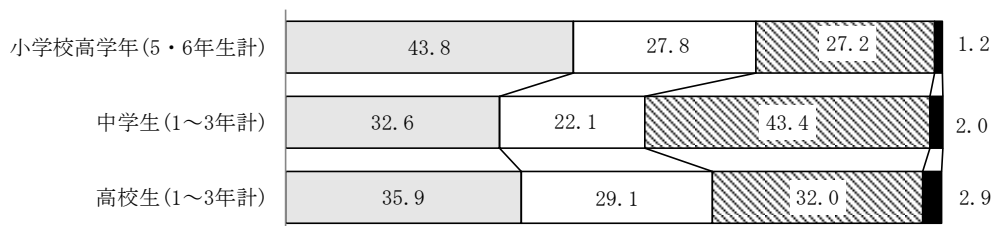
経年で見ると、すべての学年において「よく読んでもらった」または「たまに読んでもらった」の割合が令和元年度から増加し、中学生は平成 26 年度から増加している。

④家族と本のことについて話しをすることがあるか（％）（小学校高学年以上）

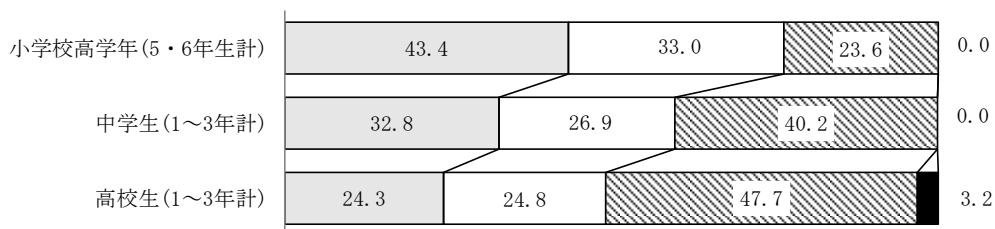
【平成 26 年度】



【令和元年度】



【令和 5 年度】

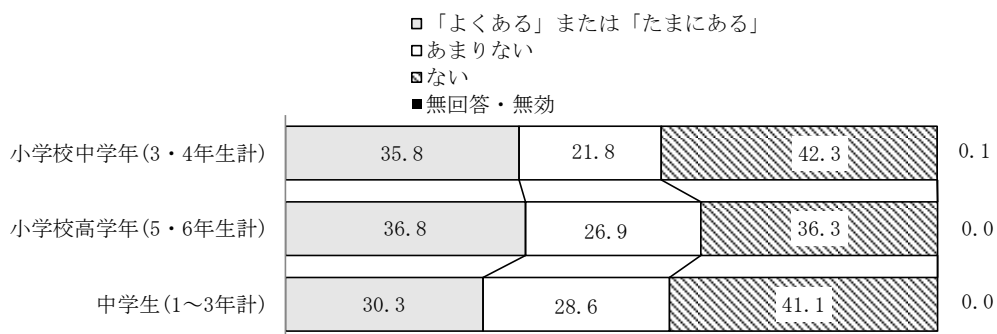


「家族と本のことについて話しをすることがあるか」について、「よくある」または「たまにある」の割合は学年が上がるにつれて減少し、小学校高学年が43.4%であるのに対し、高校生は24.3%となっている。

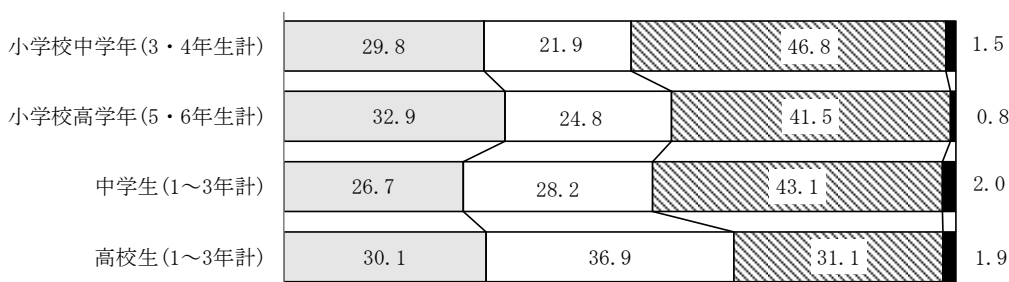
経年で見ると、小学校高学年において「よくある」または「たまにある」の割合が平成 26 年度から減少している。一方、中学生においては平成 26 年度から増加している。

⑤家族に本をよく読むように言われることがあるか（％）（小学校中学年以上）

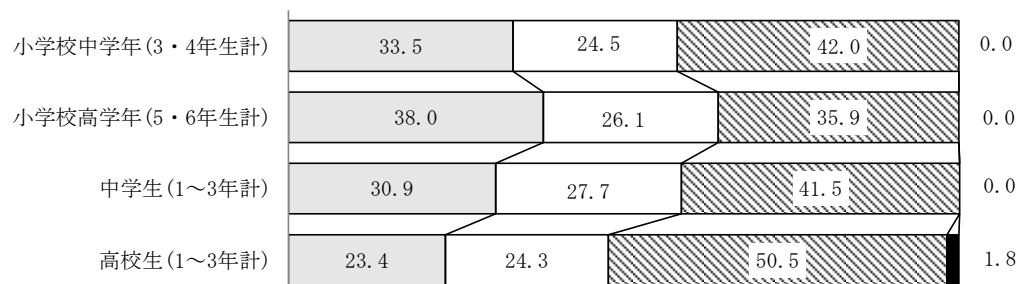
【平成 26 年度】



【令和元年度】



【令和 5 年度】

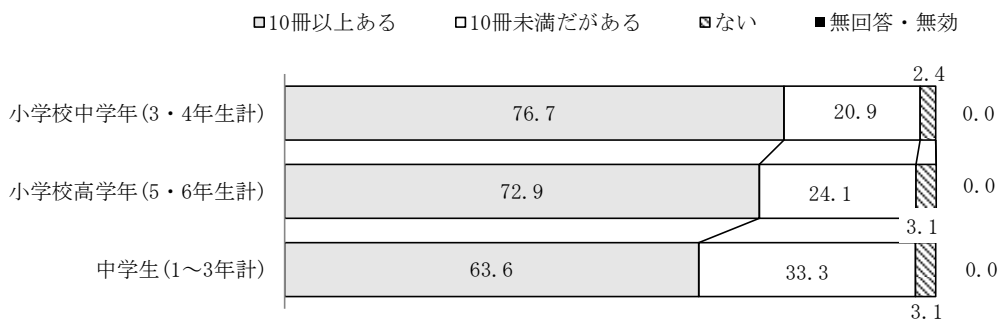


「家族に本をよく読むように言われることがあるか」について、「よくある」または「たまにある」の割合は学年が上がるにつれて減少傾向にあり、小学校高学年が 38.0%であるのに対し、高校生は 23.4%となっている。

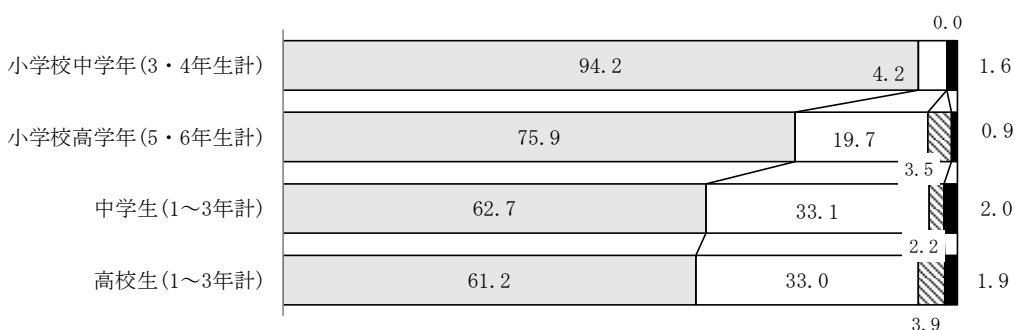
経年で見ると、高校生を除くすべての学年において「よくある」または「たまにある」の割合が令和元年度から増加している。

⑥家に自分の本を持っているか（％）（小学校中学年以上）

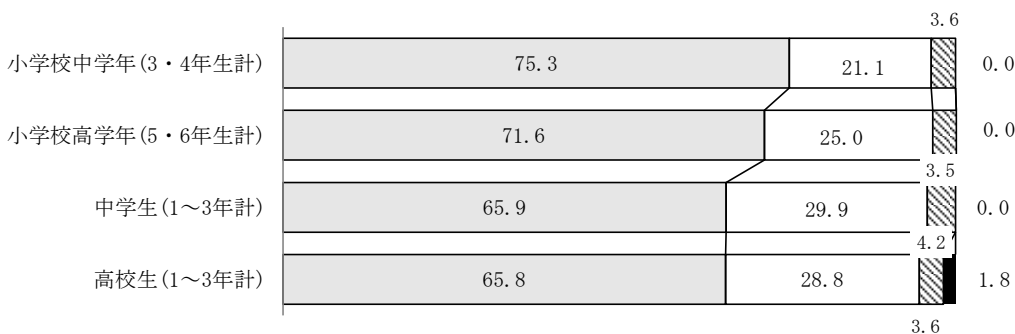
【平成 26 年度】



【令和元年度】



【令和 5 年度】



「家に自分の本を持っているか」について、「10 冊以上ある」の割合は学年が上がるにつれて減少し、小学校中学年が 75.3％であるのに対して、高校生は 65.8％となっている。

経年で見ると、小学校中学年と小学校高学年において「10 冊以上ある」の割合が令和元年度から減少している。一方、中学生は令和元年度から 3.2 ポイント増加している。また、小学校中学年において「10 冊以上ある」の割合が令和元年度から 18.9 ポイント減少し、「10 冊未満だがある」の割合が 16.9 ポイント増加している。

(6)家庭での読書環境と児童・生徒の読書に対する意識の相関

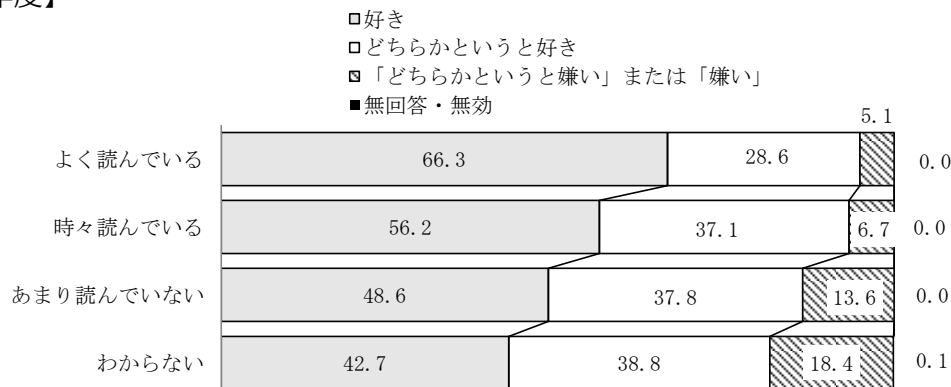
家庭での読書環境が児童・生徒の読書活動に影響するかどうかの関係をみるため、

- ①「家族はふだんから本を読んでいるか」と「読書の好き嫌い」の相関、
- ②「小さい頃に家族によく本を読んでもらったか」と「読書の好き嫌い」の相関をみた。

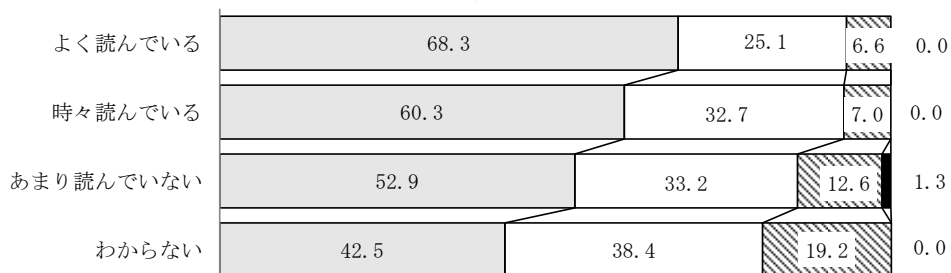
① 家族の読書状況と子どもの読書に対する意識の相関（％）

ア 小学校中学年（３・４年生）

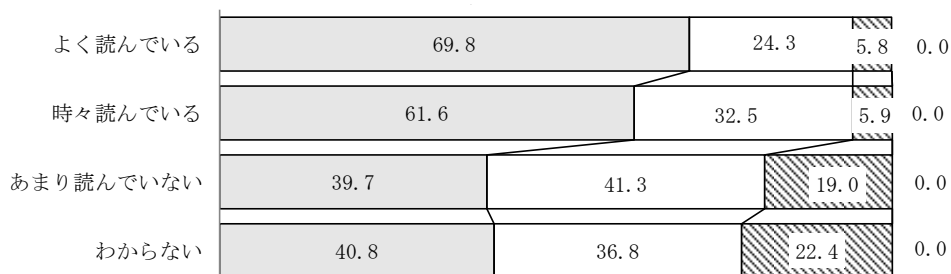
【平成 26 年度】



【令和元年度】

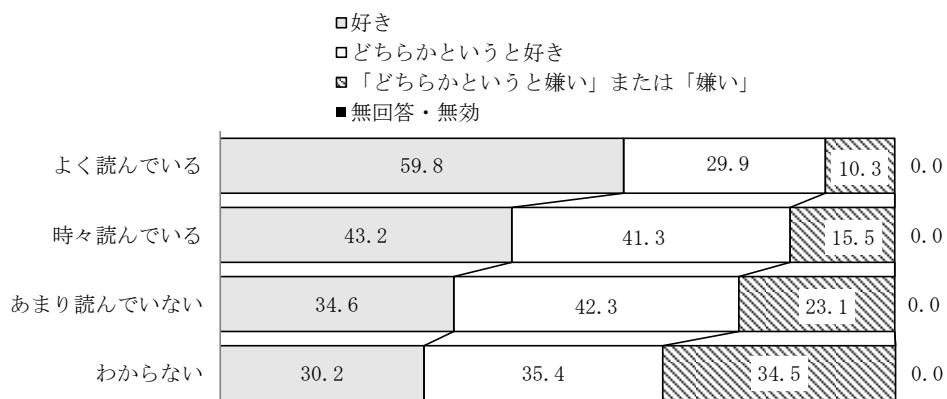


【令和 5 年度】

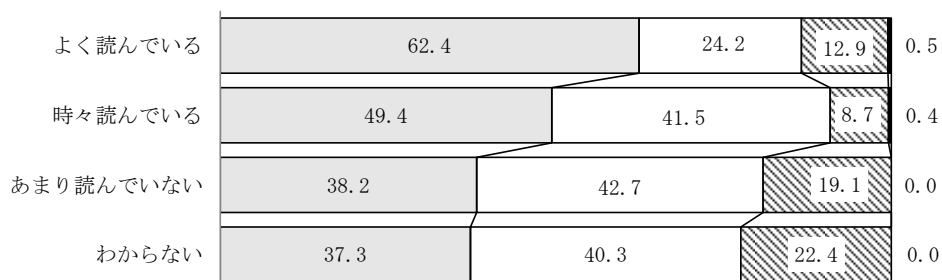


イ 小学校高学年（５・６年生）

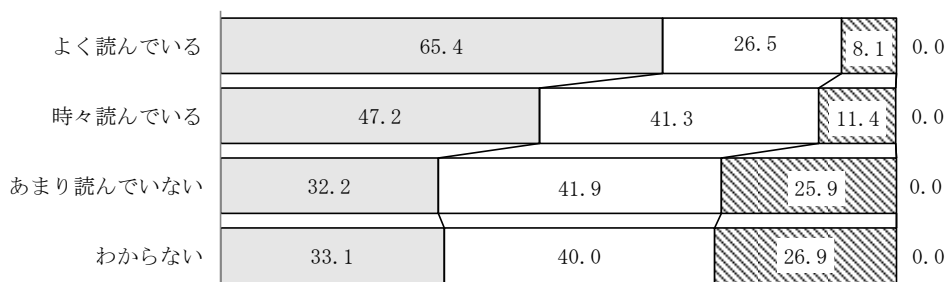
【平成 26 年度】



【令和元年度】

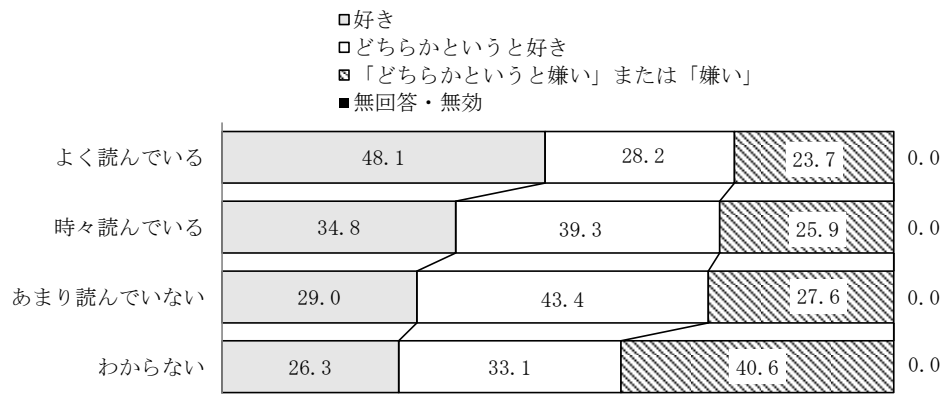


【令和 5 年度】

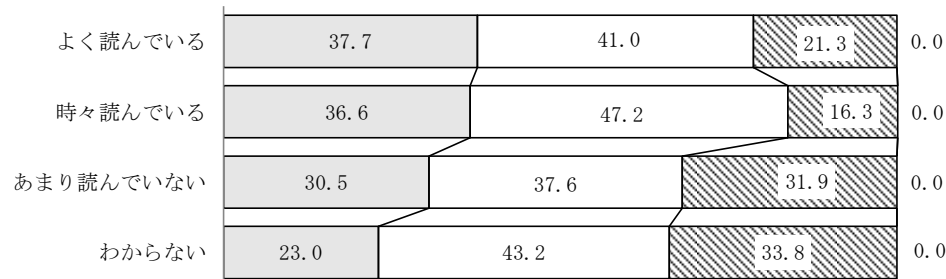


ウ 中学生（１～３年生）

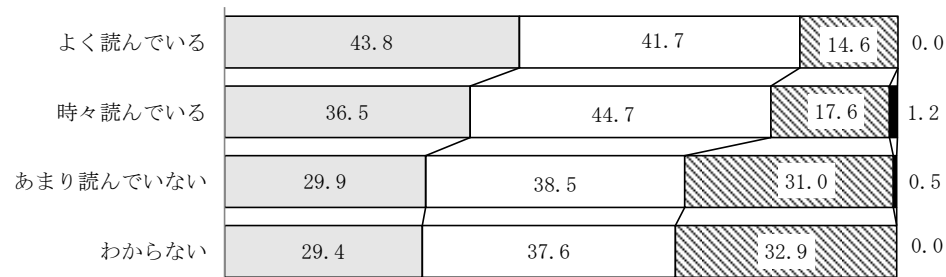
【平成 26 年度】



【令和元年度】

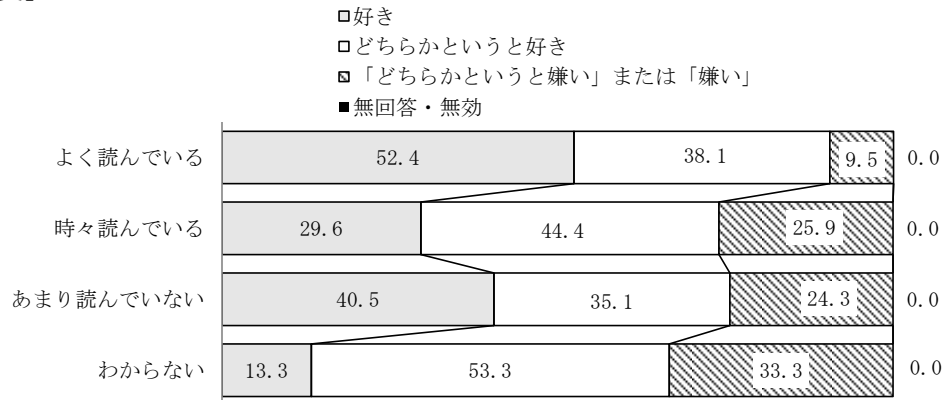


【令和 5 年度】

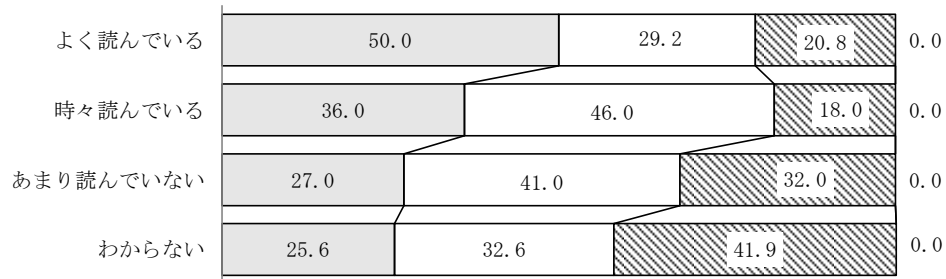


エ 高校生（１～３年生）

【令和元年度】



【令和５年度】



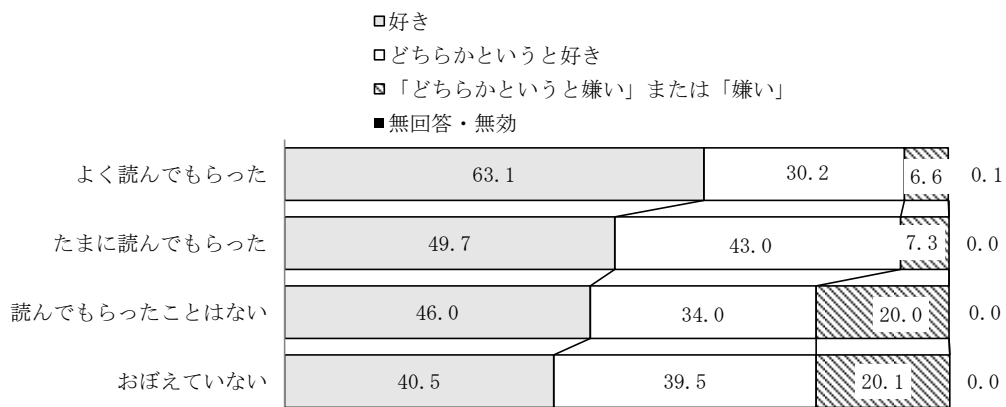
「家族はふだんから本を読んでいるか」と「読書の好き嫌い」の相関について、すべての学年において家族がふだんから本を「よく読んでいる」または「時々読んでいる」と答えた児童・生徒ほど、読書が「好き」または「どちらかという好き」の割合が高い傾向にある。

経年で見ると、小学校中学年と小学校高学年、高校生において家族がふだんから本を「あまり読んでいない」と答えた児童・生徒のうち、読書が「どちらかという嫌い」または「嫌い」と答えた割合は、令和元年度から増加している。

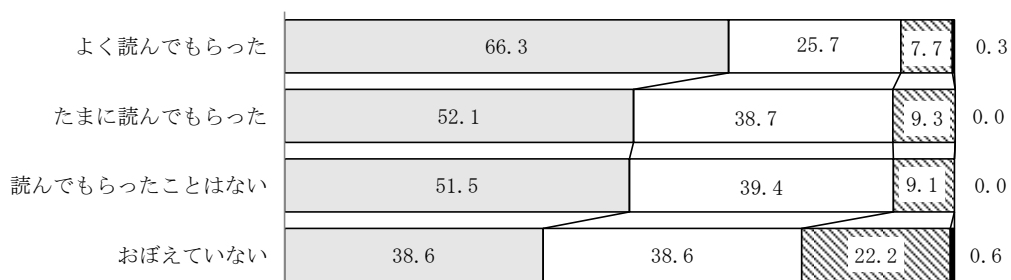
② 家族の読み聞かせの状況と子どもの読書に対する意識の相関（％）

ア 小学校中学年（３・４年生）

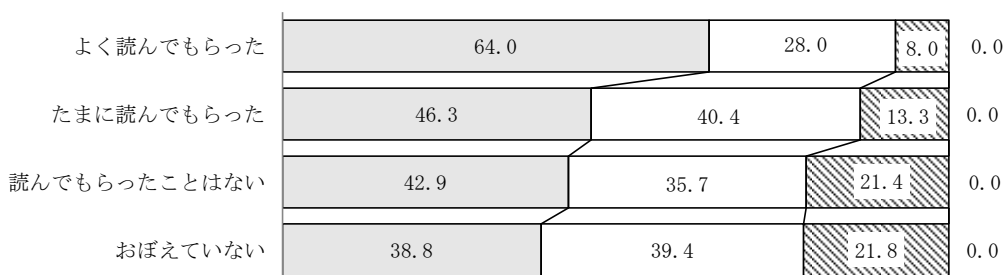
【平成 26 年度】



【令和元年度】

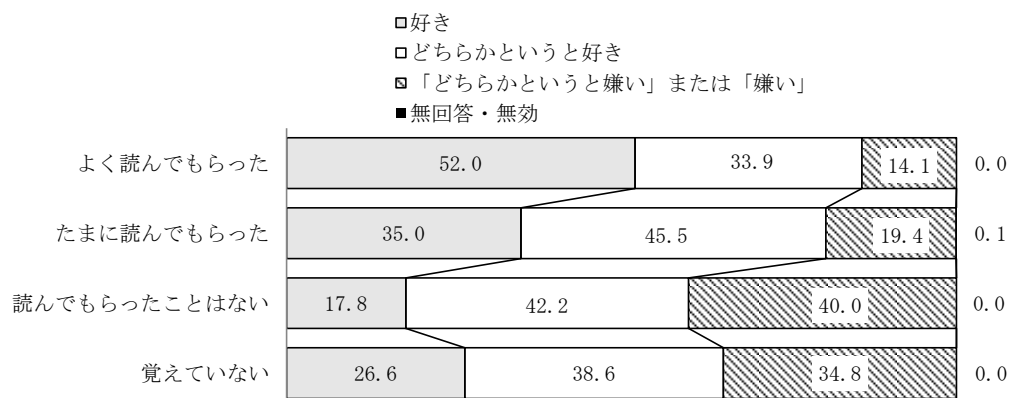


【令和 5 年度】

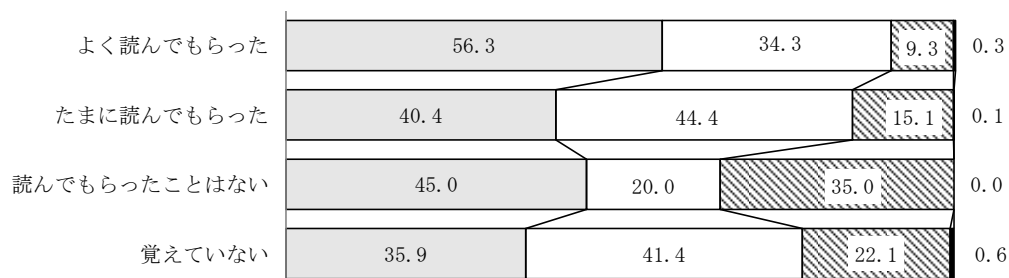


イ 小学校高学年（５・６年生）

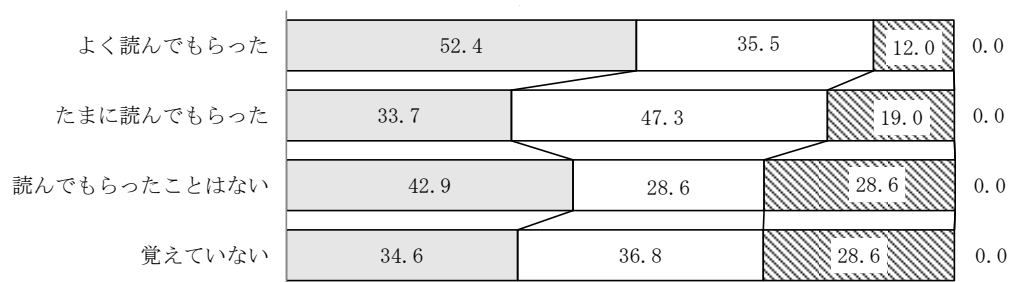
【平成 26 年度】



【令和元年度】

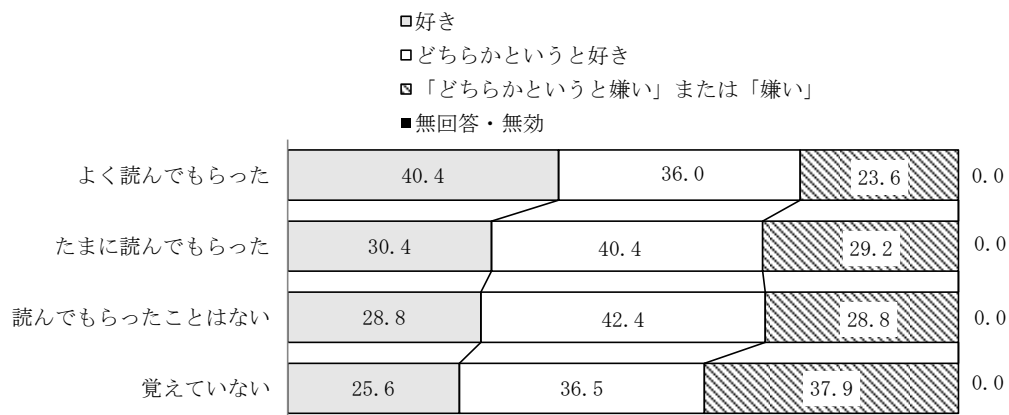


【令和 5 年度】

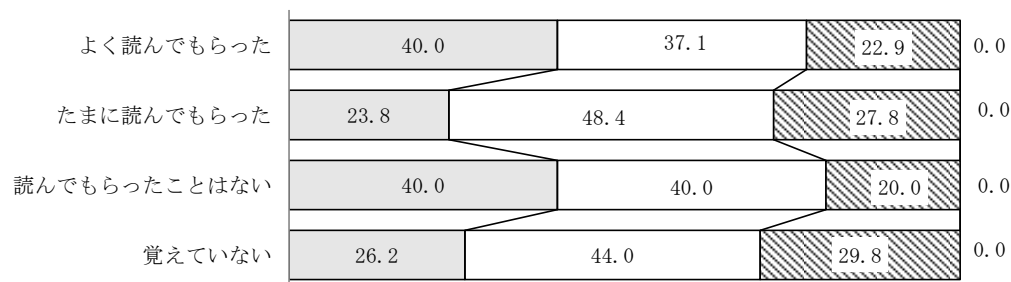


ウ 中学生（１～３年生）

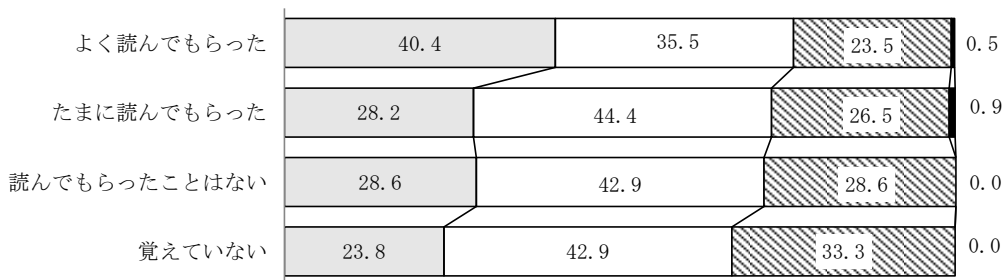
【平成 26 年度】



【令和元年度】

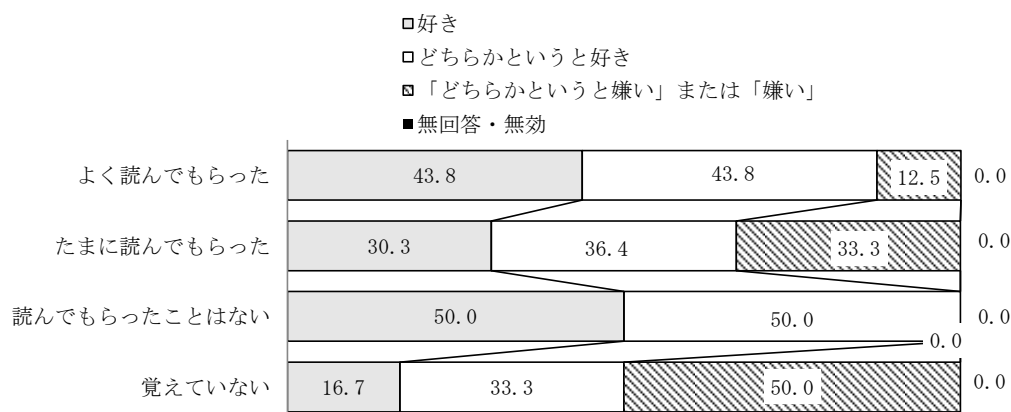


【令和 5 年度】

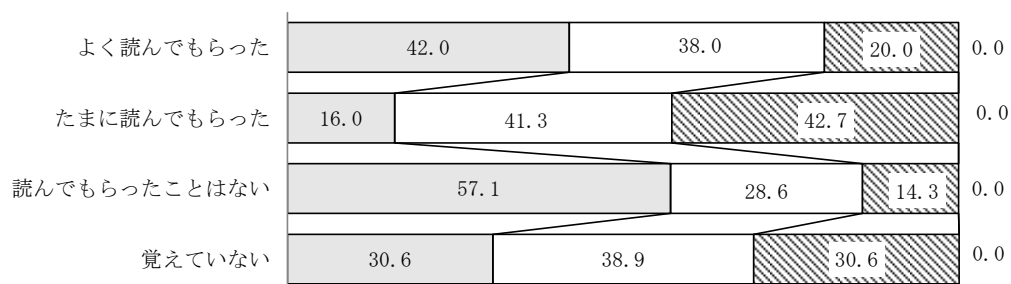


エ 高校生（１～３年生）

【令和元年度】



【令和５年度】



「小さい頃に家族によく本を読んでもらったか」と「読書の好き嫌い」の相関について、高校生を除くすべての学年において小さい頃に家族に本を「よく読んでもらった」または「たまに読んでもらった」と答えた児童・生徒ほど、読書が「好き」または「どちらかという好き」の割合が高い傾向にある。一方、高校生において「読んでもらったことはない」と答えた生徒のうち、読書が「好き」または「どちらかという好き」と答えた割合が57.1%と最も多くなっている。

経年で見ると、小学校中学年と中学生において「読んでもらったことはない」と答えた児童・生徒のうち、読書が「どちらかという嫌い」または「嫌い」と答えた割合は令和元年度から増加している。

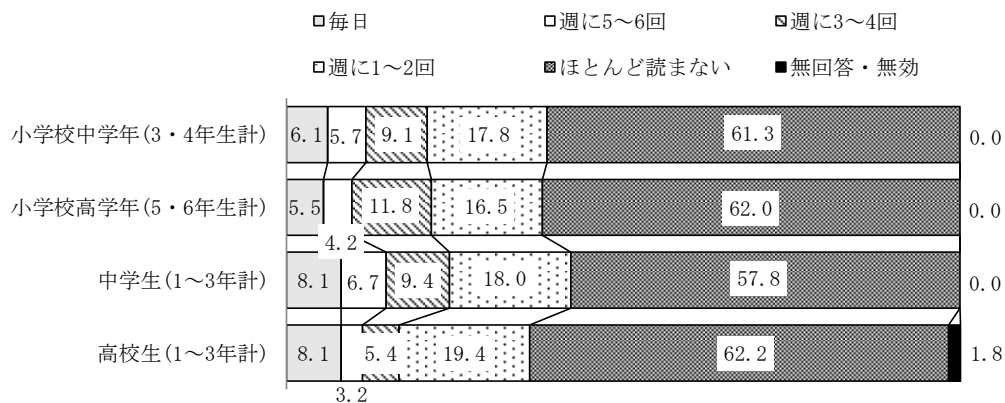
(7) 電子書籍の使用状況

① 紙ではない電子の本を読んだことがあるか (%) (小学校低学年)



「紙ではない電子の本を読んだことがあるか」について、「はい」が32.3%、「いいえ」が56.4%となっており、約3割の児童が電子書籍を読んだことがあると答えている。

② 紙の本以外で読書することがあるか (%) (小学校中学年以上)

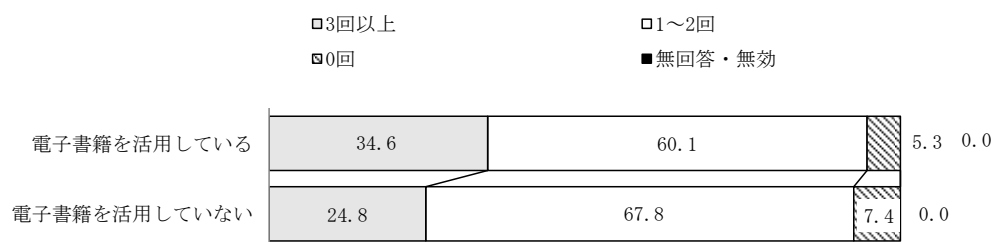


「紙の本以外で読書することがあるか」について、すべての学年において「ほとんど読まない」の割合が最も多く、約6割の児童・生徒が紙の本以外をほとんど読まないと答えている。

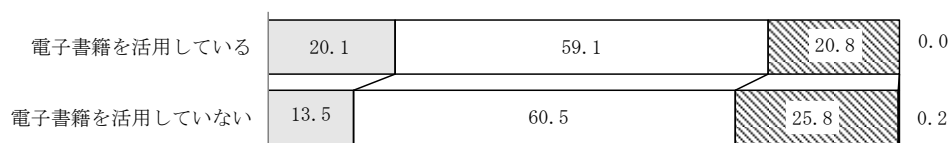
(8) 電子書籍の登場による読書活動実態の変化

① 電子書籍の活用状況と1週間の学校図書館の利用状況の相関（％）

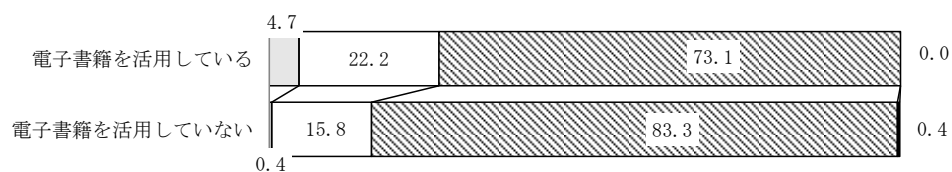
ア 小学校中学年（3・4年生）



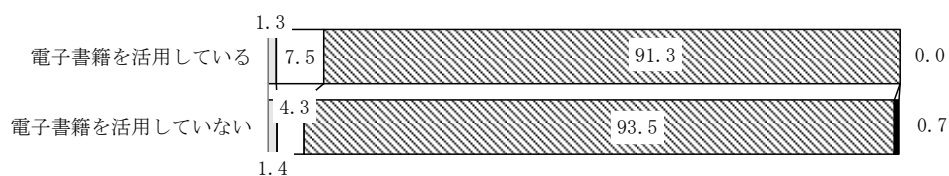
イ 小学校高学年（5・6年生）



ウ 中学生



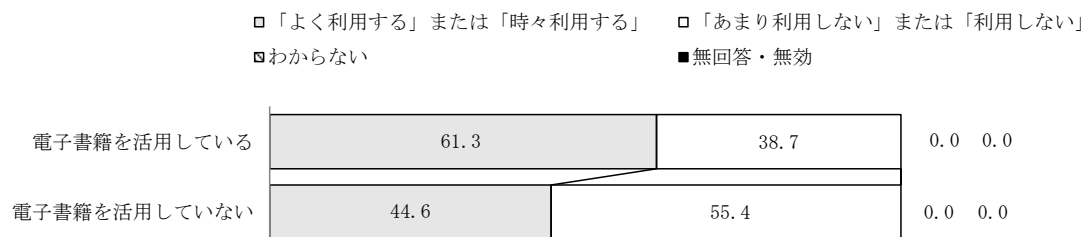
エ 高校生



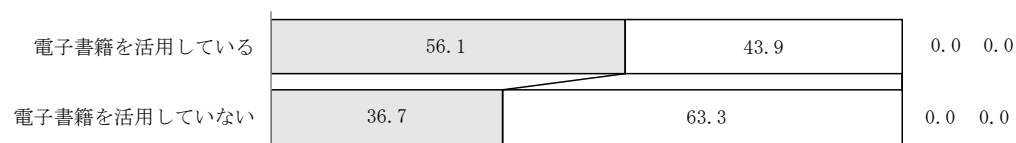
「電子書籍の活用状況」と「1週間の学校図書館の利用状況」の相関について、すべての学年において「電子書籍を活用している」と答えた児童・生徒ほど、学校図書館の利用回数が「3回以上」または「1～2回」の割合が高くなっている。

② 電子書籍の活用状況と学校以外の図書館の利用状況の相関（％）

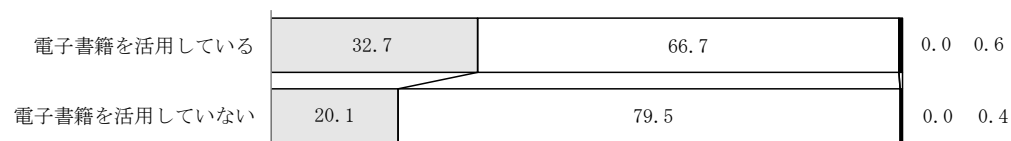
ア 小学校中学年（３・４年生）



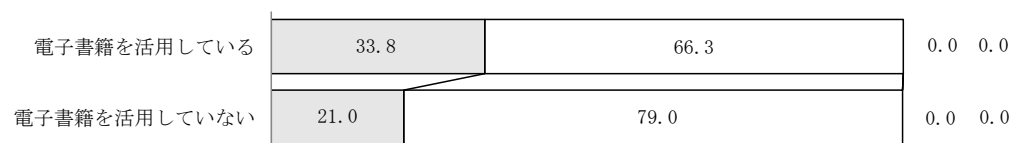
イ 小学校高学年（５・６年生）



ウ 中学生



エ 高校生

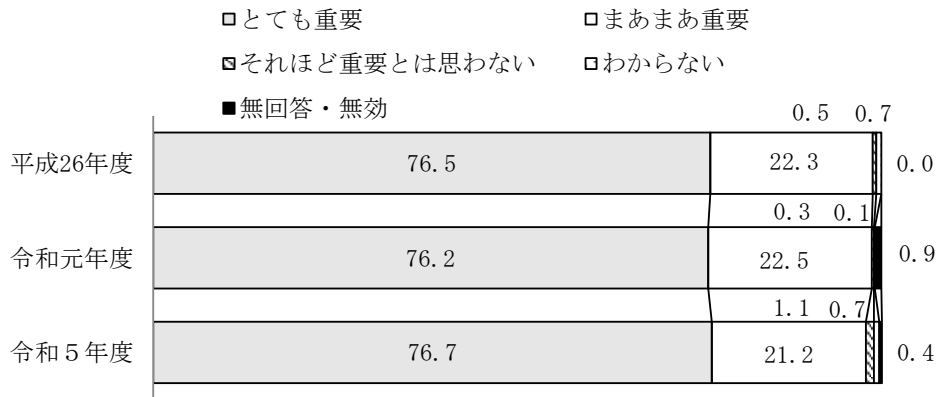


「電子書籍の活用状況」と「学校以外の図書館の利用状況」の相関について、すべての学年において「電子書籍を活用している」と答えた児童・生徒ほど、学校以外の図書館を「よく利用する」または「時々利用する」の割合が高くなっている。

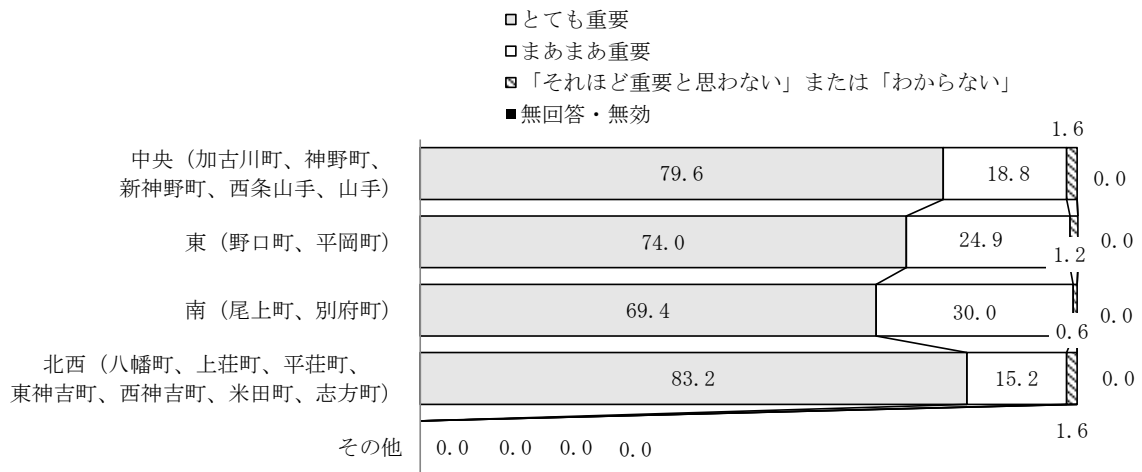
2. 子どもの読書活動に対する保護者（就学前の子どもをもつ保護者）の意識

(1) 子どもの読書活動の意義に対する認識

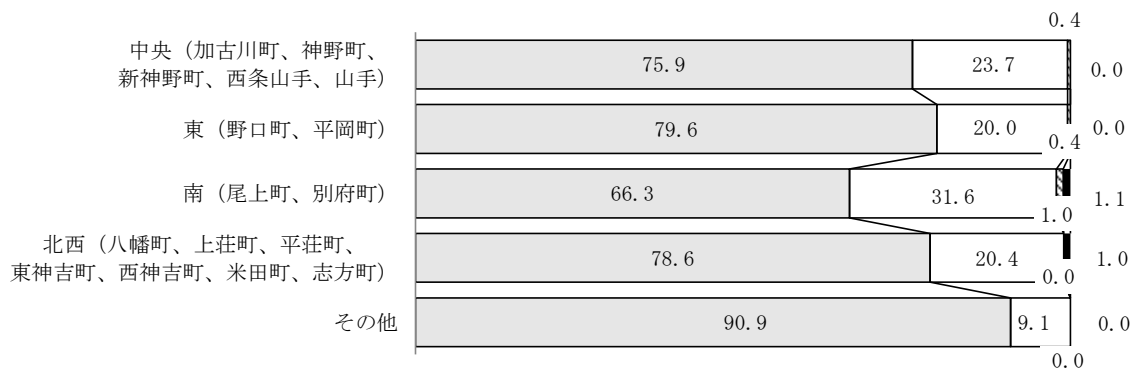
子どもの成長において読書は重要だと考えるか（％）



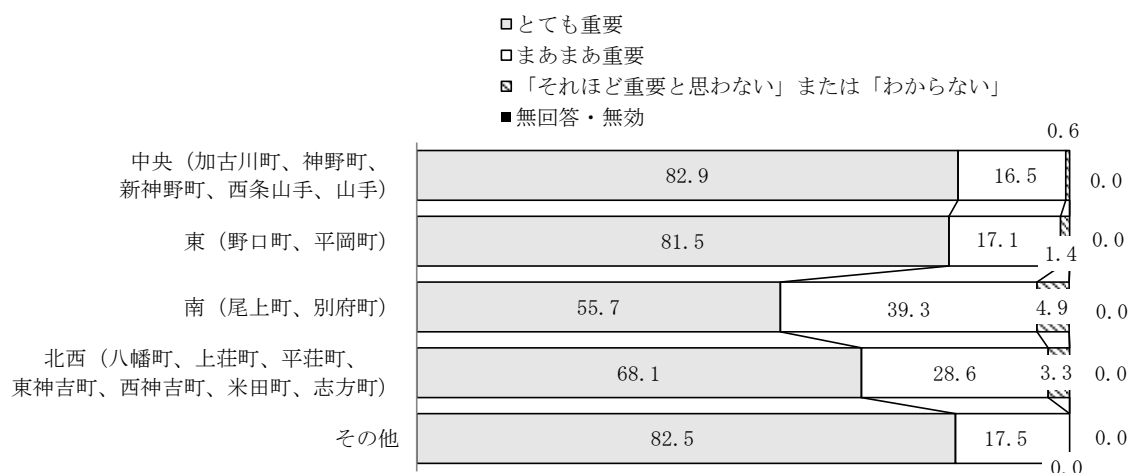
【平成 26 年度】



【令和元年度】



【令和5年度】

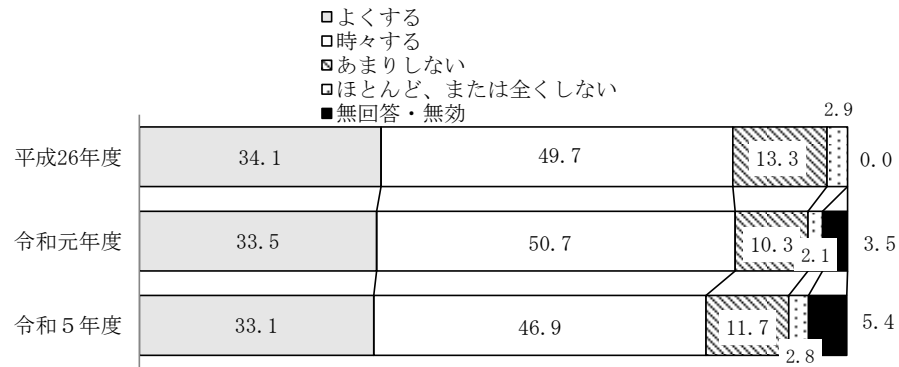


「子どもの成長において読書は重要だと考えるか」について、「とても重要」(76.7%)の割合が最も多く、「まあまあ重要」と合わせると 97.9%となっている。経年で見ると、平成 26 年度から大きな差はない。

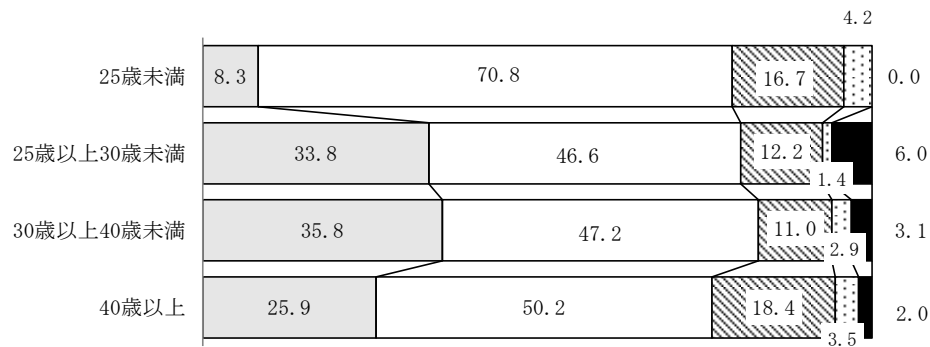
エリア別で見ると、中央部エリアにおいて「子どもの成長において読書はとても重要だと思う」(82.9%)の割合が最も多く、「まあまあ重要」と合わせると 99.4%となっている。経年で見ると、その他を除くすべてのエリアにおいて「とても重要」と「まあまあ重要」を合わせた割合が令和元年度から減少している。また、南部エリアと北西部エリアにおいて「とても重要」の割合が、令和元年度から各 10 ポイント以上低下している。

(2)家庭での読書環境

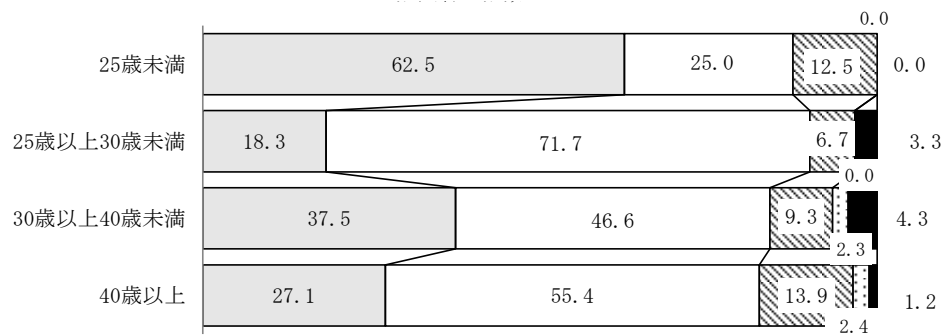
子どもに読み聞かせをするか (%)



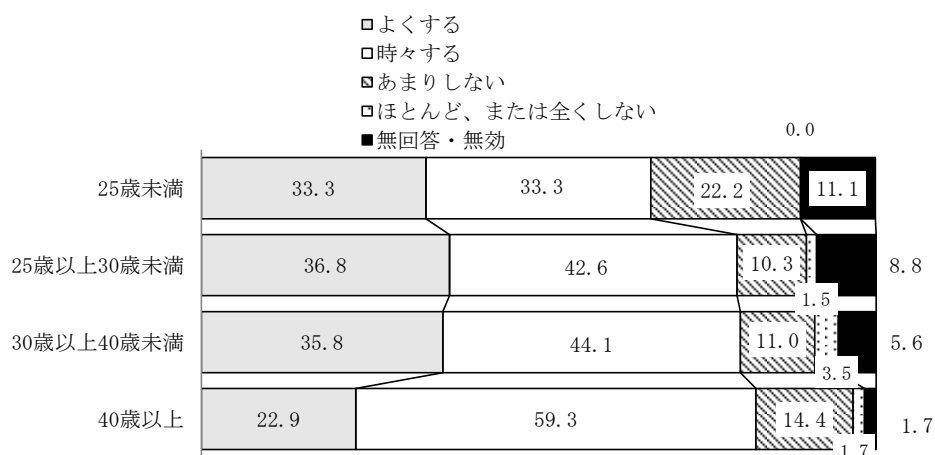
【平成 26 年度】



【令和元年度】



【令和5年度】



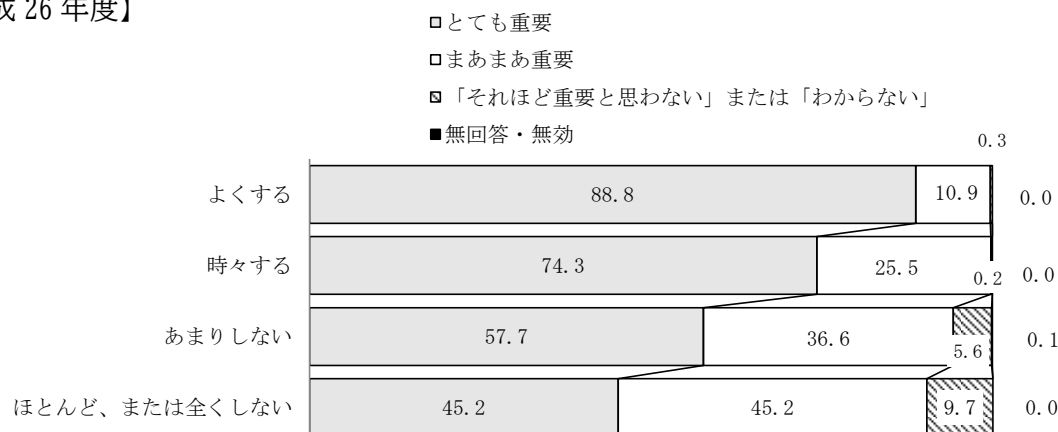
「子どもに読み聞かせをするか」について、「時々する」(46.9%)の割合が最も多く、「よくする」と合わせると80.0%となっている。経年で見ると、「よくする」と「時々する」を合わせた割合が、令和元年度から4.2ポイント低下している。

保護者の年齢別で見ると、「よくする」と「時々する」を合わせた割合は保護者の年齢が上がるにつれて増加し、25歳未満が66.6%であるのに対し、40歳以上は82.2%となっている。経年で見ると、30歳未満において「よくする」と「時々する」を合わせた割合が令和元年度から各10ポイント以上低下しており、25歳未満において「よくする」の割合が29.2ポイント減少している。

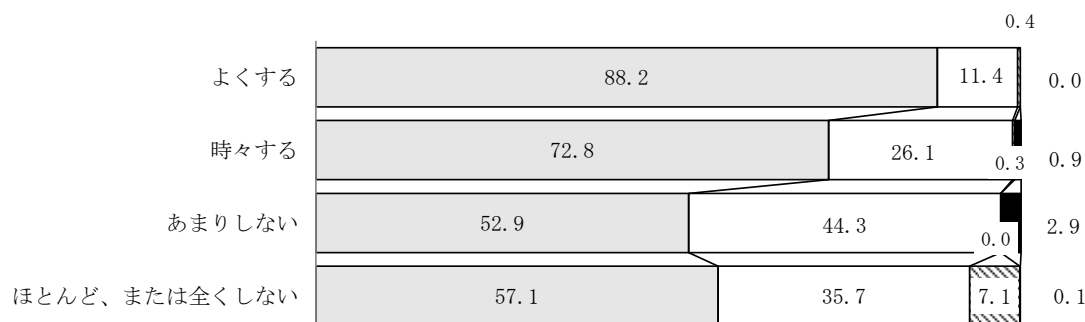
(3)保護者の子どもの読書活動に対する意識および読書状況と読み聞かせ実施状況の相関

①「子どもの読解力等を育てるうえで読書は重要だと考えるか」と「読み聞かせの実施状況」の相関（％）

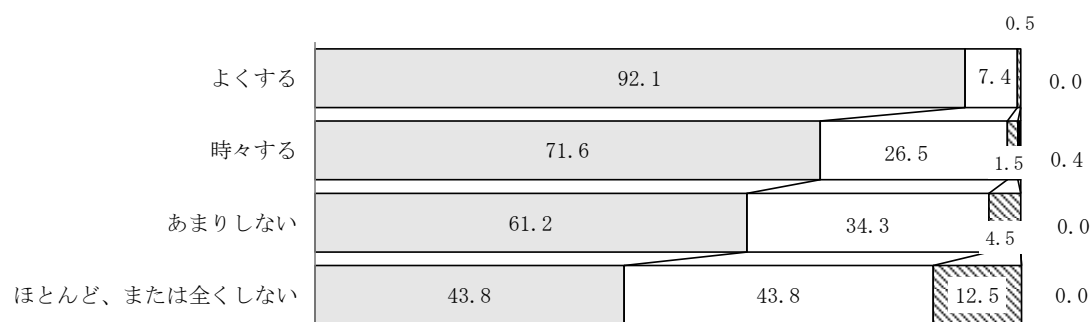
【平成 26 年度】



【令和元年度】



【令和 5 年度】

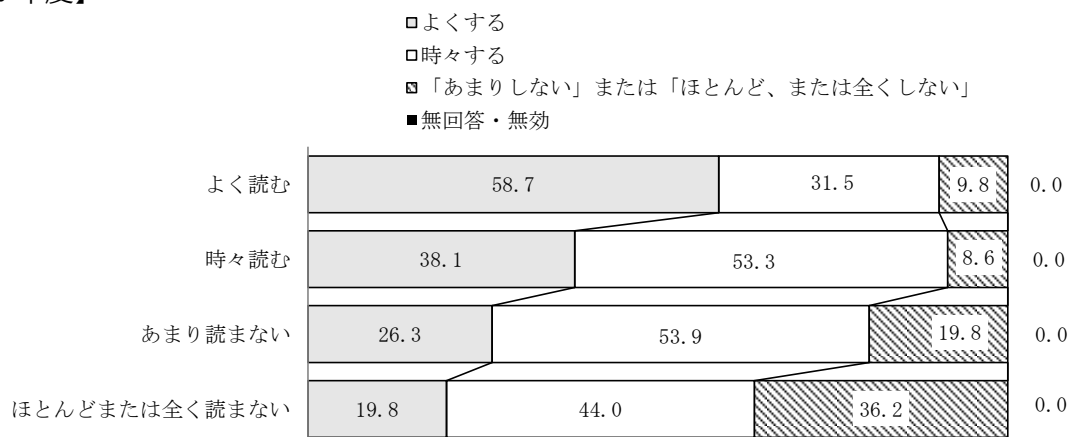


「子どもの読書活動に対する意識」と「読み聞かせ実施状況」の相関について、「よくする」または「時々する」と答えた保護者ほど、読書は「とても重要」または「まあまあ重要」と答えた割合が高い傾向にある。

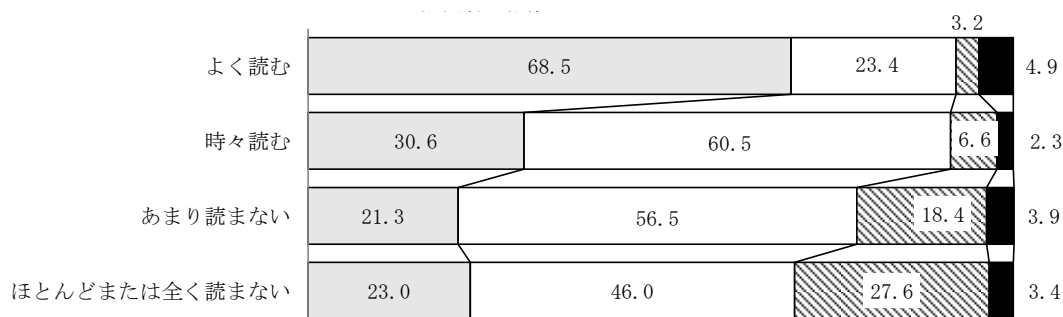
経年で見ると、子どもへの読み聞かせを「あまりしない」または「ほとんど、または全くしない」と答えた保護者のうち、「とても重要」または「まあまあ重要」と答えた割合は、令和元年度から減少している。

②「(保護者自身) 日頃から本を読むか」と「子どもへの読み聞かせの実施状況」の相関 (%)

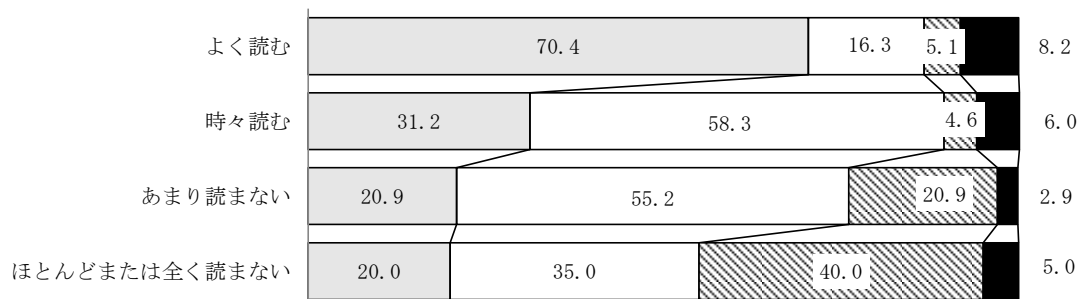
【平成 26 年度】



【令和元年度】



【令和 5 年度】

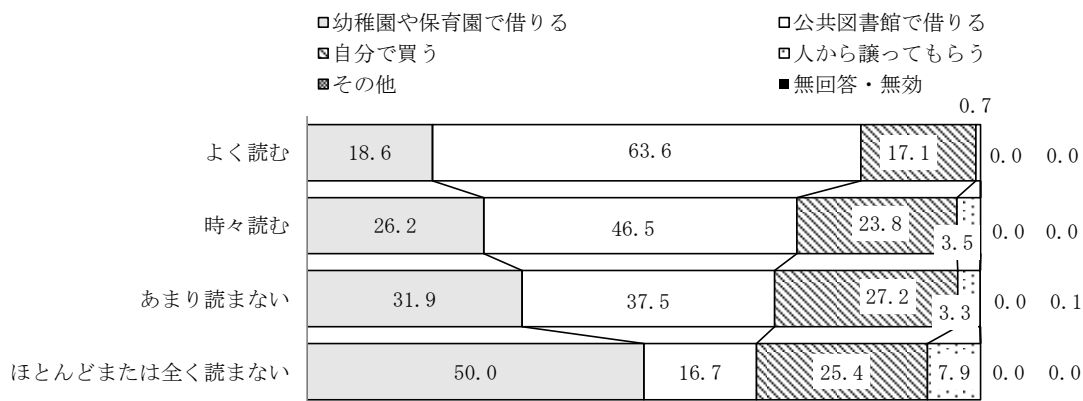


「保護者の読書状況」と「読み聞かせ実施状況」の相関について、日頃から本を「よく読む」または「時々読む」と答えた保護者ほど、子どもへの読み聞かせを「よくする」または「時々する」と答えた割合が高い傾向にある。

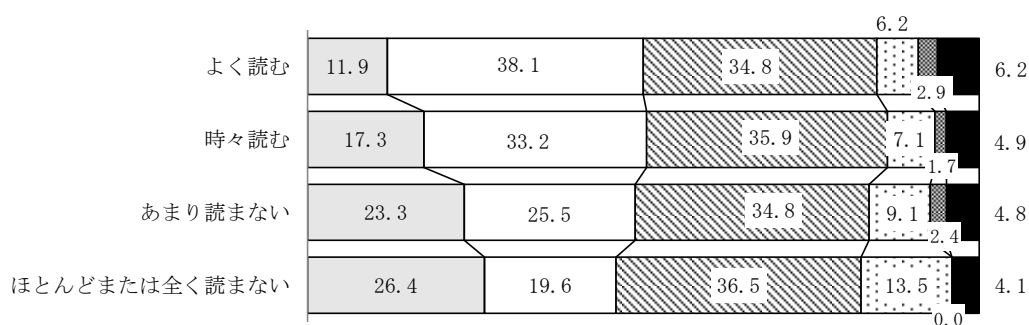
経年で見ると、日頃から本を「ほとんどまたは全く読まない」と答えた保護者のうち、子どもへの読み聞かせを「あまりしない」または「ほとんど、または全くしない」と答えた割合は、令和元年度から 12.4 ポイント増加している。

③「(保護者自身) 日頃から本を読むか」と「子どもの本をどのように用意するか」の相関 (%)

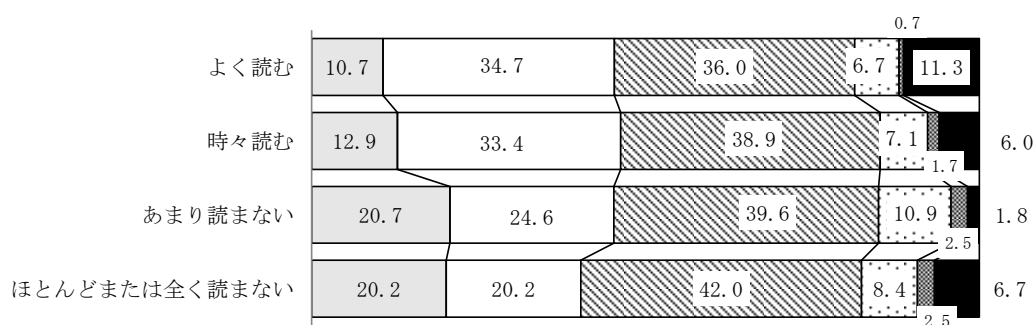
【平成 26 年度】



【令和元年度】



【令和 5 年度】

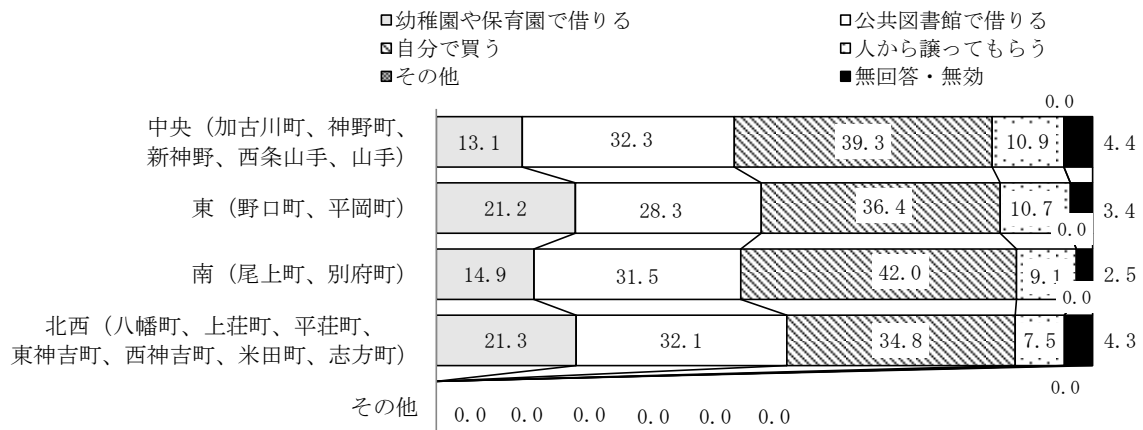


「保護者の読書状況」と「子どもの本の用意方法」の相関について、保護者の読書の頻度にかかわらず「自分で買う」の割合が最も多くなっている。保護者が本を読む頻度が減るにつれて子どもの本を「自分で買う」と答えた割合が高く、読む頻度が増えるにつれて子どもの本を「公共図書館で借りる」と答えた割合が増加している。

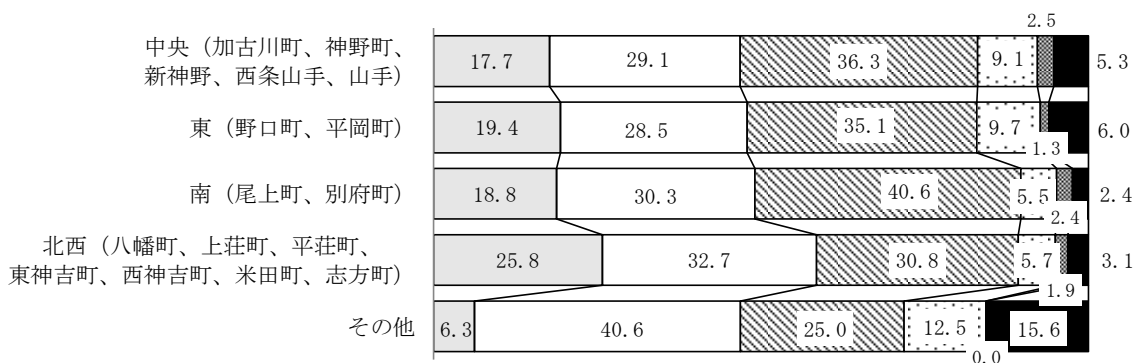
経年で見ると、保護者自身の読書の頻度にかかわらず「自分で買う」の割合が平成 26 年度から増加している。

④「子どもの本をどのように用意するか（就学前の子どもをもつ保護者）」と居住別地域の比較（％）

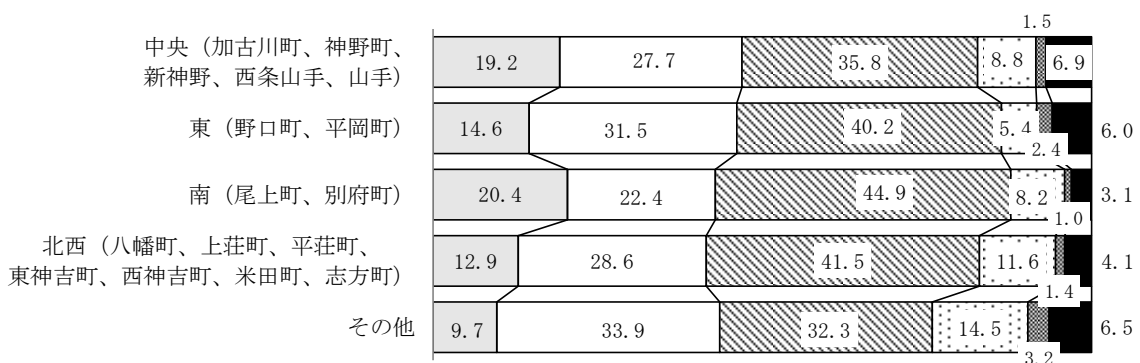
【平成 26 年度】



【令和元年度】



【令和 5 年度】

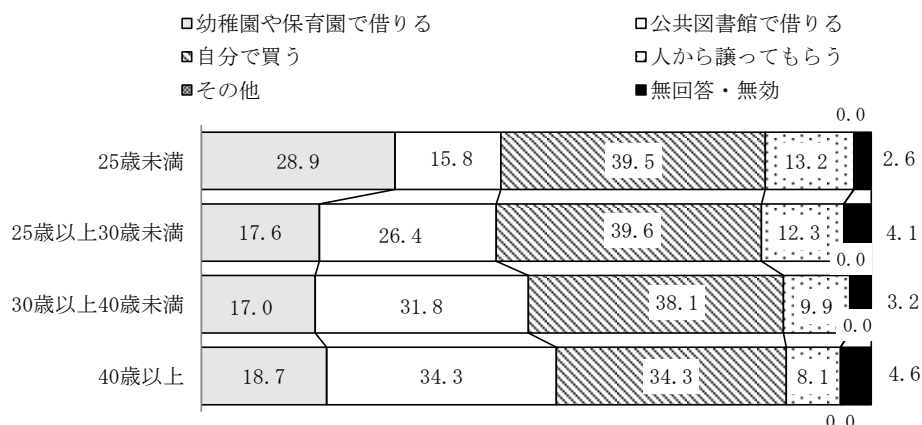


「子どもの本の用意方法」について、エリア別で見ると、「その他」を除くすべての地域において、子どもの本は「自分で買う」の割合が最も多く、南部エリアは 44.9% と最も多くなっている。

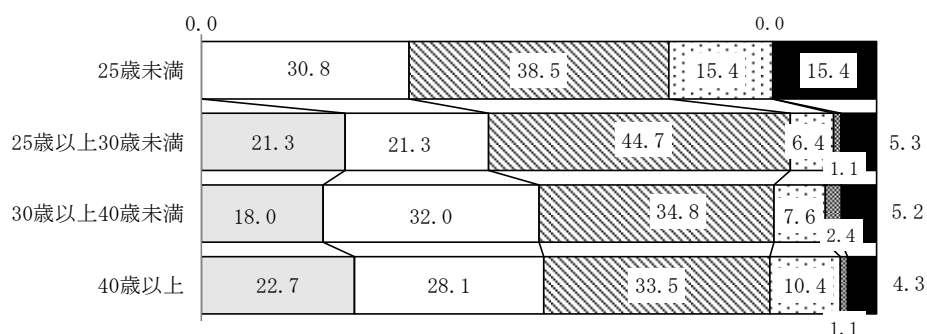
経年で見ると、北西部エリアにおいて「幼稚園や保育園で借りる」の割合が令和元年度から 12.9 ポイント減少し、「自分で買う」の割合が 10.7 ポイント増加している。

⑤「子どもの本をどのように用意するか（就学前の子どもをもつ保護者）」と保護者の年齢別比較（％）

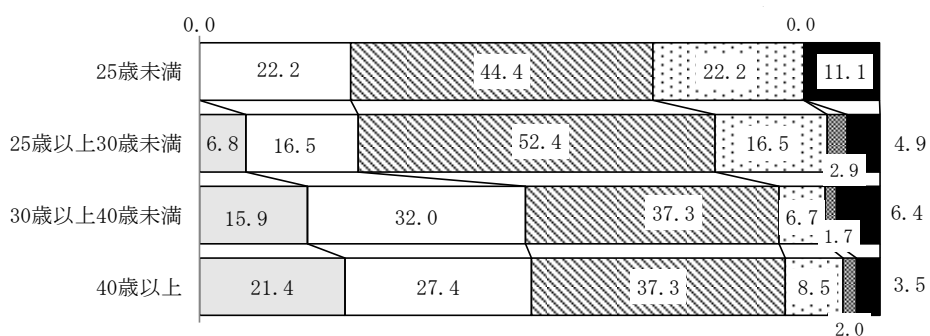
【平成 26 年度】



【令和元年度】



【令和 5 年度】

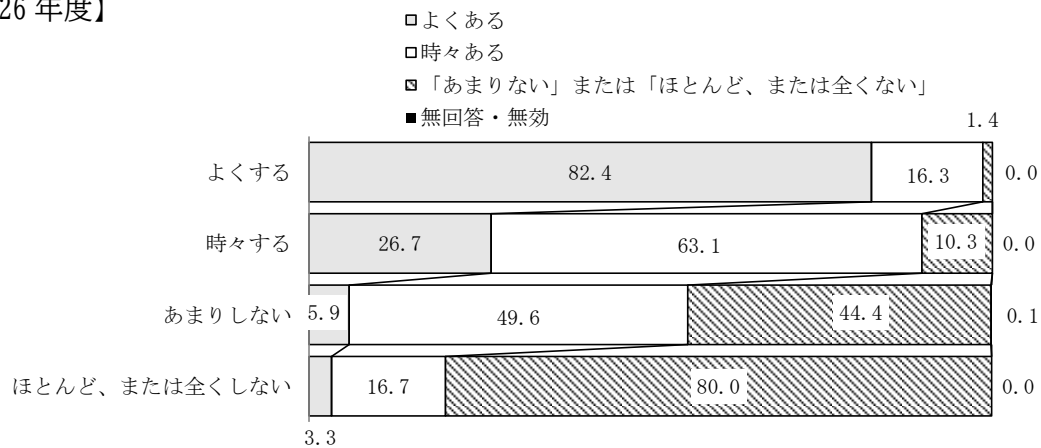


「子どもの本の用意方法」について、保護者の年齢別で見ると、保護者の年齢にかかわらず子どもの本は「自分で買う」の割合が最も多く、25 歳以上 30 歳未満は 50％を超えている。また、25 歳未満において「幼稚園や保育園で借りる」の割合は 0％となっており、「人から譲ってもらう」の割合は 22.2％と他の年代に比べて多くなっている。

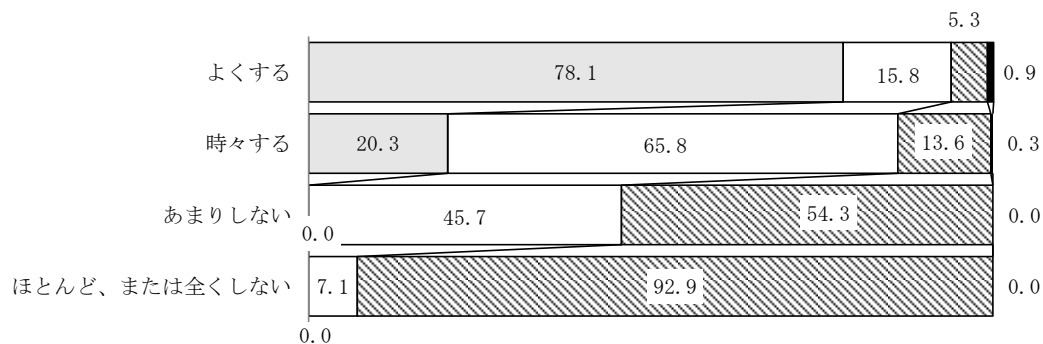
経年で見ると、25 歳以上 30 歳未満において「幼稚園や保育園で借りる」の割合が令和元年度から 14.5 ポイント減少し、「自分で買う」の割合が 7.7 ポイント増加している。

⑥「子どもへの読み聞かせの実施状況」と「子どもから本を読んでほしいとせがまれることがあるか」の相関（％）

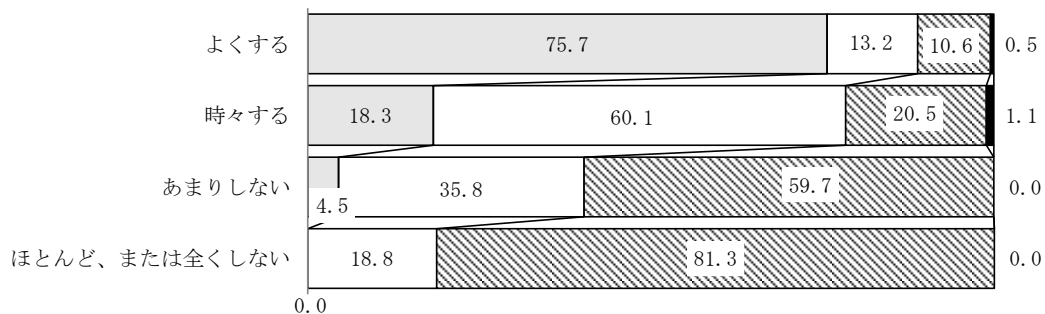
【平成 26 年度】



【令和元年度】



【令和 5 年度】



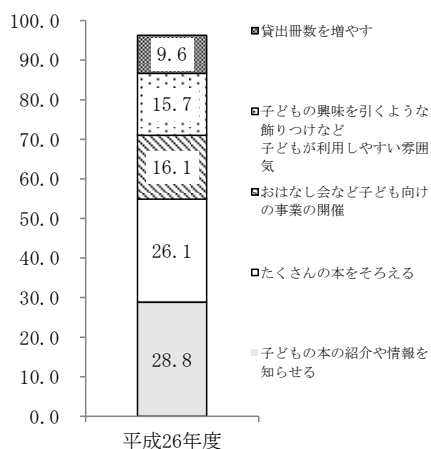
「読み聞かせの実施状況」と「子どもから本を読んでほしいとせがまれるか」の相関について、子どもへの本の読み聞かせを「よくする」または「時々する」と答えた保護者ほど、子どもから本を読んでほしいとせがまれることが「よくある」または「時々ある」と答えた割合が高い傾向にある。本を読んでほしいとせがまれることが「よくある」と「時々ある」を合わせた割合は、本の読み聞かせを「よくする」が 88.9% であるのに対して、「ほとんど、または全くしない」は 18.8% となっている。

経年で見ると、本の読み聞かせを「ほとんど、または全くしない」と答えた保護者のうち、本を読んでほしいとせがまれることが「あまりない」または「ほとんど、または全くない」と答えた割合が令和元年度から 11.6 ポイント減少している。

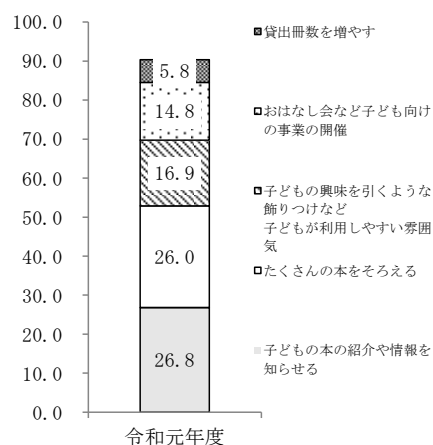
(4) 公共図書館に望むこと

公共図書館に望むこと（上位から）（％）

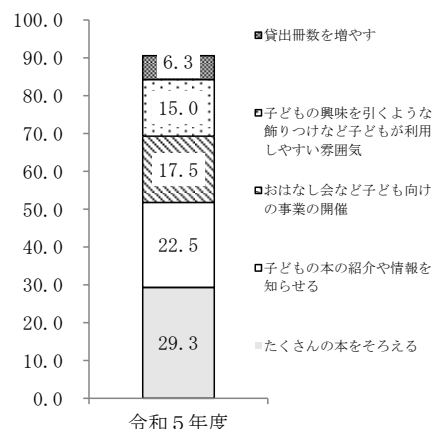
	平成26年度
子どもの本の紹介や情報を知らせる	28.8
たくさんの本をそろえる	26.1
おはなし会など子ども向けの事業の開催	16.1
子どもの興味を引くような飾りつけなど 子どもが利用しやすい雰囲気	15.7
貸出冊数を増やす	9.6



	令和元年度
子どもの本の紹介や情報を知らせる	26.8
たくさんの本をそろえる	26.0
子どもの興味を引くような飾りつけなど 子どもが利用しやすい雰囲気	16.9
おはなし会など子ども向けの事業の開催	14.8
貸出冊数を増やす	5.8



	令和5年度
たくさんの本をそろえる	29.3
子どもの本の紹介や情報を知らせる	22.5
おはなし会など子ども向けの事業の開催	17.5
子どもの興味を引くような飾りつけなど 子どもが利用しやすい雰囲気	15.0
貸出冊数を増やす	6.3

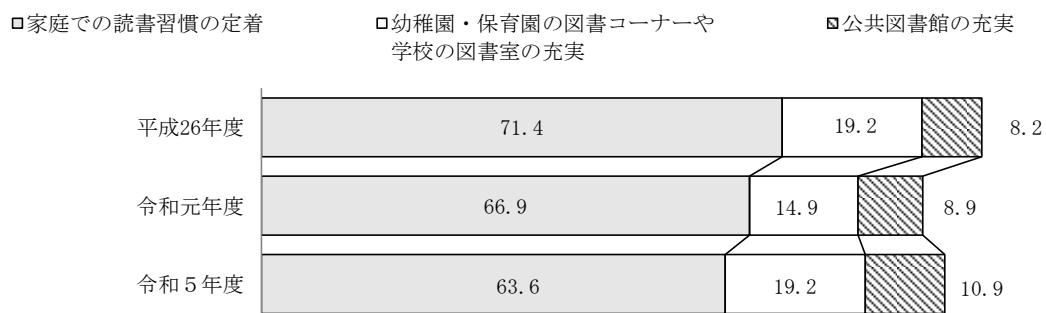


「公共図書館に望むこと」について、「たくさんの本をそろえる」（29.3％）が最も多く、次いで「子どもの本の紹介や情報を知らせる」（22.5％）、「おはなし会など子ども向けの事業の開催」（17.5％）となっている。

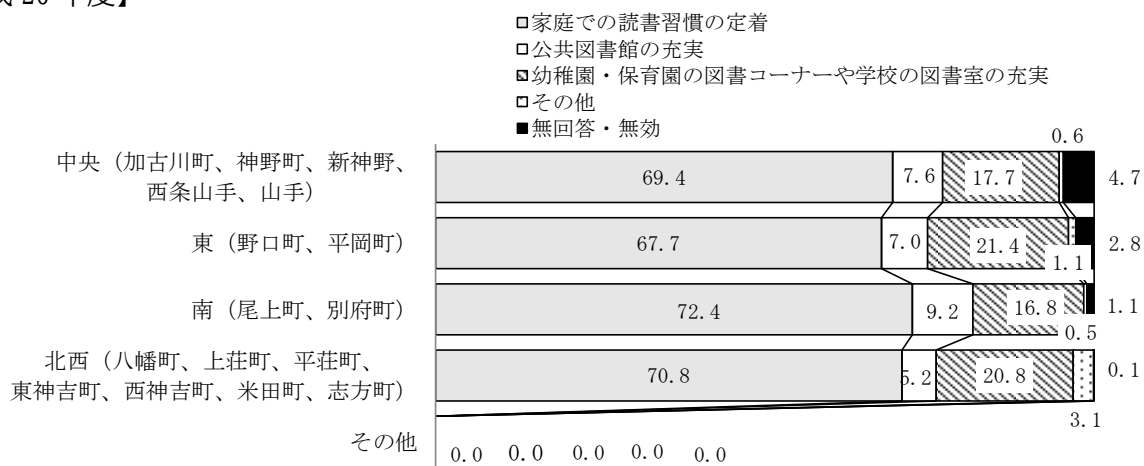
経年で見ると、「子どもの本の紹介や情報を知らせる」の割合は令和元年度から 4.3 ポイント減少している。一方、「たくさんの本をそろえる」の割合は令和元年度から 3.3 ポイント増加しており、本の種類の充実を求める声が多くなっている。

(5)子どもの読書活動の推進を図るうえで最も重要なこと

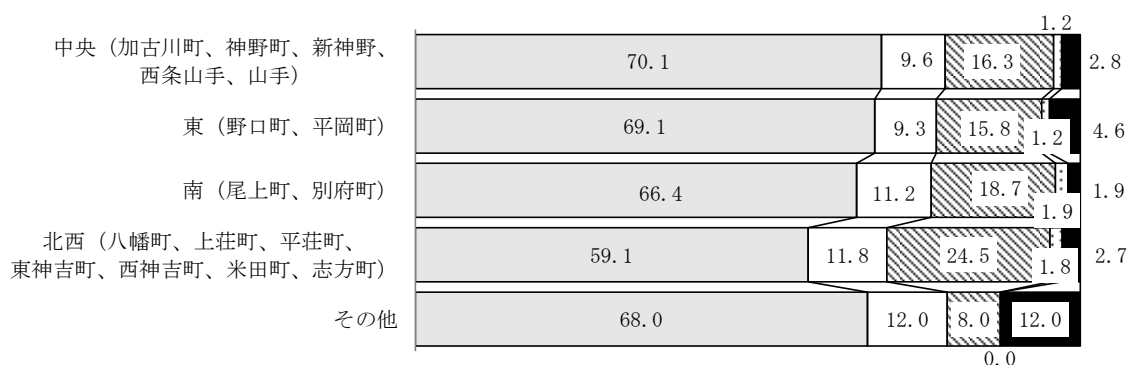
子どもの読書活動の推進を図るうえで最も重要だと思うこと（上位から）（％）



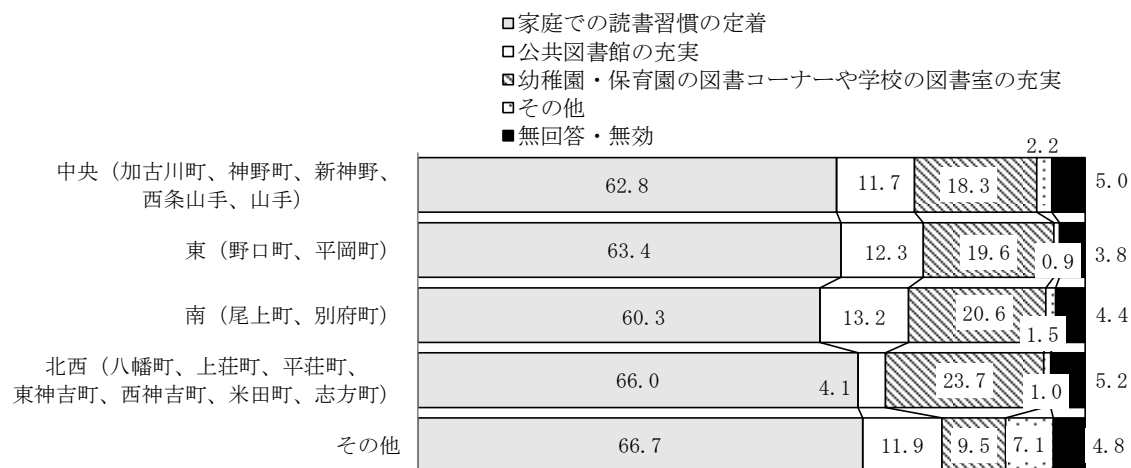
【平成26年度】



【令和元年度】



【令和5年度】

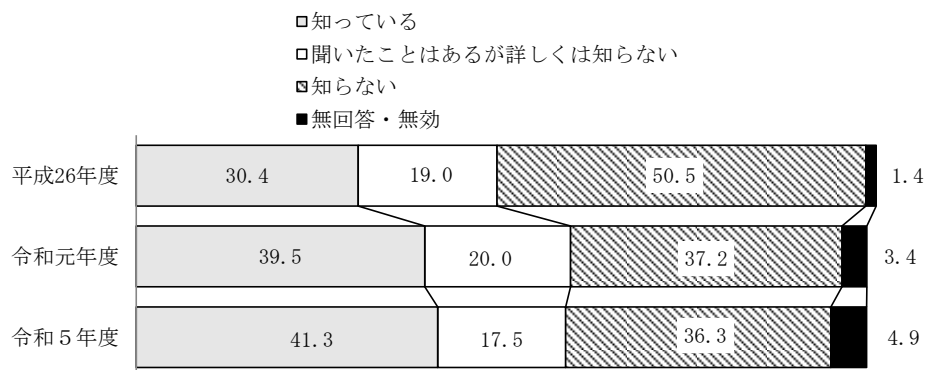


「子どもの読書活動の推進を図るうえで最も重要だと思うこと」について、「家庭での読書習慣の定着」（63.6％）が最も多く、次いで「幼稚園・保育園の図書コーナーや学校の図書室の充実」（19.2％）、「公共図書館の充実」（10.9％）となっている。経年で見ると、「家庭での読書習慣の定着」の割合は平成26年度から減少し、令和元年度から3.3ポイント減少している。一方、「幼稚園・保育園の図書コーナーや学校の図書室の充実」は令和元年度から4.3ポイント増加している。

エリア別で見ると、すべての地域において3項目の順位は同じだが、北西部エリアにおいて「公共図書館の充実」の割合は4.1％と他の地域に比べ低くなっている。経年で見ると、北西部エリアにおいて「公共図書館の充実」の割合が令和元年度から7.7ポイント減少している。また、中央部エリアにおいて「家庭での読書習慣の定着」の割合は令和元年度から7.3ポイント減少し、北西部エリアは6.9ポイント増加している。

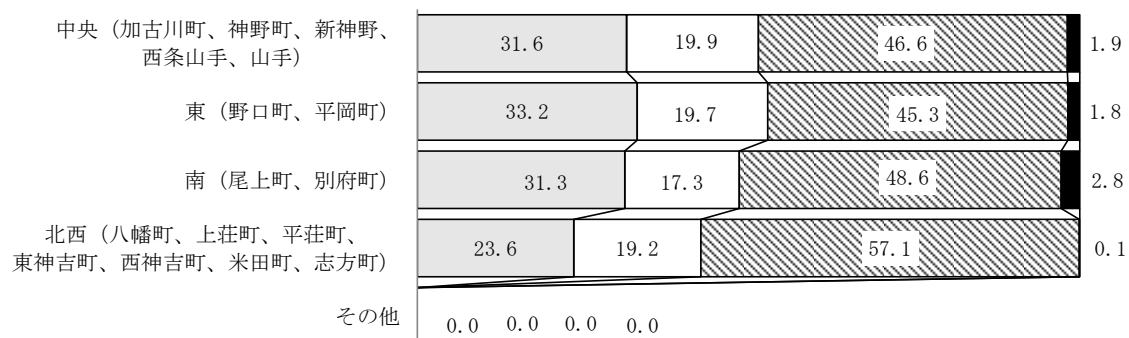
(6)はじめまして絵本事業の認知状況

はじめまして絵本事業について (%)

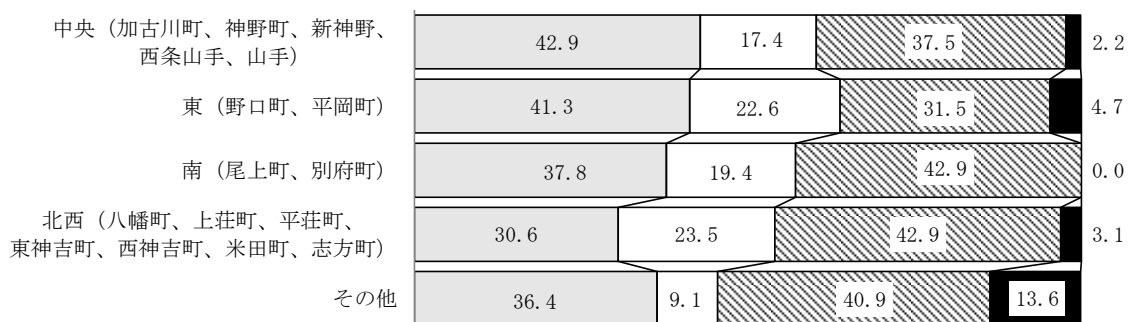


*居住エリア

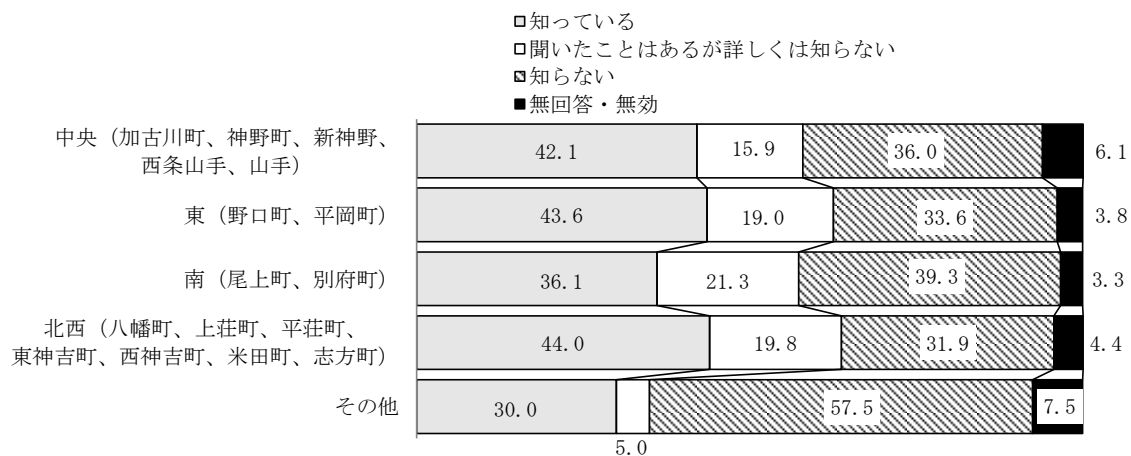
【平成26年度】



【令和元年度】

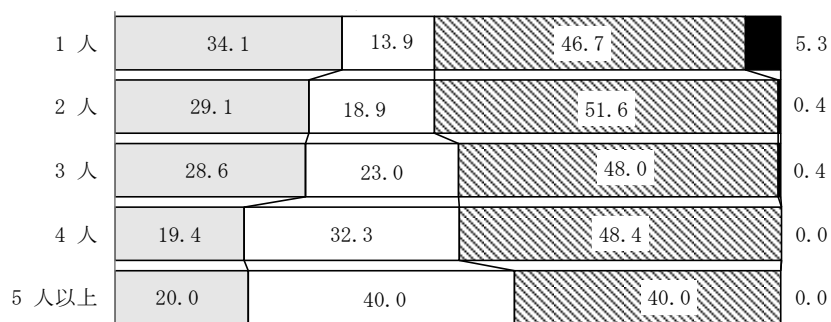


【令和5年度】

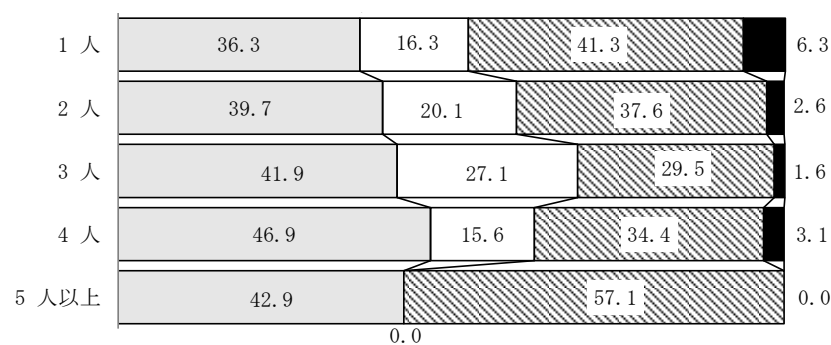


*子どもの人数

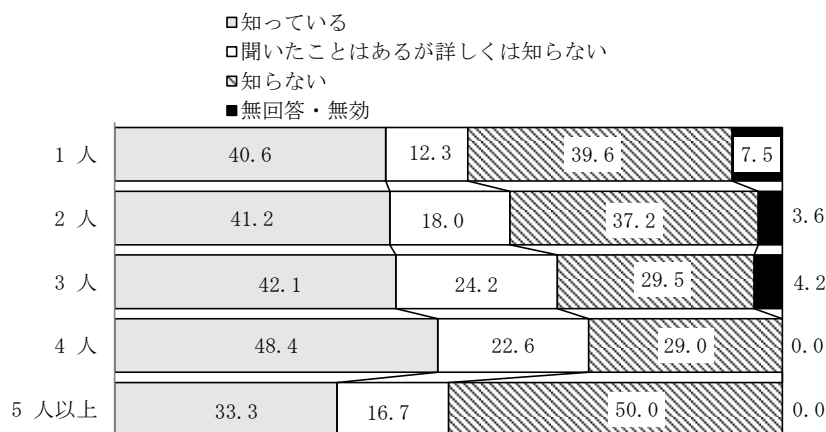
【平成26年度】



【令和元年度】



【令和5年度】



「はじめまして絵本事業の認知」について、「知っている」(41.3%) が最も多く、次いで「知らない」(36.3%)、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」(17.5%) となっている。経年で見ると、「知っている」の割合は平成 26 年度から増加している。

エリア別で見ると、北西部エリアにおいて「知っている」の割合が 44.0% と最も多く、令和元年度から 13.4 ポイント増加している。

子どもの人数別で見ると、「知っている」の割合は子どもの人数が多くなるにつれて増加傾向にあるが、5 人以上は 33.3% と最も低く、令和元年度から 9.6 ポイント減少している。

3. 調査結果まとめ

【児童・生徒】

○読書に対する意識

- ・読書が好きかについては、すべての学年の70%以上の児童・生徒が「好き」（「好き」または「どちらか」として好き）と回答しています。また、学年が上がるにつれて「好き」の割合が減少傾向にあり、学年によって読書に対する意識が変化しています。

○読書量

- ・1ヶ月の読書冊数については、学年が上がるにつれ読書量が減少する傾向にあります。

○本を読む理由と読まない理由

- ・本を読む理由については、小学校中学年では「読むのが楽しい」、小学校高学年以降では「いろいろ想像するのが楽しい」の割合が最も多くなっています。すべての学年において、本を読む理由として楽しさをあげている児童・生徒が多いです。
- ・また、「新しい知識を得ることができる」や「自分の考えが広がったり深まったりする」といった自己の成長を理由とする回答も多くあげられています。
- ・本を読まない理由については、小学校中学年では「スポーツをしたりする方が楽しい」、小学校高学年以降では「テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい」の割合が最も多くなっています。すべての学年において、本を読まない理由として「スポーツやテレビ・ゲームの方が楽しい」をあげている児童・生徒が多いです。
- ・また、高校生では他の学年では見られない「読みたいが勉強・部活動のため読む時間がない」といった回答も多くあげられており、学生生活の変化が原因であると考えられます。

○図書館の利用状況

- ・1週間の学校の図書館および学校以外の図書館の利用回数については、どちらも学年が上がるにつれ図書館の利用回数が減少する傾向にあります。
- ・学校以外の図書館を利用しない理由については、すべての学年で「読みたい本は買って読む」の割合が最も多く、小学校高学年では「図書館が家の近くにない」も高くなっています。
- ・また、「忙しくて図書館に行く時間がない」といった回答も多くあげられています。

○図書館に期待すること

- ・学校の図書館に期待することについては、すべての学年で「もっといろいろな本をそろえる」の割合が最も多くなっています。学校の図書館に本の種類の充実を期待している児童・生徒が多いです。
- ・また、小学生では「借りられる本の数をふやす」や「本を探しやすくする」、中学生と高校生では「いつでも利用できるようにする」といった回答も多くあげられており、学年によって期待する内容が変化する傾向にあります。
- ・学校以外の図書館に期待することについても同様、すべての学年で「もっといろいろな本をそろえる」の割合が最も多くなっています。学校以外の図書館にも本の種類の充実を期待している児童・生徒が多いです。
- ・また、「本をさがしやすくする」や「本を借りられる期間を長くする」といった回答も多くあげられています。

○家庭での読書環境

- ・家族の読書状況については、「読んでいる」（「よく読んでいる」または「時々読んでいる」）の割合が小学校低学年、中学生、高校生では 30% 台であるのに対し、未就学児、小学校中学年、小学校高学年では 50% を超えています。
- ・「家族に本を読んでもらうか」については、「はい」の割合が未就学児では 80.0% であるのに対し、小学校低学年では 36.8% となっています。学年が上がるにつれ家族に読んでもらう機会が減少し、自ら読書をする傾向にあります。
- ・「小さいころに家族に本を読んでもらったか」については、すべての学年の 70% 以上の児童・生徒が「読んでもらった」（「よく読んでもらった」または「たまに読んでもらった」）と回答しています。
- ・「家族と本のことについて話をすることがあるか」については、学年が上がるにつれて「ある」（「よくある」または「たまにある」）の割合が減少し、本について家族と話す機会が減少する傾向にあります。
- ・「家族に本をよく読むように言われることがあるか」については、学年が上がるにつれて「ある」の割合が減少傾向にあります。経年では、家族から読書について言われる機会が増加する傾向にあります。
- ・「家に自分の本を持っているか」について、すべての学年の 90% 以上の児童・生徒が「ある」（「10 冊以上ある」または「10 冊未満だがある」）と回答しています。学年が上がるにつれて「10 冊以上ある」の割合が減少しています。所有する本の冊数が減少する傾向にあります。
- ・「家庭での読書環境と児童・生徒の読書に対する意識の相関」については、すべての学年で「家族が普段から本を読んでいる」、「小さいころに家族に本を読んでもらった」と答えた児童・生徒ほど、読書が「好き」の割合が高い傾向にあります。

○電子書籍

- ・「紙以外の本で読書することがあるか」については、すべての学年の 50% 以上の児童・生徒が「活用していない」（「いいえ」または「ほとんど読まない」）と回答しています。
- ・「電子書籍の活用状況と学校以外の図書館の利用状況の相関」については、すべての学年において「活用している」と答えた児童・生徒ほど、図書館を「利用する」（「よく利用する」または「時々利用する」）の割合が高くなっています。

【保護者】

○子どもの読書活動の意義に対する認識

- ・「子どもの成長において読書は重要だと考えるか」について、97.9%の保護者が「重要」（「とても重要」または「まあまあ重要」）と回答しています。

○家庭での読書環境

- ・「子どもに読み聞かせをするか」について、80.0%の保護者が「する」（「よくする」または「時々する」）と回答しています。

○保護者の子どもの読書活動に対する意識および読書状況と読み聞かせ実施状況の相関

- ・「子どもの読解力を育てるうえで読み聞かせの実施状況の相関」については、「読む」（「よく読む」または「時々読む」）と答えた保護者ほど、読書が「重要」の割合が高い傾向にあることがうかがえます。
- ・「読み聞かせの実施状況と子どもの読書活動に対する認識相関」については、「する」と答えた保護者ほど、読書が「重要」の割合が高い傾向にあります。

○子どもの本の用意方法と保護者の読書状況および属性の相関

- ・「子どもの本の用意方法と保護者の読書状況および地域・年齢との相関」については、保護者の読書頻度、居住地域、年齢にかかわらず、「自分で買う」の割合が最も多くなっています。

○読み聞かせ実施状況と子どもから本を読んでほしいとせがまれるかの相関

- ・「読み聞かせの実施状況と本の読み聞かせをせがまれるかの相関」については、「読む」と答えた保護者ほど、せがまれることが「よくある」（「よくある」または「時々ある」）の割合が高い傾向にあります。

○公共図書館に望むこと

- ・公共図書館に望むことについては、「たくさん本をそろえる」の割合が最も多くなっています。児童・生徒と同様、保護者においても図書館に本の種類の充実を望んでいると考えられます。
- ・また、「子どもの本の紹介や情報を知らせる」や「おはなし会など子ども向けの事業の開催」といった回答も多くあげられています。

○子どもの読書活動の推進に重要なこと

- ・子どもの読書活動の推進を図るうえで最も重要だと思うことについては、63.6%の保護者が「家庭での読書習慣の定着」と回答しています。次いで、「幼稚園・保育園の図書コーナーや学校の図書室の充実」、「公共図書館の充実」の順となっています。

○はじめまして絵本事業の認知状況

- ・はじめまして絵本事業について、41.3%の保護者が「知っている」と回答しています。平成26年度から増加しているものの認知度は半数以下にとどまっており、認知を促す取り組みが必要であると考えられます。

Ⅲ 資料

Ⅲ 資料

子どもの読書活動についての聞き取り調査（小学1年生・2年生）

学 校 名	小学校
学 年	年 生
クラスの児童数	人
当日の出席児童数	人

【調査項目】

*読書意欲の調査

1	本を読むのが好きですか。	は い	人
		いいえ	人
		わからない	人
2	学校の図書室に行くのが好きですか。	は い	人
		いいえ	人
		わからない	人
3	絵本やおはなし（物語）が好きですか。	は い	人
		いいえ	人
		わからない	人

*家庭での読書環境・実態の調査

4	学校以外で本を読みますか。	は い	人
		いいえ	人
		わからない	人
5	おうちの人に、よく本を読んでもらいますか。	は い	人
		いいえ	人
		わからない	人
6	おうちの人、よく本を読んでいますか。	は い	人
		いいえ	人
		わからない	人
7	学校以外の図書館で本を借りたことがありますか。	は い	人
		いいえ	人
		わからない	人
8	本を読みたいときに、いつでも本が近くにありますか。（学校でも家でも）	は い	人
		いいえ	人
		わからない	人

～～調査項目はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。～～

子どもの読書活動についてのアンケート(小学3年生・4年生)

No.1

下の1から16のしつ問について、あてはまる番号を選んでください

「その他」を選んだときは、()にその内ようを書いてください。

※なお、このアンケートで「本」というのは、教科書、学習さんこう書、マンガ、ざっしやふろく以外のものです。

問1 あなたは何年生ですか？

1. 小学3年生 2. 小学4年生

問2 あなたは読書が好きですか？

1. 好き 2. どちらかというとき好き 3. どちらかというとき嫌い 4. 嫌い

問3 あなたはどんな本を読んでいますか？(2つまで選べます。)

1. 物語(童話、昔話、小説など) 2. 伝記や歴史の本 3. 植物や動物の本
4. 科学や宇宙の本 5. 料理や手芸の本 6. スポーツや音楽の本
7. その他() 8. 読まない

問4 あなたは1か月に何さつくらい本を読みますか？(朝読や図書の時間も入れます)

1. 10さつ以上 2. 5～9さつ 3. 1～4さつ 4. 0さつ

問5 あなたは1週間のうち何日くらい本を読みますか？(朝読・図書の時間は入れません)

1. 1週間ほとんど毎日 2. 学校のある日はほとんど毎日 3. 学校のある日は2～3日
4. 休日はほとんど毎日 5. ほとんど読まない

問6 【5のしつもんで、1～4を選んだ人にお聞きします。】なぜ本を読みますか？

1. 読むのが楽しいから 2. いろんなことがわかるから 3. 先生や家族に言われるから
4. その他()

問7 【5のしつもんで、5を選んだ人にお聞きします。】本を読まない一番の理由は何ですか？

1. 読書が嫌い 2. スポーツをしたりの方が楽しい 3. テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい
4. 読みたいが勉強や習い事で読む時間がない 5. 読みたいが本の用意ができない
6. 読みたいと思う本がない 7. 何を読んでいいか、わからない
8. その他()

問8 あなたは1週間に何回くらい学校の図書室に行きますか？(じゅぎょうで行く場合も入れます。)

1. 5回以上 2. 3～4回 3. 1～2回 4. 0回

問9 学校の図書室にしてほしいことはどんなことですか？(2つまで選べます。)

1. もっといろいろな本をそろえる
2. いつでも使えるようにする
3. 借りられる本の数をふやす
4. 本を借りられる期間を長くする
5. 本の相談ができる先生がいつもいる
6. 本をさがしやすくする
7. 本のしょうかいやお知らせをする
8. 図書の時間を時間わりで決めて、図書室に行って本を読めるようにする
9. その他()

問10 あなたは学校以外の図書館に行きますか？

1. よく行く
2. 時々行く
3. あまり行かない
4. 行かない

問11 学校以外の図書館に、してほしいことはどんなことですか？(2つまで選べます。)

1. もっといろいろな本をそろえる
2. 調べ事の手助けをしてくれる
3. 借りられる本の数をふやす
4. 本を借りられる期間を長くする
5. 本をさがしやすくする
6. 本のしょうかいやお知らせをする
7. おはなし会などの行事をする
8. その他()

問12 家族は、ふだんから本を読んでいますか？

1. よく読んでいる
2. 時々読んでいる
3. あまり読んでいない
4. わからない

問13 あなたが小さいころに、家族に本をよく読んでもらいましたか？

1. よく読んでもらった
2. たまに読んでもらった
3. 読んでもらったことはない
4. おぼえていない

問14 家族に、本をよく読むように言われることがありますか？

1. よくある
2. たまにある
3. あまりない
4. ない

問15 家に自分の本がありますか？

1. 10 冊よりもたくさんある
2. 10 冊よりは少ないけれどある
3. ない

問16 あなたはパソコンやスマートフォンなど、紙の本以外で読書をすることがありますか？

1. 毎日
2. 週に5～6日
3. 週に3～4日
4. 週に1～2日
5. ほとんど読まない

～～ しつもんはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。～～

下の1から19の質問について、あてはまる番号を選んでください

「その他」を選んだときは、()にその内容を書いてください。

※なお、このアンケートで「本」というのは、教科書、学習参考書、マンガ、雑誌や付ろくは除きます。

問1 あなたは何年生ですか？

1. 小学5年生 2. 小学6年生

問2 あなたは読書が好きですか？

1. 好き 2. どちらかというとき好き 3. どちらかというとき嫌い 4. きらい

問3 あなたはどんな本を読んでいますか？（2つまで選べます。）

1. 物語（童話、昔話、小説など） 2. 伝記や歴史の本 3. 植物や動物の本 4. 科学や宇宙の本
5. 料理や手芸の本 6. スポーツや音楽の本 7. その他（ ） 8. 読まない

問4 あなたは1ヶ月に何冊くらい本を読みますか？（朝読・図書の時間を入れます）

1. 10冊以上 2. 5～9冊 3. 1～4冊 4. 0冊

問5 あなたの1日あたりの読書時間はどれくらいですか？（朝読・図書の時間は入れません）

1. 10分以内 2. 20分以内 3. 30分以内 4. 1時間未満 5. 1時間以上 6. 読まない

問6 あなたは1週間のうち何日くらい本を読みますか？（朝読・図書の時間は入れません）

1. 1週間のほとんど毎日 2. 学校のある日はほとんど毎日 3. 学校のある日は2～3日
4. 休日はほとんど毎日 5. ほとんど読まない

問7 【問6で、1～4を選んだ人にお聞きします。】なぜ本を読みますか？

1. いろいろ想像するのが楽しいから 2. 自分の考えが広がったり深まったりするから
3. 新しい知識を得ることができるから 4. 先生や家族に言われるから
5. その他（ ）

問8 【問6で、5を選んだ人にお聞きします。】本を読まない一番の理由は何ですか？

1. 読書がきらい 2. スポーツをしたりする方が楽しい 3. テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい
4. 読みたいが勉強や習い事があって読む時間がない 5. 読みたいが本の用意ができない
6. 読みたいと思う本がない 7. 何を読んでいいかわからない
8. その他（ ）

問9 あなたは1週間に何回くらい学校の図書室を利用しますか？（授業で行く場合を入れます。）

1. 5回以上 2. 3～4回 3. 1～2回 4. 0回

問 10 学校の図書室に、期待することはどんなことですか？（2つまで選べます。）

1. もっといろいろな本をそろえる
2. いつでも利用できるようにする
3. 借りられる本の数をふやす
4. 本を借りられる期間を長くする
5. 本の相談ができる先生がいつもいる
6. 本をさがしやすくする
7. 本のしょうかいやお知らせをする
8. 図書の時間を時間割で決めて、図書室に行って本を読めるようにする
9. その他（ ）

問 11 あなたは学校以外の図書館を利用することがありますか？

1. よく利用する
2. 時々利用する
3. あまり利用しない
4. 利用しない

問 12 【学校以外の図書館を利用しない人にお聞きします。】利用しない理由は何ですか？

1. 図書館が家の近くにない
2. いそがしくて図書館に行く時間がない
3. 図書館に読みたい本がない
4. 学校の図書室の方が利用しやすい
5. 読みたい本は買って読む
6. その他（ ）

問 13 学校以外の図書館に、期待することはどんなことですか？（2つまで選べます。）

1. もっといろいろな本をそろえる
2. 雑誌をたくさんそろえる
3. 調べ学習の手助けがしてもらえる
4. 借りられる本の数をふやす
5. 本を借りられる期間を長くする
6. 本をさがしやすくする
7. 本のしょうかいやお知らせをする
8. おはなし会などの行事をする
9. その他（ ）

問 14 家族は、ふだんから本を読んでいますか？

1. よく読んでいる
2. 時々読んでいる
3. あまり読んでいない
4. わからない

問 15 あなたが小さいころに、家族に本をよく読んでもらいましたか？

1. よく読んでもらった
2. たまに読んでもらった
3. 読んでもらったことはない
4. ^{おぼ}覚えていない

問 16 家族と本のことについて話しをすることがありますか？

1. よくある
2. たまにある
3. あまりない
4. ない

問 17 家族に本をよく読むように言われることがありますか？

1. よくある
2. たまにある
3. あまりない
4. ない

問 18 家に自分の本がありますか？

1. ある（10冊以上）
2. ある（1～9冊）
3. ない

問 19 あなたはパソコンやスマートフォンなど、紙の本以外で読書をすることがありますか？

1. 毎日
 2. 週に5～6日
 3. 週に3～4日
 4. 週に1～2日
 5. ほとんど読まない
- ～～ 質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。 ～

子どもの読書活動についてのアンケート(中学生)

No.1

下の(ア)から(テ)の質問について、あてはまる番号を選んでください。

「その他」を選んだ場合は、()にその内容を書いてください。

※なお、このアンケートで「本」というのは、教科書、学習参考書、マンガ、雑誌や付録は除きます。

(ア) あなたは何年生ですか？

1. 中学1年生 2. 中学2年生 3. 中学3年生

(イ) あなたは読書が好きですか？

1. 好き 2. どちらかというとき 3. どちらかというとき嫌い 4. 嫌い

(ウ) あなたはどんな本を読んでいますか？(2つまで選べます。)

1. 物語(小説、ライトノベルなど) 2. 歴史、伝記の本 3. 植物や動物の本 4. 科学や宇宙の本
5. 料理や手芸の本 6. スポーツや音楽の本 7. 哲学、心理学の本
8. その他() 9. 読まない

(エ) あなたは1ヶ月に何冊くらい本を読みますか？(朝読を含む)

1. 10冊以上 2. 5～9冊 3. 1～4冊 4. 0冊

(オ) あなたの1日あたりの読書時間はどれくらいですか？(朝読は含まない)

1. 10分以内 2. 20分以内 3. 30分以内 4. 1時間未満 5. 1時間以上 6. 読まない

(カ) あなたは1週間のうち何日くらい本を読みますか？(朝読は含まない)

1. 毎日 2. 週に5～6日 3. 週に3～4日 4. 週に1～2日 5. ほとんど読まない

(キ) 【問力で、1～4を選んだ人にお聞きします。】なぜ本を読みますか？

1. いろいろ想像するのが楽しいから 2. 自分の考えが広がったり深まったりするから
3. 新しい知識を得ることができるから 4. 先生や家族に言われるから
5. その他()

(ク) 【問力で5を選んだ人にお聞きします。】本を読まない一番の理由は何ですか？

1. 読書が嫌い 2. スポーツをしたりする方が楽しい 3. テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい
4. 読みたいが勉強のため読む時間がない 5. 読みたいが部活動のため読む時間がない
6. 読みたいが、本の用意ができない 7. 読みたいと思う本がない 8. 何を読んでいいかわからない
9. その他()

(ケ) あなたは1週間に何回くらい学校の図書室を利用しますか？

1. 5回以上 2. 3～4回 3. 1～2回 4. 0回

(コ) 学校の図書室に、期待することはどんなことですか？(2つまで選べます。)

1. もっといろいろな本をそろえる
2. いつでも利用できるようにする
3. 借りられる本数を増やす
4. 本を借りられる期間を長くする
5. 本の相談ができる先生がいつもいる
6. 本をさがしやすくする
7. 本の紹介や情報を知らせる
8. その他 ()

(サ) あなたは学校以外の図書館を利用することがありますか？

1. よく利用する
2. 時々利用する
3. あまり利用しない
4. ほとんど、または全く利用しない

(シ) 【学校以外の図書館を利用しない人にお聞きします。】利用しない理由は何ですか？

1. 図書館が家の近くにない
2. いそがしくて図書館に行く時間がない
3. 図書館に読みたい本がない
4. 学校の図書室の方が利用しやすい
5. 読みたい本は買って読む
6. その他 ()

(ス) 学校以外の図書館に、期待することはどんなことですか？(2つまで選べます。)

1. もっといろいろな本をそろえる
2. 雑誌をたくさんそろえる
3. 調べ学習の手助けがしてもらえる
4. 借りられる本数を増やす
5. 本を借りられる期間を長くする
6. 本をさがしやすくする
7. 本の紹介や情報を知らせる
8. 中学生を対象にした行事をする
9. その他 ()

(セ) 家族は、ふだんから本を読んでいますか？

1. よく読んでいる
2. 時々読んでいる
3. あまり読んでいない
4. わからない

(ソ) あなたが小さいころに、家族に本をよく読んでもらいましたか？

1. よく読んでもらった
2. たまに読んでもらった
3. 読んでもらったことはない
4. 覚えていない

(タ) 家族と本のことについて話しをすることがありますか？

1. よくある
2. たまにある
3. あまりない
4. ほとんど、または全くない

(チ) 家族に本をよく読むように言われることがありますか？

1. よくある
2. たまにある
3. あまりない
4. ほとんど、または全くない

(ツ) 家に自分の本を持っていますか？

1. ある(50冊以上)
2. ある(10~49冊)
3. ある(10冊未満)
4. ない

(テ) あなたはパソコンやスマートフォンなど、紙の本以外で読書をすることがありますか？

1. 毎日
 2. 週に5~6日
 3. 週に3~4日
 4. 週に1~2日
 5. ほとんど読まない
- ～～ 質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。 ～～

下の(ア)から(テ)の質問について、あてはまる番号に○をつけてください。

「その他」を選んだ場合は、()にその内容を書いてください。

※なお、このアンケートで「本」というのは、教科書、学習参考書、マンガ、雑誌や付録は除きます。

*住んでいる地区(町)

1. 加古川町 2. 神野町・新神野・西条山手・山手 3. 野口町 4. 平岡町 5. 尾上町 6. 別府町
7. 八幡町 8. 平荘町 9. 上荘町 10. 東神吉町 11. 西神吉町 12. 米田町 13. 志方町
14. その他 a 高砂市 b 播磨町 c 稲美町 d その他加古川市外()

(ア) あなたは何年生ですか？

1. 高校1年生 2. 高校2年生 3. 高校3年生

(イ) あなたは読書が好きですか？

1. 好き 2. どちらかというと好き 3. どちらかというと嫌い 4. 嫌い

(ウ) あなたはどんな本を読んでいますか？(2つまで選べます。)

1. 物語(小説、ライトノベルなど) 2. 歴史、伝記の本 3. 植物や動物の本 4. 科学や宇宙の本
5. 料理や手芸の本 6. スポーツや音楽の本 7. 哲学、心理学の本
8. その他() 9. 読まない

(エ) あなたは1ヶ月に何冊くらい本を読みますか？(朝読を含む)

1. 10冊以上 2. 5~9冊 3. 1~4冊 4. 0冊

(オ) あなたの1日あたりの読書時間はどれくらいですか？(朝読は含まない)

1. 10分以内 2. 20分以内 3. 30分以内 4. 1時間未満 5. 1時間以上 6. 読まない

(カ) あなたは1週間のうち何日くらい本を読みますか？(朝読は含まない)

1. 毎日 2. 週に5~6日 3. 週に3~4日 4. 週に1~2日 5. ほとんど読まない

(キ) 【問力で、1~4を選んだ人にお聞きします。】なぜ本を読みますか？

1. いろいろ想像するのが楽しいから 2. 自分の考えが広がったり深まったりするから
3. 新しい知識を得ることができるから 4. 先生や家族に言われるから
5. その他()

(ク) 【問力で5を選んだ人にお聞きします。】本を読まない一番の理由は何ですか？

1. 読書が嫌い 2. スポーツをしたりの方が楽しい 3. テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい
4. 読みたいが勉強のため読む時間がない 5. 読みたいが部活動のため読む時間がない
6. 読みたいが、本の用意ができない 7. 読みたいと思う本がない 8. 何を読んでいいかわからない
9. その他()

1. 5回以上 2. 3~4回 3. 1~2回 4. 0回

1. もっといろいろな本をそろえる 2. いつでも利用できるようにする 3. 借りられる本の数を増やす
4. 本を借りられる期間を長くする 5. 本の相談ができる先生がいつもいる 6. 本をさがしやすくする
7. 本の紹介や情報を知らせる
8. その他（ ）

1. よく利用する 2. 時々利用する 3. あまり利用しない 4. ほとんど、または全く利用しない

1. 図書館が家の近くにない 2. いそがしくて図書館に行く時間がない 3. 図書館に読みたい本がない
4. 学校の図書室の方が利用しやすい 5. 読みたい本は買って読む
6. その他 ()

1. もっといろいろな本をそろえる 2. 雑誌をたくさんそろえる 3. 調べ学習の手助けがしてもらえる
4. 借りられる本の数を増やす 5. 本を借りられる期間を長くする 6. 本をさがしやすくする
7. 本の紹介や情報を知らせる 8. 高校生を対象にした行事をする
9. その他（ ）

1. よく読んでいる 2. 時々読んでいる 3. あまり読んでいない 4. わからない

1. よく読んでもらった 2. たまに読んでもらった 3. 読んでもらったことはない 4. 覚えていない

1. よくある 2. たまにある 3. あまりない 4. ほとんど、または全くない

1. よくある 2. たまにある 3. あまりない 4. ほとんど、または全くない

1. ある (50 冊以上) 2. ある (10~49 冊) 3. ある (10 冊未満) 4. ない

1. 毎日 2. 週に5~6日 3. 週に3~4日 4. 週に1~2日 5. ほとんど読まない
 ～～ 質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。 ～～

子どもの読書活動実態調査アンケート

(保護者用－養護学校) No.1

【趣旨】

このアンケート調査は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、加古川市における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画を策定するうえで、市内の児童・生徒の読書活動の実態を把握するために行うものです。ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

【回答方法】

アンケートの質問に対して、該当する番号に○をつけてください。

また、「その他」を選んだ場合は、その内容を（ ）内に記入してください。

問8については、枠内にご自由にご記入ください

※なお、このアンケートで「本」というのは、教科書、学習参考書、マンガ、雑誌や付録は除きます。

(電子書籍は、本に含みます。)

【提出期限】 7月18日(火)までに担任の先生にお渡しください。

【問合せ先】 このアンケート調査について、わからないところがありましたら、加古川市立中央図書館(電話：079-425-5200)までご連絡ください。

* あなたの年齢

1. 25歳未満 2. 25歳以上30歳未満 3. 30歳以上40歳未満 4. 40歳以上

* 住んでいる地区(町)

1. 加古川町 2. 神野町・新神野・西条山手・山手 3. 野口町 4. 平岡町 5. 尾上町 6. 別府町
7. 八幡町 8. 平荘町 9. 上荘町 10. 東神吉町 11. 西神吉町 12. 米田町 13. 志方町
14. その他 a 高砂市 b 播磨町 c 稲美町 d その他加古川市外()

* お子さまの学年

1. 幼稚園 2. 小学部(1～3年) 3. 小学部(4～6年) 4. 中学部 5. 高等部

問1 子どもの成長において読書は重要だと考えますか？

1. とても重要だと思う 2. まあまあ重要だと思う 3.それほど重要とは思わない 4. わからない

問2 あなたのお子さんは、どのような本に興味がありますか？

1. 絵本 2. 物語(童話、昔話など) 3. 動物や乗り物などの図鑑 4. わからない

問3 あなたは日ごろから本を読みますか？

1. よく読む 2. 時々読む 3. あまり読まない 4. ほとんどまたは全く読まない

子どもの読書活動実態調査アンケート

(保護者用－養護学校) No.2

問4 ご家庭に子どもの本がありますか？

1. たくさんある 2. いくらかはある 3. ない

問5 お子さまの読書のための本は、どのようにして用意されることが多いですか？（2つ以内）

1. 公共図書館で借りる 2. 自分で買う 3. 人から譲ってもらう
4. その他 ()

問6 お子さまに、よく絵本の読み聞かせをしますか？

1. よくする 2. 時々する 3. あまりしない 4. ほとんど、または全くしない

問7 お子さまは本を読むのが好きだと思いますか？

1. 好きだと思う 2. どちらかというとき好きだと思う
3. どちらかというとき嫌いだと思う 4. 嫌いだと思う

問8 子どもの読書活動を推進していくうえでの課題はどんなことだと思いますか？

～～ 質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。 ～～

加古川市立中央図書館

子どもの読書活動実態調査アンケート

(5歳児保護者用－幼稚園・保育園・認定こども園) No.1

【趣旨】

このアンケート調査は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、加古川市における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画を策定するうえで、市内の子どもの読書活動の実態を把握するために行うものです。ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

【回答方法】

アンケートの質問に対して、該当する番号に○をつけてください。

また、「その他」を選んだ場合は、その内容を（ ）内に記入してください。

※なお、このアンケートで「本」というのは、教科書、学習参考書、マンガ、雑誌や付録は除きます。

(電子書籍は、本に含みます。)

【提出期限】 7月18日(火)までに、担任の先生にお渡しください。

【問合せ先】 このアンケート調査について、わからないところがありましたら、加古川市立中央図書館(電話：079-425-5200)までご連絡ください。

* あなたの年齢

1. 25歳未満 2. 25歳以上30歳未満 3. 30歳以上40歳未満 4. 40歳以上

* 住んでいる地区(町)

1. 加古川町 2. 神野町・新神野・西条山手・山手 3. 野口町 4. 平岡町 5. 尾上町 6. 別府町
7. 八幡町 8. 平荘町 9. 上荘町 10. 東神吉町 11. 西神吉町 12. 米田町 13. 志方町
14. その他 a 高砂市 b 播磨町 c 稲美町 d その他加古川市外()

* お子さまは何人いらっしゃいますか？

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人以上

問1 子どもの読解力、想像力、表現力を育て、感性を磨くうえで読書は重要だと考えますか？

1. とても重要だと思う 2. まあまあ重要だと思う 3.それほど重要とは思わない 4. わからない

問2 あなたのお子さんは、どのような本に興味がありますか？

1. 絵本 2. 物語(童話、昔話など) 3. 動物や乗り物などの図鑑 4. わからない

問3 あなたは日ごろから本を読みますか？

1. よく読む 2. 時々読む 3. あまり読まない 4. ほとんどまたは全く読まない

子どもの読書活動実態調査アンケート

(5歳児保護者用－幼稚園・保育園・認定こども園) No.2

- 問4 ご家庭に子どもの本がありますか？
1. たくさんある 2. いくらかはある 3. ない
- 問5 お子さまの読書のための本は、どのようにして用意されることが多いですか？(2つ以内)
1. 幼稚園や保育園で借りる 2. 公共図書館で借りる 3. 自分で買う 4. 人から譲ってもらう
5. その他 ()
- 問6 お子さまに、よく絵本の読み聞かせをしますか？
1. よくする 2. 時々する 3. あまりしない 4. ほとんど、または全くしない
- 問7 お子さまに本を読んでほしいとせがまれることがありますか？
1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. ほとんど、または全くない
- 問8 お子さまの読書活動のために公共図書館に望むことはどんなことですか？(2つ以内)
1. たくさん本をそろえる 2. 貸出冊数を増やす 3. 子どもの本の紹介や情報を知らせる
4. おはなし会や読み聞かせなどの開催
5. 子どもの興味を引くような飾りつけなど子どもが利用しやすい雰囲気づくり
6. その他 ()
- 問9 子どもの読書活動の推進を図るうえで、最も重要だと思うものはどれですか？
1. 家庭での読書習慣の定着 2. 公共図書館の充実
3. 幼稚園・保育園の図書コーナーや学校図書室の充実
4. その他 ()
- 問10 加古川市が4ヶ月健診時に実施している、はじめまして絵本事業についてご存知ですか？
(はじめまして絵本事業：4ヶ月健診時に、赤ちゃんのための絵本リスト「はじめまして絵本」を配付し、保護者の方に読み聞かせの効用を説明・PRしています。)
1. 知っている 2. 聞いたことはあるが詳しくは知らない 3. 知らない

～～ 質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。 ～～

加古川市立中央図書館

子どもの読書活動実態調査アンケート

(就学前の子どもを持つ保護者用ー子育てプラザ・児童館) No.1

【趣旨】

このアンケート調査は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、加古川市における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画を策定するうえで、市内の子どもの読書活動の実態を把握するために行うものです。ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

【回答方法】

アンケートの質問に対して、該当する番号に○をつけてください。

また、「その他」を選んだ場合は、その内容を()内に記入してください。

※なお、このアンケートで「本」というのは、教科書、学習参考書、マンガ、雑誌や付録は除きます。

(電子書籍は、本に含みます。)

【回収期限と提出先】 7月18日(火)までに、下記のいずれかの施設の窓口へお持ちください。

・加古川駅南子育てプラザ ・東加古川子育てプラザ ・志方児童館

【問合せ先】 このアンケート調査について、わからないところがありましたら、加古川市立中央図書館(電話：079-425-5200)までご連絡ください。

* あなたの年齢

1. 25歳未満 2. 25歳以上30歳未満 3. 30歳以上40歳未満 4. 40歳以上

* 住んでいる地区(町)

1. 加古川町 2. 神野町・新神野・西条山手・山手 3. 野口町 4. 平岡町 5. 尾上町 6. 別府町
7. 八幡町 8. 平荘町 9. 上荘町 10. 東神吉町 11. 西神吉町 12. 米田町 13. 志方町
14. その他 a 高砂市 b 播磨町 c 稲美町 d その他加古川市外()

* お子さまは何人いらっしゃいますか？

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人以上

問1 子どもの読解力、想像力、表現力を育て、感性を磨くうえで読書は重要だと考えますか？

1. とても重要だと思う 2. まあまあ重要だと思う 3.それほど重要とは思わない 4. わからない

問2 あなたのお子さんは、どのような本に興味がありますか？

1. 絵本 2. 物語(童話、昔話など) 3. 動物や乗り物などの図鑑 4. わからない

問3 あなたは日ごろから本を読みますか？

1. よく読む 2. 時々読む 3. あまり読まない 4. ほとんどまたは全く読まない

子どもの読書活動実態調査アンケート

(就学前の子どもを持つ保護者用ー子育てプラザ・児童館) No.2

- 問4 ご家庭に子どもの本がありますか？
1. たくさんある 2. いくらかはある 3. ない
- 問5 お子さまの読書のための本は、どのようにして用意されることが多いですか？(2つ以内)
1. 幼稚園や保育園で借りる 2. 公共図書館で借りる 3. 自分で買う 4. 人から譲ってもらう
5. その他 ()
- 問6 お子さまに、よく絵本の読み聞かせをしますか？
1. よくする 2. 時々する 3. あまりしない 4. ほとんど、または全くしない
- 問7 お子さまに本を読んでほしいとせがまれることがありますか？
1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. ほとんど、または全くない
- 問8 お子さまの読書活動のために公共図書館に望むことはどんなことですか？(2つ以内)
1. たくさん本をそろえる 2. 貸出冊数を増やす 3. 子どもの本の紹介や情報を知らせる
4. おはなし会や読み聞かせなどの開催
5. 子どもの興味を引くような飾りつけなど子どもが利用しやすい雰囲気づくり
6. その他()
- 問9 子どもの読書活動の推進を図るうえで、最も重要だと思うものはどれですか？
1. 家庭での読書習慣の定着 2. 公共図書館の充実
3. 幼稚園・保育園の図書コーナーや学校図書室の充実
4. その他 ()
- 問10 加古川市が4ヶ月健診時に実施している、はじめまして絵本事業についてご存知ですか？
(はじめまして絵本事業：4ヶ月健診時に、赤ちゃんのための絵本リスト「はじめまして絵本」を配付し、保護者の方に読み聞かせの効用を説明・PRしています。)
1. 知っている 2. 聞いたことはあるが詳しくは知らない 3. 知らない

～～ 質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。 ～～

加古川市立中央図書館

子どもの読書活動実態調査アンケート

(就学前の子どもを持つ保護者用－図書館) No.1

【趣旨】

このアンケート調査は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、加古川市における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画を策定するうえで、市内の子どもの読書活動の実態を把握するために行うものです。ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

【回答方法】

アンケートの質問に対して、該当する番号に○をつけてください。

また、「その他」を選んだ場合は、その内容を()内に記入してください。

※なお、このアンケートで「本」というのは、教科書、学習参考書、マンガ、雑誌や付録は除きます。

(電子書籍は、本に含みます。)

【回収期限と提出先】 7月18日(火)までに、下記のいずれかの図書館の窓口へお持ちください。

- ・加古川市立中央図書館 ・加古川市立加古川図書館
- ・加古川ウェルネスパーク図書館 ・加古川海洋文化センター図書室

【問合せ先】 このアンケート調査について、わからないところがありましたら、加古川市立中央図書館(電話：079-425-5200)までご連絡ください。

* あなたの年齢

1. 25歳未満 2. 25歳以上30歳未満 3. 30歳以上40歳未満 4. 40歳以上

* 住んでいる地区(町)

1. 加古川町 2. 神野町・新神野・西条山手・山手 3. 野口町 4. 平岡町 5. 尾上町 6. 別府町
7. 八幡町 8. 平荘町 9. 上荘町 10. 東神吉町 11. 西神吉町 12. 米田町 13. 志方町
14. その他 a 高砂市 b 播磨町 c 稲美町 d その他加古川市外()

* お子さまは何人いらっしゃいますか？

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人以上

問1 子どもの読解力、想像力、表現力を育て、感性を磨くうえで読書は重要だと考えますか？

1. とても重要だと思う 2. まあまあ重要だと思う 3.それほど重要とは思わない 4. わからない

問2 あなたのお子さんは、どのような本に興味がありますか？

1. 絵本 2. 物語(童話、昔話など) 3. 動物や乗り物などの図鑑 4. わからない

問3 あなたは日ごろから本を読みますか？

1. よく読む 2. 時々読む 3. あまり読まない 4. ほとんどまたは全く読まない

子どもの読書活動実態調査アンケート

(就学前の子どもを持つ保護者用－図書館) No.2

- 問4 ご家庭に子どもの本がありますか？
1. たくさんある 2. いくらかはある 3. ない
- 問5 お子さまの読書のための本は、どのようにして用意されることが多いですか？(2つ以内)
1. 幼稚園や保育園で借りる 2. 公共図書館で借りる 3. 自分で買う 4. 人から譲ってもらう
5. その他 ()
- 問6 お子さまに、よく絵本の読み聞かせをしますか？
1. よくする 2. 時々する 3. あまりしない 4. ほとんど、または全くしない
- 問7 お子さまに本を読んでほしいとせがまれることがありますか？
1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. ほとんど、または全くない
- 問8 お子さまの読書活動のために公共図書館に望むことはどんなことですか？(2つ以内)
1. たくさん本をそろえる 2. 貸出冊数を増やす 3. 子どもの本の紹介や情報を知らせる
4. おはなし会(ストーリーテリング(おはなし)や読み聞かせ)など子ども向けの事業の開催
5. 子どもの興味を引くような飾りつけなど子どもが利用しやすい雰囲気づくり
6. その他 ()
- 問9 子どもの読書活動の推進を図るうえで、最も重要だと思うものはどれですか？
1. 家庭での読書習慣の定着 2. 公共図書館の充実
3. 幼稚園・保育園の図書コーナーや学校の図書室の充実
4. その他 ()
- 問10 加古川市が4ヶ月健診時に実施している、はじめまして絵本事業についてご存知ですか？
(はじめまして絵本事業：4ヶ月健診時に、赤ちゃんのための絵本リスト「はじめまして絵本」を配付し、保護者の方に読み聞かせの効用を説明・PRしています。)
1. 知っている 2. 聞いたことはあるが詳しくは知らない 3. 知らない

～～ 質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。 ～～

加古川市立中央図書館

令和5年度
子どもの読書活動実態調査アンケート
調査報告書

発行年：令和6年（2024年）2月
発行：加古川市教育委員会 教育指導部 中央図書館
〒675-0101 加古川市平岡町新在家 1224-7
電話（079）425-5200

【資料編 2】

子どもの読書活動の推進に関する法律

子どもの読書活動の推進に関する法律

(平成13年12月12日法律第154号)

(目的)

第1条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

(基本理念)

第2条 子ども（おおむね18歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

(国の責務)

第3条 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)

第4条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(事業者の努力)

第5条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

(保護者の役割)

第6条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

(関係機関等との連携強化)

第7条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

第8条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

- 2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。
- 3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

第9条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更に
ついて準用する。

(子ども読書の日)

第10条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

2 子ども読書の日は、4月23日とする。

3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

(財政上の措置等)

第11条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

【資料編 3】

加古川市子どもの読書活動推進計画 (第4次) 策定経過

加古川市子どもの読書活動推進計画（第4次）策定経過

（１）加古川市子どもの読書活動推進計画策定委員 ５名

団体等	所 属 ・ 役 職	氏 名
学識経験者	梅花女子大学	森 美由紀
子どもの読書活動関係者	兵庫県学校厚生会東播支部読み聞かせ会	乾 善 子
子どもの読書活動関係者	東加古川子育てプラザ	伊 東 康 子
公募委員	－	川 口 和 代
公募委員	－	山 根 雅 彦

（２）子どもの読書活動関係各課長 １０名

所 属 ・ 役 職	氏 名
こども部こども政策課長	中 川 卓 也
こども部幼児保育課長	笠 原 久 義
こども部幼児保育課担当課長 （こども園・保育園園長会代表者、幼稚園園長会代表者）	西 川 恵 子
教育指導部社会教育課長	岡 本 延 也
教育指導部学校教育課長	岡 本 智 裕
教育指導部教育支援課長	岡 本 ひとみ
加古川市立中学校図書教育担当校長（浜の宮中学校長）	藤 尾 昌 也
加古川市立小学校図書教育担当校長（尾上小学校長）	山 崎 睦 美
教育指導部中央図書館長	松 本 穰 次
教育指導部加古川図書館長	樽 本 葉 月

(3) 委員会開催状況

回	月 日	協議内容等
第1回	令和6年5月21日（火）	計画概要説明、素案の検討、スケジュール確認
第2回	令和6年8月9日（金）	素案の検討
第3回	令和6年10月4日（金）	パブリックコメントに向けた計画案の確認
第4回	令和7年1月28日（火）	パブリックコメントに寄せられた意見に対する 回答案及び修正事項の検討

(4) パブリックコメントの公募実施

令和6年11月5日（火）から12月4日（水）までの期間実施し、8件の意見がありました。

【資料編 4】

用語解説(五十音順)

用語解説（五十音順）

朝の読書（運動）	学校で読書を習慣づける目的で毎朝10分間、児童・生徒、先生と一緒に自分の好きな本を読もう、という運動。昭和63年に千葉県の高校での「全校一斉の朝の読書」をきっかけに全国に広まった。
1日図書館員	地域の子どもを公共図書館に招いて、貸出作業や配架など図書館員の仕事を体験しながら、図書館の役割や仕事内容を知ってもらう催し。
家読（うちどく）	「家庭読書」「家族読書」の略語で「家族ふれあい読書」を意味する。家族で本を読んでコミュニケーションし、「家族の絆づくり」を目的とする。同じ時間、同じ空間を家族で共有し、読んだ本について感想を話し合う。
おはなし会	子どもたちを集めておはなしを聞かせる（ストーリーテリング）催しのこと。図書館の子どもに対するサービスの一つとして行われる。
学校運営協議会	学校（園）と家庭・地域が力を合わせて、学校（園）の運営に取り組むことができる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な取組。学校運営協議会の主な役割として、「学校園運営の基本方針を承認する」「学校園運営について、教育委員会または校長に意見を述べる」「学校園運営への必要な支援に関する協議を行う」がある。
学校園連携ユニット	中学校区を一つの単位（ユニット）とし、その地域の保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校が相互に連携しながら、子どもの連続した学びや育ちを支援する仕組みのこと。
学校司書	専ら学校図書館の職務に従事する職員「学校図書館法」（第6条）
学校図書館図書標準	公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書冊数の標準として、平成5年3月に文部省（現文部科学省）が設定した数値。学級数に応じて算出され、例えば、18学級の小学校では10,360冊、12学級の中学校では10,720冊とされる。
G I G Aスクール	全ての児童・生徒に一人一台の端末とネットワーク環境を整備すること。
公共図書館	広く様々な分野にわたり、図書、記録その他必要な資料を収集し、公開して、誰でも利用できる図書館。
子育てプラザ	安心してゆとりのある楽しい子育てができるよう、乳幼児を子育て中の親が子ども連れで気軽に利用・交流できる場を提供し、育児相談や子育てサークルの育成・指導、各種講座の開催等を行う子育て支援の拠点施設。
こどもの読書週間	こどもの日（5月5日）を含む3週間、4月23日から5月12日まで。子どもたちにもっと本を、子どもたちにもっと本を読む場所をとの願いから、昭和34年にはじまった。図書館・書店・学校を中心に、子どもの読書に関するさまざまな展示やイベントが行われる。
司書	図書館に置かれる専門的職員。「図書館法（第4条）」
司書教諭	教員免許状を持ち、学校図書館の専門的職務を掌る教諭「学校図書館法」（第5条）
調べ学習	自ら学び、自ら考える、自主的、自発的な学習。
ストーリーテリング	語り手があらかじめ物語を覚えて聞き手に語りかけること。「おはなし」「素ばなし」ともいう。
電子書籍	紙に印刷されたものでなく、電子的に記録された出版物で、専用の電子機器（電子書籍リーダー）やパソコン、タブレット端末、スマートフォンなどの画面上で読むことのできる本や雑誌。
電子図書館	電子化された出版物や資料（電子書籍）を収集し、インターネットなどのネットワークを介した利用を提供するシステム。

読書週間	文化の日(11月3日)を含む2週間、10月27日から11月9日まで。読書の普及・推進と出版文化の向上を目標として、全国の公共図書館などで様々なPR事業が展開されている。
読書手帳	自分の読んだ本の日付やタイトルを記録するための手帳。手書きするか、図書館内の利用者用検索機から、借りている本のシールを印刷して貼ることもできる。
図書館教育	図書館の利用方法や読書についての指導をすること。
トライやる・ウィーク	兵庫県が中学2年生の生徒を対象に、子どもたちが地域の公共施設や民間事業所などにおける体験活動を通じて豊かな感性を育て、また、将来の目標を見つけることを支援する事業。平成10年度から始められた。
認定こども園	小学校就学前の子どもに対する教育・保育並びに地域における子育て支援の総合的な提供を行う施設。
複本	図書館で所蔵する複数の同じ本。
ブックトーク	読書意欲の喚起を目的として、グループを対象に、特定のテーマに関連する本を数冊選び、主な登場人物や著者、あらすじなどを紹介すること。
読み聞かせ	本を見せながら読んで聞かせること。親が子に、あるいは図書館員や保育士、保育教諭、教職員などが子どもの一人ひとりまたは小グループに対して行う。
レファレンス	図書館利用者の求めに応じて図書館員が必要な情報や資料を提供し、利用者の学習や調査などを支援する業務。
わかば教室	学校に行きたくても行けない子どもたちの心を安定させ、社会的自立や再登校に向けて支援する教室。

加古川市子どもの読書活動推進計画 (第4次)

発行年：令和7年（2025年）

発行：加古川市

編集：加古川市教育委員会 教育指導部 中央図書館

〒675-0101 加古川市平岡町新在家 1224-7

電話（079）425-5200

<https://www.city.kakogawa.lg.jp/>